

【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 中部西小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 1        | (1) 問題解決能力の育成 (2) 確かな学力の定着<br>(3) 児童の実態把握と指導方法の工夫  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | (1) ○課題を工夫したり教材研究をしたり、教職員間で意識して取り組むことができた。<br>○様々な場面で自分を表現する(あいさつ運動・落ち葉拾い・話し合い・書く等)児童が増えた。<br>(2) ○「家庭学習のすすめ」掲示用を配布し、手立てを示したことによって、家庭学習に取り組むことができるようになった。毎日の宿題で基礎学力を定着させていくことができた。<br>(3) ○到達度調査の結果を分析し、児童の実態に応じた指導に努めたことで、進んで問題に取り組む姿勢が見られた。  |   |
| 重点目標 2        | (1) 生活習慣の向上 (2) 心の教育の充実<br>(3) 問題行動の未然防止   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | (1) ○児童会の自主的なあいさつ運動推進により、元気にあいさつをすることができた。<br>○毎週金曜日には、きらきら金曜日と名づけて、より丁寧に清掃することができた。黙ってそうじに取り組む学年も増えてきた。<br>(2) ○各クラス年 1 回以上、保護者や地域に向けて授業公開を実施した。<br>○友だちに優しくしようという気持ちが高まった。<br>(3) ○いじめの定義に従って、どんな小さなことでも見逃さないように情報交換していくことで、子どもたちも安心して教室内で友だちと仲良く過ごすことができていた。  |   |
| 重点目標 3        | (1) 健やかな体づくり (2) 命を守る取り組みの推進<br>(3) 健康に関する教育の充実  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | (1) ○かけ足記録会と同じ距離を校内で走ったり、全校で記録カードに取り組んだりすることで、順位でなく記録に意識を向け走ることができた。<br>○学年に応じた基礎体力をつけるための指導を行い、運動能力が向上した。<br>(2) ○年間を通したふれあいパトロールを実施することで、子どもたちの安全意識がさらに高まった。<br>○学期 1 回の避難訓練、職員の不審者対応訓練など、様々な状況に合わせた訓練を行うことで安全意識が高まった。<br>(3) ○学年に応じた系統的な保健指導や食育の授業によって、自身の健康について考えることができた。<br>○熱中症対策のための、エアコン使用やミスト設置などで、自身の体調管理を意識できた。 |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 4        | コミュニティスクール・学校参画委員会の推進   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○学校公開では、保護者・地域のゲストティーチャーが学習活動を支え、ともに学ぶ姿が見られた。</p> <p>○まちかど音楽会は、地域・保護者の支えで毎年実施でき9年目になる。たくさんの人の前で歌声を披露することで、子どもたちの自信になっている。</p> <p>○プログラミング学習で学習支援ボランティアを活用することができ、子どもたちの学習意欲が高まった。</p> <p>○社会科（3年）「昔の暮らし」について、郷土資料室の実物を見ながら学習することができた。</p> <p>○学校参画委員会（年5回）を実施し、参画委員の意見を教育活動に生かすことができた。</p> |   |

## 2 改善方針

- ・子どもたちの問題解決能力をさらに高めるために、教職員の校内研修の充実を図る。
- ・児童の学力定着に向けて、少人数指導の仕方を工夫し活用していく。
- ・道徳教育の中で、人権・命について学ぶことはもちろん、ネットモラルについても、低学年からふだんの生活の中で指導していく。
- ・学校の申し合わせ事項を確認し、子どもたちが当たり前にならなければならないことに関しては、誰でも指導ができるようにしておく。
- ・系統性を考えた学校全体の年間計画を作成する。
- ・安全意識をさらに高めるために、交通安全教室を実施する。
- ・本校児童の実態に合わせながら、参加参画型の授業の活動内容を見直し、さらによいものに工夫していく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 浜田小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標1         | 確かな学力の育成  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>主体的に学ぶ子の育成として、本校の研修テーマである「共に学び合う授業の創造～子どもたちのつながりのある豊かな学び合いを目指して～」を実践するために今年度は、具体的な2つの手だて（①課題・発問の工夫及び児童に見通しを持たせる。②「聴く」ことを重視した対話を設定する。）として取り組んできた。</p> <p>教育活動に関する児童アンケートの「授業は分かりやすいですか」「友だちの思いや考えをよく聞いて（聴いて・訊いて）いますか」の項目では、十分・概ね十分と回答した児童は共に95%であった。共にやや不十分と回答した5%の児童への手だてが課題である。</p> <p>特別支援教育の推進として、月1回の校内特別支援委員会や職員会議後の報告会の実施、計画的な研修会に取り組んできた。この取り組みを通じて、特別な支援を必要とする児童を全教職員で見守ることはできた。しかし、特別支援学級籍の児童数が多く、一人ひとりの実態に合った支援が十分にできなかったことが課題である。</p> <p>教職員の力量アップについては、8年目となる11月の公開研究会に向けて、授業研究を中心に計画的に進めることができた。また、校外研修会へ積極的な参加体制を組み、環流報告を行ってきた。課題としては、1時間の授業が児童にとって確かな学びの場となるように、教師の「めあてと振り返りの設定」「明確な板書づくり」が課題としてあげられる。</p>  |   |
| 重点目標2         | 豊かな人間性の育成   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>道徳・人権教育の推進として、年度当初に仲間づくりのビジョンを立てた後、2回の振り返りの実施、全体提案授業など計画的な研修会の実施を通して、本校児童の実態を全体で確認し指導を進めてきた。教育活動に関するアンケートの「いじめを許さない態度の育成」の項目では、保護者、児童ともに十分・概ね十分と95%前後の回答があった。今後も教職員の人権意識の一層の向上に努めていく。</p> <p>居心地のよい学級づくりについては、月1回のいじめ防止対策委員会やいじめ調査後の教育相談の実施、道徳授業の充実、児童が交流し合う意図的な教育活動を進めてきた。教育活動に関する児童アンケートの「わからないことがあった時、『わからない』と書くことができますか」の項目に対しては、11%の児童がやや不十分・不十分と回答している。困った時に声を出せるような学級づくりや教師の在り方が課題となる。</p> <p>読書活動の充実については、朝の読書、図書館祭り、図書ボランティアの活用、語り聞かせなどの活動を行った。また、学級文庫も定期的に入れ替えを行うなどの環境整備にも努めた。教育活動に関する児童アンケートの「進んで読書をしていますか」の項目に対して、20%の児童がやや不十分・不十分と回答しているが、教職員の読書活動に対する取組意識との間に大きなズレが生じている。児童が「読書好き」と感じるような取り組みを考えていく必要がある。</p>                                      |   |
| 重点目標3         | 健康・体力の向上  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>体力・運動能力の向上については、2学期は朝のかけ足、3学期はなわとび奨励期間を設定し、全校で取り組みを進めてきた。教育活動に関するアンケートの「進んで運動をしたり、外遊びをしたりしていますか」の質問に対して、24%の保護者、23%の児童がやや不十分・不十分と回答している。自主的に体力・運動能力の向上に取り組めるようにしていくことが課題である。</p> <p>心と体の健康教育の推進として、各児童委員会が中心となって、あいさつ運動、学校保健委員会での「姿勢を大切にする」報告、なわとびの跳び方の指導などに取り組んできた。自分からあいさつができる児童がもっと多くなるように、今後も継続したあいさつ運動の取り組みが必要である。また、教育活動に関するアンケートの「約束やきまりを守る」の項目では、80%の保護者、91%の児童が十分・概ね十分であると回答し、保護者と児童の意識間にはズレがある。今後は家庭への情報の発信を増やし、連携をさらに図っていく。</p> <p>安全に対する意識の向上については、学期に1回の自然災害を想定した避難訓練を実施した。中でも、9月に行った避難訓練は中学校及び地域と連携し、2次避難場所への移動の訓練を行った。また、警察と連携した不審者対応訓練も実施した。教育活動に関する児童アンケートの「自分の命を守る方法を考え、理解し、身につけていますか」の項目では、91%の児童が十分・概ね十分と回答している。次年度も児童への安全教育をさらに充実させていく。</p> |   |

|                          |   |   |
|--------------------------|---|---|
| 重点目標 4                   | 地域とともに子どもを支える学校   | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>全員参加による学校経営については、各指導部長が中心となって、学校づくりビジョン達成をめざして具体的方策を設定し、振り返りを行い改善を図ってきた。課題としては、「教職員アンケートから否定回答が多かった『勤務時間内に効率的サービス運用を図る』こと」「若手教員の育成」「指導部を中心とした強い組織づくり」が課題としてあげられる。</p> <p>コミュニティスクールの推進として、今年度も年5回の定期実施を行った。会議の中で、委員の方に人材バンク作成における地域の人との連携調整役など、地域と学校をつなぐ役割を果たしてもらった。</p> <p>保護者・地域への情報発信については、今年度も保護者対象の学校説明会を4月に実施し、学校だよりや学級だより、ホームページへの掲載など、学校の様子を昨年度以上に発信することができた。教育活動に関する保護者アンケートの「各種通信やホームページなどで、学校やお子さんの様子は伝わっていますか」の項目では、十分・概ね十分と回答した保護者は9割を超えている。しかし、保護者アンケートの「学校運営協議会の活動について、理解し、協力することができたと思いますか」「学校は、保護者や地域の方々のボランティア活動を計画的に取り入れていると思いますか」などの項目では、わからないとの回答率も高く、情報発信の一層が課題となる。</p> <p>地域の教育力を活用については、各学年で地域の方を活用した授業を1回以上行い、外国語活動やクラブ活動、読み聞かせでは学校支援ボランティアの活用を行った。</p> |   |

## 2 改善方針

|   |
|---|
| <p>重点課題1：①教職員の力量アップは、多忙ではあっても教員相互に授業を見合い、意見交流をすることで図っていく。また、年間を通じた計画的な研修会を組んでいく。②特別支援学級児童への一人ひとりの実態に合った支援については、付けたい力を明確にして全教職員で共通理解すると共に、交流学級を含めた支援体制の見直しを図る。</p> <p>重点課題2：①道徳・人権学習については、今年度、年間を通じた計画的な研修会を組むことで、教職員の取り組みに対する意識改善が進んだ。次年度も継続して取り組んでいく。②困った時に声をせず一人で悩む児童の姿がある。Q-U結果の活用や教職員間の細やかな情報交換、児童が困った時に声をあげられる学級づくりを進めることで改善をめざす。③読書活動の充実については、全学年が毎週1回以上、授業時間に図書室を利用する取り組みと家庭との一層の連携を進めていく。</p> <p>重点課題3：①体力・運動能力の向上については、運動が苦手や嫌いと思って、休み時間に外遊びに出ない児童がいる実態がある。全校をあげて1日に1回は外遊びをするような取り組みを進める。②児童が進んであいさつができない実態がある。全教職員や委員会活動での取り組みを続けると共に、家庭との連携も図っていく。</p> <p>重点課題4：①勤務時間内に効率的な職務運用を図るために、勤務時間の効果的な運用に関する全教職員の意識改革、学年内や指導部内における協力、教材や文書などの活用などを進める。②地域の教育力の活用として、保護者・地域への一層の情報発信に努め、教育活動への連携や協働を進める。</p> |
|---|

## 自己評価書

四日市市立 塩浜小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標1         | 確かな学力の定着  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【項目】基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、問題解決能力を育みます。</p> <p>(1) 読む・話す・聞く・話し合う・書くなどの言語活動の充実<br/> (2) 「朝の読書」を含めた読書活動の推進<br/> (3) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり<br/> (4) 「家庭学習の手引き」の活用による家庭学習の習慣化</p> <p>&lt;成果と課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修において、国語科の授業改善に取り組んでおり、その中で、学習した内容を活用する場面を意図的に盛り込み、豊かな言語活動を生み出すことができた。</li> <li>・朝の読書だけでなくたてわり読書や異学年による読み聞かせも行った。子どもたちの取り組みに向かう姿勢や感想から意欲向上を図ることができた。</li> <li>・ペア・グループで話し合う機会を設定し、めあてをはっきりさせることで話し合いを深めることができた。</li> <li>・「家庭学習の手引き」を配付し、家庭での学習の取り組み方を伝えた。宿題だけでなく自主学習も一層奨励していく。</li> </ul>             |   |
| 重点目標2         | 豊かな人間性の育成   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【項目】一人ひとりを大切にし、認め合い・支え合う仲間づくりを進めます。</p> <p>(1) 全ての教育活動を通しての、道徳教育・多文化共生教育・人権教育の推進<br/> (2) 学習規律・生活規律の習慣化と規範意識の向上<br/> (3) 体験活動を積極的に取り入れた、豊かな人間性・社会性の育成<br/> (4) コミュニケーション能力を育む、異年齢集団による縦割り班活動の充実</p> <p>&lt;成果と課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校外で、出前講座や社会見学等多くの活動を取り入れ、学習意欲の向上につなげることができた。</li> <li>・遠足、運動会、児童会など、たてわり活動を通して、塩浜小学校ならではの異学年交流ができた。</li> <li>・学習したことを下級生に発表したり教えたりする場面を授業の中で位置づけ、自尊感情の向上につなげることができた。</li> <li>・子どもたち一人一人の情報共有を大切にした指導を行うことができた。</li> <li>・授業の中で、学習の導入時に異学年で教え合う場面等を設定する等のさらなる工夫を続けていく。</li> </ul> |   |
| 重点目標3         | 健康な心と体の育成   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【項目】自分の心と体の健康や安全を意識し、行動できる子どもを育みます。</p> <p>(1) 自ら進んで運動する態度の育成と、体力・運動能力の向上<br/> (2) 心身の発達段階や特性に応じた、健康教育・食育の推進<br/> (3) 自ら学び・考え・行動する安全教育の推進<br/> (4) 「自分の命と仲間の命を守る」自助・共助の力を育む、防災教育の推進</p> <p>&lt;成果と課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく外へ出て遊ぶ児童が多いので、さらに体力を向上させる環境づくりや授業改善にも取り組んでいく。</li> <li>・学年に応じた体の学習を積み重ね、自他の体や命を大切にする子の育成に取り組むことができた。</li> <li>・各学期ごとに、児童の発達段階や学習内容に応じた食育を栄養教諭が実践し、子どもたちの残菜減への意識につなげることができた。</li> <li>・避難訓練日以外にも、日常的に防災について意識づけができるように指導を続けていく。</li> </ul>   |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 4        | 特別支援教育の充実   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【項目】一人ひとりの子どもの特性や能力に応じた、適切な指導・支援を行います。</p> <p>(1) 不登校の未然防止・早期対応のための校内支援体制の充実<br/> (2) スクールカウンセラーを活用した教育相談の充実<br/> (3) 特別支援教育コーディネーターを中心とした、校内特別支援委員会の充実<br/> (4) 学校教育環境や授業のユニバーサルデザイン化の推進</p> <p>&lt;成果と課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の職員と情報交換を密に行い、児童の様子について多面的に把握した指導ができた。</li> <li>・スクールカウンセラーによる授業参観や給食での交流を通して、課題のある児童の把握に力点を置いた。子どもたちが自ら相談室を訪ねたり、予約をしたりする姿も見られた。その後、担任と情報共有することができた。</li> <li>・特別支援教育担当教員を中心に、教職員間で連携を図り、児童の課題を共有して取り組みを進めることができた。</li> <li>・教室の前面から視覚的刺激をできるだけ減らすことができた。</li> <li>・どの子にもわかりやすい指示し、また学習の見通しが持てるよう、課題を順番に提示するように学校全体で方策を決めた。不登校児童の減少につなげることができた。</li> </ul> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 5        | 地域とともにある学校づくりの推進  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【項目】学校・家庭・地域が連携・協働し、塩浜地区の未来を担う子どもを育みます。</p> <p>(1) コミュニティースクールの活用と充実<br/> (2) 学校から家庭・地域等への積極的な情報発信<br/> (3) 学校教育環境整備・登下校指導・学習支援等における、PTA・地域との連携<br/> (4) 地域の伝統・文化・自然・産業等、地域資源を活用した特色ある教育の推進</p> <p>&lt;成果と課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町歩きや地域企業の出前授業等の活用で塩浜地区の良さを再確認することができた。</li> <li>・学級・学年通信やホームページなど、積極的に情報発信をするようにした。</li> <li>・定期的な登下校の見守り活動を教職員だけでなく、保護者・地域と一緒に取り組んできた。その結果、事故を未然に防ぎ、児童の安全を保持することができた。</li> </ul> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 6        | 教職員の資質・能力の向上   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【項目】子どもたちの生きる力・共に生きる力を育むため、教師力の向上を図ります。</p> <p>(1) 「学びの一体化」推進による、保こ小中の連携強化と教育活動の充実<br/> (2) 各種研修会やOJT等の活用による、教師力向上のための研修の充実<br/> (3) 同僚性を大切に、相互に高め合う意識をもった職員集団の醸成<br/> (4) 柔軟性や創造性をもち、主体的に学校運営に参画する教職員の育成</p> <p>&lt;成果と課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、すべて単級でクラス替えのない環境の中、児童は発展した人間関係構築しにくい状況がある。そのことを職員全体で共通理解し、異学年交流を積極的に仕組み、児童間の交流や自分の役割に気づいて主体的に活動する姿につなげることができた。</li> <li>・外国語の研修や情報機器の研修など、必要な研修を随時行い、力量向上を図ることができた。</li> <li>・一人ひとりがリーダーとしての自覚を持ち、連携しながら教育活動に邁進することができた。</li> <li>・学校全体を全職員で見守っていくことができるよう、常に情報交換を行った。</li> <li>・今年度は、運動会や持久走の在り方を大きく改善することができた。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点目標の項目はどれも大切だが、特に大切にしたい項目を常に共通理解して学校全体で取り組んでいく。</li> <li>・小さな職場で、少ない職員だからこそ、学校行事や会議等について、お互いに協力しつつ、内容の精選を図る。</li> <li>・内容の精選を図る中で、子どもたちの成長に効果があると考えられるものは、継続や改善を図り、効果が薄い取組等は検討していく。</li> </ul> |
|---|

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 羽津小

学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

| 重点目標 1                   | 確かな学力の定着  | 4 |
|--------------------------|---|---|
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な知識・技能の定着               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐんぐんタイムにおいて読書、国語科や算数科の練習問題に取り組む。</li> <li>・読書を習慣化するために、朝読書、家庭読書に取り組んだり、読書ボランティアの協力で、読み聞かせ会を実施したりする。</li> <li>・「家庭学習のてびき」を配布し、家庭学習を習慣化するために、毎日宿題に取り組む。</li> </ul> </li> <li>○問題解決能力の向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが問いを持ち、探求する課題設定・手立てを工夫する。</li> <li>・第3プロセスでは個々の考えを持たせるための時間を、第4プロセスでは話し合いの時間を保障していく。また、ホワイトボードを活用しグループ学習を活発化させる。</li> </ul> </li> <li>○特別支援教育の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期ごとに支援計画の確認と支援方針の見直しを行う。</li> <li>・委員会で各ニーズの集約・共有・事例検討を行い、共通理解に基づいた支援を行う。</li> <li>・支援を必要とする児童について、全職員による情報共有と共通理解を図る。中学校区における児童生徒の指導の連携。</li> </ul> </li> </ul> <p>【成果】</p> <p>学力アセスメントでは、ほとんどの項目で全国平均や県平均を上回る結果を維持することができた。今までの方策の継続と更なる向上をめざし、新たな方策を試みる。</p> <p>子どもが問いを持ち探求していく授業スタイルが定着しつつある。自分の考えをしっかりと持ち、学び合う活動を重視することで、表現力の向上につながった。</p> <p>地域と連携した体験的な学習を進めることができた。</p> <p>児童や学級が支援を必要とする場面において、校内特別委員会やケース会議など通じて、職員全体でサポートを実施することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>「読み聞かせ会」を定期的実施したり、読書週間の取り組み等を進めたりすることで、児童の学校での「読書の習慣化」は図れてきている。しかし、「家庭での読書の習慣化」には課題が残る。家庭に向けての啓発を行っていく必要がある。</p> |   |
| <p>重点目標 2</p>            | <p>心の教育の充実</p>  | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人権を尊重する仲間づくりの推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・視点児を通した仲間づくりの推進（学級遊びやきょうだい学級による児童集会の計画。人権授業に関わる交流会や研修を通して教員の実践力をつける。）</li> <li>・いじめアンケート、QI調査等の実施と教育相談を行い、児童理解に努める。</li> </ul> </li> <li>○規律ある生活の確立               <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをすることを通して、コミュニケーション力を伸ばす。</li> <li>・全校や学年・学級による指導の徹底（集会などで全体指導、学級会での話し合い、児童会の呼びかけ）</li> <li>・啓発新聞やポスター掲示を通しての規範意識の向上。</li> </ul> </li> </ul> <p>【成果】</p> <p>児童へのアンケート「友だちの気持ちをたいせつにしている。」では、97%が肯定的に回答。また、「自分のことを分かってくれる友だちがいる。」と感じる児童は95%という結果であった。全学年での「なかまづくり」への取り組みや、QI調査等を活用した教育相談や結果の検証を行うことが、成果へとつながった。</p> <p>【課題】</p> <p>児童アンケートでは、挨拶をきちんとしていると肯定的な回答が95%であるが、保護者は85%と差が大きい。相手の顔を見て、聞こえる声で挨拶ができていないのではないかと推察する。相手に伝わってこそその挨拶であることを指導していく必要がある。</p>   |   |
| <p>重点目標 3</p>            | <p>健康・体力と安全意識の向上</p>  | 4 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○健康の維持・向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>・早寝早起朝ごはんの確立、歯磨きカレンダーへの取り組み、発育測定時の保健指導の実施。</li> <li>・教科学習の単元に合わせたり、給食指導に関連付けた食教育の実施。</li> <li>・食物アレルギー管理の徹底</li> </ul> </li> <li>○体力・運動能力の向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科の授業での5分間運動、めあて振り返りの位置づけ</li> <li>・新体力テストなどの分析を通して、児童の運動能力の実態を把握し、取り組みを進める。</li> <li>・運動好きの子どもを育む授業づくり、授業での基本運動の充実となわとび運動の取り組み。</li> <li>・休憩時間の過ごし方において、クラス遊びを推奨し進んで運動をする児童を増やす。</li> </ul> </li> <li>○安全な学校づくり               <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室・防犯教室の実施。</li> <li>・避難訓練年3回の実施、防災学習の実施。</li> </ul> </li> </ul> <p>【成果】</p> <p>食物アレルギー管理に関して、給食担当、学校栄養補助員と連携し、個々の児童への対応を行うことができた。対応児童の持参する弁当を保管に対する安全意識を全教職員で確認し、対応することができた。</p> <p>体育授業時の5分間運動の継続など、児童の体力向上への取り組みを充実することができた。保護者アンケートの「学校は体力の向上に取り組んでいると思う。」に、96%の回答を得られた。</p> <p>【課題】</p> <p>三重学力向上県民運動チェックシートを活用し、生活リズムチェックを行い、児童への指導に生かすことができた。しかし、取り組みへの意識が低い保護者もいる。保護者と児童の意識に相関性があると思われるので、両者の意識の向上につながるような啓発を行っていく必要がある。</p>   |   |

|        |   |   |
|--------|---|---|
| 重点目標 4 | 家庭や地域とつながる学校  | 3 |
| 主な方策   | <p>【方策】</p> <p>○開かれた学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動アンケートをもとに、学校づくり協力者会議と連携した学校評価を行い、PDCAサイクルによる学校づくりを進める。</li> <li>・学校だより・学年だより、ホームページ等による情報発信の充実。</li> <li>・授業参観・学校公開・学校行事（学校集会など）の充実</li> </ul> <p>○保護者・地域との連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や保護者による教育支援ボランティア（安全・読み聞かせ・学習支援等）やゲストティーチャーの活用を進める。</li> <li>・歴史学習、地場産業（万古焼）学習への取り組み</li> </ul> |   |
| 成果と課題  | <p>【成果】</p> <p>授業参観など年間計画通り実施でき、保護者アンケート「学校の様子を見る機会を十分に行っている。」「たよりやホームページから学校の様子がわかる。」ともに、数年継続して高い支持を得られている。今後も開かれた学校づくりを進めていく。</p> <p>読書週間における読み聞かせや学習支援などを、PTA保護者ボランティアにて継続的に行うことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>地域の在住者や組織による「学ぶ」場を設定し、実施することができた。全学年での実施を目指し、教育課程に沿った形で地域の教育力の活用を考えていく必要がある。</p>  |   |

|        |  |   |
|--------|--|---|
| 重点目標 5 | 学校の教育力の向上  | 4 |
| 主な方策   | <p>【方策】</p> <p>○確かな教師力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の方法の改善、OJTの活用を行う。</li> <li>・先進校視察の奨励・還流報告の実施。教育アドバイザーの活用。</li> <li>・保幼小中の合同学習や行事などを通じた交流を行う。</li> </ul> <p>○教職員の学校づくりへの参画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種計画に学校づくりビジョンとの関連を明記する。</li> </ul> <p>○各種会議や業務の改善・効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部内・部相互の情報共有によるニーズを加味した提案の実施。</li> <li>・月3回の定時退校日の設定、通信による保護者への周知</li> <li>・前期は20時、後期は19時までの退勤の奨励。</li> </ul> |   |
| 成果と課題  | <p>【成果】</p> <p>教育支援課による「課題づくり研修会」を実施したり、研修会の形態を工夫することにより、学びの多い研修を進めることができた。</p> <p>各種計画に学校づくりビジョンとの関連を明記することで、よりビジョンを意識した提案、実施ができた。</p> <p>【課題】</p> <p>定時退校日の設定などにより、退勤時刻を一人一人が意識することはできたが、前期20時、後期19時の目標を達成することは難しかった。今後の課題として方策を探っていききたい。</p>  |   |

## 2 改善方針

|   |
|---|
| <p>・児童アンケート「学校に来ることが楽しい。」では、昨年度と同様、楽しいと感じる児童が90%を超えていた。しかし、学校生活に対しての不安や悩みを抱えている児童はまだ多い。一人一人の児童としっかりと向き合い、適切な支援をしていくとともに、児童が活躍できる場や認められる場となるような授業や行事、学級づくりに努めたい。</p> <p>・「あいさつをきちんとしている。」では、継続的な取り組みを続けてきたことで、児童アンケートでは90%以上の肯定的な回答が4年間続いている。しかし、保護者アンケートの回答では肯定的な回答は90%に届かず、「立哨していても挨拶をしない児童がいる。」との声も聞かれ、児童と保護者の意識に差がある。児童の挨拶の声小さかったり、相手を見ずにあいさつしたりする姿も見られることが意識の差の原因の一つだと考えられる。児童へは「挨拶は人に伝わってこそ」「挨拶は「相手の存在を認める言葉である。」ことを伝えていくとともに、引き続き、家庭や地域と密接に連携した取り組みが必要である。</p> <p>・保護者や地域の人々の学習参加や地域に学ぶ学習の推進について、今後も、地域性を生かした教材の開発に努めていきたい。</p> |
|---|



【様式 1】

自己評価書

四日市市立 海蔵小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 1        | ○毎日の授業の充実<br>1時間1時間の授業を、子どもたちが「考える楽しさ」「学ぶ楽しさ」を味わい「わかった」「できた」「力がついた」と実感できるものに高める。   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○つけない力を明確にした系統性のある指導</li> <li>○研修委員を中心とした学年・校内で学び合う体制</li> <li>○教職員支援システム等による個人研修の活性化</li> <li>○地域指導者による学習支援</li> <li>○学習環境の整備 など</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「子どもにつけない力」を設定したことで、より注意深く子どもたちを見つめられ、具体的な手立てを検討し、子どもの実態に即した指導を進めることができた。</li> <li>○めあてや課題を提示したことで、見通しを持って、「わかる」「できる」と実感している子が増えてきた。</li> </ul>   |   |
| 重点目標 2        | ○友だちと仲良くする<br>道徳的実践力を育てるとともに、自尊感情（自分のよさに気づき、自分をかけがえのない存在として感じる）を高める。言葉に気をつける、笑顔で接する。   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内における人権に関わる授業研究や内面をゆさぶる指導の工夫</li> <li>○児童の気持ちを受け止め、教師と児童、児童相互の温かな人間関係を構築する</li> <li>○仲間づくり研修会の実施</li> <li>○四同研の提案や研修会への参加 など</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人権教育推進計画に沿って、全職員共通理解のもと「仲間づくり」を進めることができた。仲間づくり研修会を通して学年の教師全員で子どもを理解し、自尊感情を高められるような取り組みを行うことができた。</li> <li>○自分や友だちを大切にするとはどういうことか、日々の学校生活の中で具体的に指導を積み重ねていく。校内における人権に関わる授業研修や集団づくりについての仲間づくり研修を通して、教職員の人権意識を高め、授業に生かす。</li> </ul>  |   |
| 重点目標 3        | (子どもたちに求める態度) 誠実な態度 規律ある態度 勤勉な態度<br>○チャイムで始める授業<br>○課題に全力で取り組む姿勢   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学年・全職員による統一した指導 ○家庭・地域との連携 ○環境整備</li> <li>○予鈴を用いた時間遵守の意識づけ ○主体的に取り組める課題づくり</li> <li>○1時間目開始前の落ち着いた雰囲気づくり（朝の読書）</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○予鈴を鳴らすことで、学習の準備を始めることが定着しつつあり、チャイムとともに学習を始めることができるようになってきた。しかし、まだ授業の準備が間に合っていない子どももいる。引き続き、学校のきまりをまとめた冊子「海蔵っ子になろう」をもとに、全教職員で日々声を掛けながら今年度以上に習慣化させていく。</li> <li>○家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の内容・分量（学年×10分）について話し合ってきた。今後も学年便り等で「家庭学習への取り組み」の大切さを伝えていく。</li> <li>○学習支援ボランティアとして、保護者や地域の方の協力を得て、子どもたちの学びをより豊かなものとすることができた。</li> </ul> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 4        | (子どもたちに求める態度) 誠実な態度 規律ある態度 勤勉な態度<br>○朝のあいさつ、授業の始めと終わりのあいさつ ○だまって掃除をする、後片付けまできちんとする ○きまりをまもる   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | 【主な方策】<br>○学年・全職員による一致した指導 ○生特委員会や打ち合わせ等による情報共有 ○学びの一体化の推進<br>○学校からの情報発信 ○家庭・地域との連携(コミュニティスクールの推進) ○環境整備<br>【成果と課題】<br>○校舎移転に伴い、「こんな海蔵っ子になろう」を見直し、子どもたちへの指導について全職員による共通理解を図ることができた。また家庭にも協力を得ながら、年間を通して指導に生かすことができた。<br>○全学級で授業はじめとおわりのあいさつを行うことで、授業と休みのスイッチのかわりとなることができた。<br>○新校舎をいつまでも美しく使うため、清掃活動を重視し、最後までしゃべらず掃除をすることに取り組んだ。また、自ら汚れを落としたりふいたりできるよう環境を見直すことで、少しずつの姿があらわれてきた。<br>○地域と連携しながら、児童の登下校時のあいさつの現状を知り、指導に生かした結果、あいさつできる子が増え、よくなってきている。しかし、週明けの朝のあいさつには課題が残る。 |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 5        | (子どもたちに求める態度) 誠実な態度 規律ある態度 勤勉な態度<br>○体育の授業や体育的行事を、運動の楽しさを感じられるものにする<br>とともに、運動機会をできるだけ多くして体力を高める。  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | 【主な方策】<br>○授業始めの5分間運動の実施 ○全校での体力テスト実施と分析<br>○持久走・縄跳び運動の実施<br>【成果と課題】<br>○体育的行事がよりよい活動となるように、PTAや地域の方と連携し、協力して取り組むことができた。<br>○5分間運動では、主運動に繋がる運動を提案し、取り組むことができた。主運動では、つけたい力を意識した授業を構築してきた。しかし、適切な説明や場の設定、全員の運動量の確保などに改善が必要である。<br>○体育の授業や行事で、教職員の一致した指導の下、服装を整えて取り組んできた。体操服の貸し出しを行ったことも良かった。しかし、完全に定着しているとはいえない。また、貸出用体操服は返却されていないなどの課題が残った。<br>○行事に取り組むときに、準備の段階から、行事のめあてを共有して指導することができた。<br>○学習課題の提示のためのホワイトボードは、授業のめあてをはっきりさせ、学習のまとめに有効な手立てであるが、活用できない時があり、毎時間徹底されるまでには至っていないようである。 |   |

## 2 改善方針

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてや課題を提示することで見通しをもたせ、授業で分かったことを振り返ることができる活動を取り入れた授業づくりを今後も研修として進めていく。</li> <li>・子どもの意欲を喚起するようなめあてや課題の工夫を更に行うとともに、話したりきいたり伝え合ったりする場を十分に保障する。</li> <li>・指導者の肯定的な評価によって、子どもの学習意欲を喚起するとともに、自信とやる気をつけさせていきたい。それを繰り返すことによって、子どもたちの自尊感情・自己肯定感の向上につなげていく。</li> <li>・始業前の準備を定着させるために、全教職員が声を掛け合い、習慣化させていく。</li> <li>・家庭学習の手引きを年度初めや、学期初めに確認する。また、学年通信等で家庭に啓発をし続ける。</li> <li>・朝の読書では、読書の良さや面白さを実感できるように、読み聞かせ、朝読コーナー、図書館まつりなど図書館教育を充実させていく。</li> <li>・「こんな海蔵っ子になろう」の実現に向け、週に1度の打ち合わせで情報共有をし、全職員で統一した指導ができるようにしていく。</li> <li>・体力調査の結果から、学年別・運動別・系統別でデータ分析をしていく。その上で、その学年の強み弱みを明確にしていく。また、弱みを克服できるよう授業改善に取り組む。</li> <li>・令和2年度は、1学期間運動場が使えないため、子どもたちの遊び場や運動時間の確保をさらに検討していく必要がある。</li> <li>・毎時間のめあてと振り返りを確実にし、運動の楽しさを感じられる授業をつくりあげていく。</li> </ul> |
|---|

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 富洲原小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標1         | 確かな学力の定着   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○問題解決能力向上を目指した授業実践</li><li>○学習規律・学習ルールの徹底</li><li>○朝のベーシックタイムの推進</li><li>○算数少人数授業の工夫と充実</li><li>○教材の工夫とICT機器の活用</li><li>○家庭学習の習慣化と内容の充実</li></ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全国学力学習状況調査やみえスタディチェック等の結果からは、粘り強く設問に取り組む姿がみられた。基礎基本の問題は定着しており一定の指導の成果はみられるが、今後は深い学びや読解力をつけていくことが課題である。</li><li>・子どもたち自身が「自分はこんな力がついた」「こんなことができるようになった」と、自らの成長を自覚できるように働きかけていく必要がある。</li></ul>                            |   |
| 重点目標2         | 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○アンケートや教育相談等の機会を通じて、いじめ等の早期発見・早期対応</li><li>○日常的な人権学習及び地域人材や外部講師を活用した人権教育</li><li>○校内外生活のルールの指導の徹底</li><li>○個々の特性、成育歴、家庭環境等の把握と、関係機関・専門機関との連携による個に応じた対応</li></ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「いじめアンケート」や「学級満足度調査（Q-U調査）」を実施し、それに基づいて早期発見、早期対応に努めた。生徒指導上の問題については、学年や専科教員等も積極的に関わり組織として対応できた。</li><li>・児童会が中心となり、いじめゼロキャラクター「いじめやめないか」の取り組みをおこなったり、学校をきれいにする「ピカピカ中大作戦」など、児童が意識しやすいような取り組みを行った。</li></ul> |   |
| 重点目標3         | 健康・体力の向上と危機管理能力の定着   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○5分間運動の定着とめあての明確化による体育科授業の充実</li><li>○「鉄棒」「とび箱」「持久走」「なわとび」強化月間の実施</li><li>○児童や地域の実態に応じた防犯・防災訓練、交通安全指導の実施</li><li>○養護・栄養教諭による定期的な保健指導、食育指導の充実</li></ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・体力テストの結果が全国平均を上回り、運動のねらいや適性に応じた指導を行った成果として表れた。</li><li>・防災訓練や防犯、交通安全指導については、地域の自主防災組織と児童が合同訓練をおこなったり、地域の組織と連携して取り組みを進め、児童の意識を向上に努めている。</li></ul>  |   |

|        |  |   |
|--------|--|---|
| 重点目標 4 | 地域とともにある学校づくりの推進   | 4 |
| 主な方策   | <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小中一体のコミュニティスクール「三錨CS」による、地域・家庭・学校が一体となった学校づくり</li> <li>○学校情報の適切な発信と公開</li> <li>○地域・外部人材や保護者を活用した教育活動</li> <li>○地域団体と連携した教育活動</li> <li>○積極的な授業公開・学校公開</li> <li>○保育園・幼稚園・中学校との連携による「学びの一体化」の充実</li> </ul>                        |   |
| 成果と課題  | <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一体のコミュニティスクール運営により、入園から中学校卒業までの育ちの連続性の視点で意見をいただくことができた。</li> <li>・学校だよりや学年・学級通信、保健・給食・図書館だより、学校ホームページ等で、学校や子どもの様子が伝わるよう情報提供に努めてきた。</li> <li>・地域の人材による地域歴史学習や理科学習、人権学習などの交流行事、外部人材による国際理解教育など、地域・外部人材を積極的に活用した。</li> </ul> |   |

|        |  |   |
|--------|--|---|
| 重点目標 5 | 学校教育力の向上   | 3 |
| 主な方策   | <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研修の充実</li> <li>○PDCAサイクルによる教育活動の工夫・改善・向上</li> <li>○安心して学校生活を送ることができる教育環境の整備・充実</li> </ul>  |   |
| 成果と課題  | <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲が高まるような授業づくり、個に応じた対応を図り、学力定着を目指していきたい。</li> <li>・学習めあての明確化、共に考え話し合う場の設定、学習後の振り返りの充実などに努めていく必要がある。</li> <li>・道徳や英語などの教科化に伴い、子どもたちの実態に応じた指導ができるよう、指導内容や評価の在り方について研修を深めていきたい。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

- ・新学習指導要領の実施にあたり「主体的で対話的な深い学び」の理念を改めて教職員で共有し、時代のニーズに応じた学校運営を進めていく。
- ・道徳や外国語活動の教科化、プログラミング教育などの新しい教育課題にむけて、より効果的に指導がなされるよう、教員研修の機会を設けたり、授業にタブレットなどのICT機器を積極的に活用していく。

【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 富田小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|                          |   |   |
|--------------------------|---|---|
| 重点目標 1                   | 確かな学力を定着する  | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的・基本的な学力の定着のために、漢字習熟・計算習熟・視写、朝学の取り組みを行った。学年配当漢字の90%以上が書ける児童は、全校児童の98% (2学期) となった。視写は、設定時間内での学年目標筆記字数に達する学年が増えてきた。計算については、学年重点計算問題の習熟に、取り組んでいるところである。朝学については、一日の学習の始まりとして子どもたちに定着してきているが、学年ごとに進め方の違いが見られるようになってきた。</li> <li>・ ICTを活用した授業の充実のため、タブレットの活用についての職員研修やICT機器などの整備を行った。各教室で日常的にICTの活用を試みようとする傾向もある。引き続き、学力向上への効果的な活用法を共有していく必要がある。</li> <li>・ 学力学習状況調査、CRT到達度検査、みえスタディチェックの結果を基に授業改善を行った。学調については、結果から本校児童の特徴を把握するための研修会を行い、全教員が授業につなげるための視点を持つことができた。CRTについては、強み・弱みを分析し、同一学年集団として経年の変化と手立てをまとめて共通理解を図り、授業実践につなげた。スタディチェックについては、採点を他学年教員でも分担し、学力の傾向を共有した。</li> <li>・ 読書の取り組みについては、校内読書週間、ボランティアや教師による読み聞かせに取り組んだ。低・中学年では、本の楽しさを知り親しむ姿が多く見られた。一方で、学校アンケートの結果より、家庭では読書に取り組む機会が少なくなっているようなので、家庭とも連携し読書活動の一層の充実をはかっていく必要がある。</li> </ul>   |   |
| 重点目標 2                   | 心の教育を充実する   | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳の授業改善について職員研修を行った。さらに、学年の児童の事態に応じた教材開発や授業づくりについては、今後も深めていく必要がある。</li> <li>・ 年2回の教育相談、年3回のおいじめ調査、3年生以上を対象とした年2回のQU調査により、各学級や児童の実態を把握し、その結果を学級経営に役立てるとともに、学年間及び職員間で児童の共通理解を図り、対処した。3年生については、質問内容を理解させることに時間がかかったり、理解できているのか分からなかったりして、来年度も実施するのか検討が必要である。</li> <li>・ 毎月の職員会議の「児童情報交換」にて、各学級や児童の実態を報告し、職員間での共通理解を図るよう努めた。早急に職員間で共通理解を図らなければいけない場合は打ち合わせ等で集まり、共通理解を図り、問題解決にあたった。また、月1回生指委員会をおこない、子どもの実態に応じた指導の確認や、問題行動報告にあがる児童の情報確認をおこなった。</li> <li>・ 職員からの声かけを徹底したが、雨天時や、廊下が寒い時はまだ走ってしまう児童がいたので、代表委員会が自主的に呼びかけをおこなった。成果は見られたが、まだ走ってしまう児童がいる。</li> <li>・ 代表委員会の毎朝のあいさつ運動により、あいさつする児童が増えた。</li> <li>・ 「学びの一体化」では、各校園の指導の重点を確認し、保幼小中で気になる児童・生徒の情報交換を行って連携を図り、各校園の指導にいかした。</li> <li>・ 年2回の「ふれあい集会」として“思いやりのある子”の育成をねらいとし、全校児童で取り組んだ。“ふれあい班”の人たちと協力することの大切さや友だちのよさに気づくことができ、上級生は下級生を思いやる気持ちをもつことができた。2回目の集会では“昔遊びコーナー”として「地域の方」にも協力を仰ぎ行うことができた。また、ふれあい集会の前に児童集会で「地域の方と昔遊び」を紹介することで、より密な交流になった。</li> <li>・ 月1回特別支援委員会をおこない、特別支援C〇を中心に、支援や配慮の必要な児童について、様子や実態を関係職員で把握し、手立てについて話し合い、連携を図った。特別支援委員会の協議内容は、職員会議で全職員に共有した。</li> </ul> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 3        | たくましい心と体をつくる   | 2 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会をはじめ、かけ足週間、なわとび週間（長縄・短縄）、長縄記録会などの取り組みを通して体力向上に努めてきた。体力向上を目的とした授業改善のための研修会を行い、子どもたちが運動のおもしろさを感じられる授業づくりに取り組んできた。</li> <li>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実技調査では、5年生女子はABC判定の児童が8割を超えているが、男子は6割に満たない割合であった。引き続き、授業や様々な取り組みの中で体力向上に努めていく必要がある。</li> <li>・栄養教諭を中心とした食育指導、保健室前の掲示物や給食だよりの取り組みを通して、食の大切さを伝える活動を実施してきた。</li> <li>・養護教諭を中心として、保健室前の掲示物や保健だよりの取り組みを通して、継続的な保健指導を行ってきた。歯磨きや怪我の手当、早寝早起き、第二次性徴などの学習も発育測定時に積極的に指導してきた。</li> <li>・学校保健委員会では、学校医の先生と連携し、体験的な学習を取り入れた活動を児童主体の形で実施し、朝ごはんについて考える機会を設けてきた。</li> <li>・「学びの一体化」の体力部会では、各保幼小中での取り組みを交流するとともに、実技実践の交流会を持つことができた。</li> <li>・保健だよりなどを通して、子ども達の生活リズムを改善する取り組みを行ってきた。保護者への啓発を促すため中学校と連携し、睡眠についてのチェックシートを作成して、10月に小中一斉で取り組みを行った。さらなる改善を努めるためには保護者への啓発が欠かせない。今後も保護者への発信を継続していきたい。</li> </ul> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 4        | 学校教育力を高める   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上をめざした授業研究の推進として、すべての提案授業に指導主事の要請を行い、助言をいただくことで授業力の向上に努めた。また、昨年度より多く県外研修会に参加し、還流報告を通して共有を図ったり、大学連携で三重大大学の教授に研修会に招くなどしたりして授業力向上も行った。課題としては、全職員が参加する授業研では、内容を共有できるが、学年単位で行う授業研究は指導主事の方の助言を全職員に共有することができなかった。</li> <li>・教職員の資質向上の取り組みでは、年4回の人権・同和教育推進研修会を実施し、職員の人権感覚を養う取組を行った。今年度は取組の進捗状況を客観的にとらえるために、QU調査を活用し、1回目の調査後に指標となる子を設定し、取り組みを通して、どのような変化が見られたかを2回目の調査で検証し、取組が有効であったかを討議した。</li> <li>・保・幼・中との連携については、内容を見直し、精査できるところは精査し、必要な連携内容に変更した。今後も必要な連携を検討しながら進めていければと思う。</li> </ul> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 5        | 家庭・地域とともに子どもを育てる  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と連携して学習習慣を育成するため、今年も「家庭学習の手引き」を保護者に配付し、学校づくり説明会や懇談会でも説明を行ってきた。通信での自主学習ノートの紹介、家庭学習カードでの保護者による確認や家庭読書の協力依頼なども行ってきた。ほとんどの保護者の協力を得ることができ、多くの児童が家庭学習は定着してきている。家庭学習が定着しにくい児童は一定数いるため、継続的に指導が必要である。</li> <li>・地域の伝統行事である「くじら船」の学習をはじめ、クラブ活動や学校行事の「ふれあい集会」などで、地域の方を招き、有意義な学習活動を行った。</li> <li>・学校の様子をより多くの方に知って頂くために、「学校だより」「学年だより」「ホームページ」等を活用しているが、個人情報について全職員の共通理解のもと、十分な配慮が必要となってきた。</li> <li>・地域の「ひと、もの、こと」との出会いを大切に活動を進めるため、学年ごとに活動を計画し、ゲストティーチャーを招いたり、地域に出て見学したり話を聞いたりして学習を進めた。学んだことを授業参観時に保護者に発表したり、掲示物にまとめて全校に発信したりする学年もあった。地域の方の話に興味を持ち、それをきっかけにさらに深めていこうと意欲を示す様子が見られた。新しく地域の人材を発掘して活動を充実させた学年もあった。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

### 学校教育力

- ・教職員の他校への研修会参加者が少ないため、校外の研修会や県外研修会にも積極的に参加することで、指導力の向上につながるように、参加しやすい体制をつくっていく。

### 学力

- ・朝学、補充学習の位置づけや方法について、検討を行いながら、児童の学力の底上げに努める。
- ・ICTを活用した学力向上につながる授業での効果的な活用に向けて、より多くの職員が実践できるよう研修を行う。

### 体力

- ・体力向上につながる授業づくりを目指すために、来年度も体育の授業改善研修会を行う。
- ・運動会をはじめ、かけ足週間、なわとび週間（長縄・短縄）、長縄記録会などの取り組みを、より充実した取組にしていくために、取り組み方や期間について、検討を行う。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 日永小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 1        | 確かな学力の育成  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○朝学習を実施し、基礎基本の学習を繰り返し行うことで学力が定着してきた。</p> <p>○家庭と連携し、家庭学習(プラサツ)の充実を進めることができた。保護者向けに手引きを配布し、優良な児童ノートを掲示するなど、主体的に取り組めるよう工夫できた。</p> <p>○グループ活動、ペア活動の時間を増やし、児童が互いに「話す・聴く・考える」ことで気づきあい、学び合うことができた。</p> <p>○司書・ボランティアと連携し、本に親しむ子どもの育成に向け取り組めた。</p> <p>○全学年でノート指導に力を入れ、課題の明示・振り返りを書き、課題解決の課程がノートに残るように工夫した。保護者アンケート「学力の定着を図っている」の項目で96%の評価を得ることができた。</p> <p>○日永っ子10の準備を徹底させることで、学習習慣が身についてきた。</p> <p>●より学力を定着させるために、日頃の授業や児童支援、朝学習や家庭学習のあり方について継続的に見直しをしていく。</p> |   |
| 重点目標 2        | 豊かな人間性の育成   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○学校は楽しい場であり、満足と感じている児童・保護者が多く、児童アンケートで90%、保護者アンケートで97%の回答を得られた。</p> <p>○いじめや差別を許さない態度や判断力、他者を尊重し互いを高めあう力の育成について、児童アンケートで97%、保護者アンケートで95%の肯定的回答があり、本校の人権教育の取り組みに成果が出ている。</p> <p>○特別支援教育では、校内コーディネーターを中心にSCや関係機関と連携して児童支援の具体的な方法を検討し、実施できた。</p> <p>○仲間づくりを意識して、運動会や長なわ集会などの行事に取り組むことができた。</p> <p>○繰り返し指導することで、あいさつができる児童が増えた。</p> <p>●児童アンケート「自分のことが好きである。」の回答が73%にとどまっているが、昨年よりは4%上昇した。引き続き自己肯定感を育てる取り組みに力を入れていく必要がある。</p>                                |   |
| 重点目標 3        | 健康な心と体の育成   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○新体力テストを全学年で実施し、その結果分析をもとに体育の授業改善やかけ足・なわとび等の体力づくりに取り組むことで、基礎体力の向上に努めることができた。また、授業の始めに「5分間運動」を行い、基礎体力の向上を図った。投げる力を向上させるため、休み時間にドッジボールに取り組んだり、物を握る力を高める遊びや運動に取り組んだりした。</p> <p>○手洗い・歯磨き等の保健指導を養護教諭が教室で指導を行うことにより、自分の体や健康に関心を持つとともに、生活習慣を改善していこうとする児童が増えてきた。</p> <p>○食育の推進では、全学年で発達段階に応じた食育を行うことで、食についての児童の意識を高めることができた。</p> <p>●基本的な生活習慣や登下校の仕方、廊下歩行等今後も根気強く全職員が一貫した指導を続けていかなければならない。</p>   |   |



|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 4        | 教職員の資質・指導力の向上   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○教職員全員が授業公開を行い、少人数グループで事後検討会を行ったことで、多くの参加者から発言があり、充実した検討会ができた。また、三重大学教官を招へいし、子どもたちの主体的・対話的で深い学びにつながるよう、授業のすすめ方、課題の与え方、子どもたちの学び合う姿に焦点をあてて検討することで、授業改善に向けて研修を深めることができた。</p> <p>○3学年以上の算数科で、習熟度別少人数・ITなどの指導の充実を行い、複数の教師の視点で児童を把握し、授業を行うことができた。また、全教科でパソコンや電子黒板、タブレットなどのICT機器の活用ができたことで、子どもたちがより授業に参加しやすい環境を整えることができた。</p> <p>○中学校の教師が小学校で授業をするなどして、保・幼・小・中が連携した授業づくりを推進できた。さらに、6年生が高校でもものづくり体験を行った。</p> <p>●校務を効率化し、子どもに向かう時間の確保について教職員の意識改善に努める。</p> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 5        | 家庭・地域との協働   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○学校HPの更新や学校・学年通信により学校の様子を保護者・地域等に知らせることができた。保護者による学校評価でも98%の肯定的な回答を得た。</p> <p>○生活科や総合的な学習の中で、つんつく保存会など地域の方々にゲストティーチャーを招き、学習を深めることができた。また、図書ボランティアによる、読み聞かせを継続することができた。</p> <p>○地域と協働し、交通安全指導、防犯活動等を推進することができた。</p> <p>○学校公開日や授業参観、学校行事等、学校を公開する日を設け、多くの保護者や学校関係者に学校の様子を知らせることができた。また、日頃から家庭との連携を図り、理解と協力を得るよう努めた。</p> <p>●ゲストティーチャーを招く場合は、ねらいを明確に持つとともに、次時にどのようにつなげていくかについても十分に考える必要がある。</p> |   |

## 2 改善方針

|  |
|--|
| <p>○重点目標 1 「確かな学力の育成」<br/>朝学習・家庭学習（ﾌﾟﾗｽｯﾝ）を更に方法・内容を充実させ、基礎学力の定着・主体的に粘り強く取り組む子の育成に向けて取り組む。<br/>授業の課題・振り返り活動の重視、日永っ子10の準備の徹底を行っていく。</p> <p>○重点目標 2 「豊かな心の育成」<br/>自己肯定感を育てる取り組みを人権教育担当、道徳教育推進教師が主になり、全校で計画的に行っていく。</p> <p>○重点目標 3 「健康な心と体の育成」<br/>基礎体力向上のため、休み時間は外に出て、普段から体を動かすようにさせるとともに、体育の始めの5分間運動を継続する。</p> <p>○重点目標 4 「教職員の資質・指導力の向上」<br/>積極的な授業提案・参観体制を目指して授業改善を行い、子どもたちの「わかる」「できる」授業づくりへとつなげていく。<br/>タブレット端末などICT機器の効果的な授業での活用に向け、研修を深める。</p> <p>○重点目標 5 「家庭・地域との連携」<br/>指導内容を十分検討した上で、地域の人材を活用していく。</p> |
|--|

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 四郷小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 1        | 確かな学力の定着  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○基礎基本の定着のために、学期初めに掛け算・漢字のミニテストを行い児童の実態を把握し朝学習を計画的に取り組めるようにした。また学習に向かう力を下支えするためにコグトレ（認知能力トレーニング）を活用した。</p> <p>○家庭学習を系統的に行えるよう、漢字・算数・プラス1（自主学習）・作文（週に1回）に取り組んだ。2学期には振り返りを行い、作文テーマやつけたい力を一覧にまとめ活用・指導した。</p> <p>○読解力や字数制限作文に課題があり、各学年が意識して取り組んだ。</p> <p>●タブレットPCを活用した学習を効果的に進めるため、つけたい力を一覧にまとめ、来年度は計画的に取り組む。</p> <p>●学力や宿題の取り組みに個人差があるため、一人ひとりのつまずきを見極め個別対応し、かつ家庭との連携を密にし確実に学力をつけることができるようにしていく。</p> |   |
| 重点目標 2        | 豊かな人間性の育成   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○週に一回、生徒指導報告を設定し、児童の情報や対応について共有できた。報告・連絡・相談を意識し、学校全体でスピード対応および指導をすることができた。</p> <p>○学校アンケートやQU・仲間づくりレポートを活用し、実態把握を行った。仲間づくりの職員研修を行い、児童の対応に役立てた。</p> <p>○委員会活動の内容を創意工夫あるものにするよう意識して取り組んだ。学校集会の場で委員会からの発表の時間を設定し、活動内容を全校に知らせることができた。</p> <p>●児童会であいさつ運動に取り組んだ。あいさつされたら返せる児童は増えたが、今後は、地域の方などに自分からすすんであいさつができる児童の育成が課題である。</p>  |   |
| 重点目標 3        | 健康な心と体の育成   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○児童が意欲的に運動に親しむ行事や授業を計画的に実施することができた。学期に1回、体育委員会を中心に、体力向上を目指した取り組みを行い、多くの児童が休み時間にも運動する姿が見られるようになった。しかし、体力テストの結果には、まだまだ反映されていないため、時間をかけて取り組む必要がある。</p> <p>○スクールカウンセラーや専門機関と連携して健やかな心の育成に取り組めた。</p> <p>○栄養教諭・養護教諭と担任が連携し、児童の実態や時期に合わせた食育・保健指導を行うことができた。学校保健委員会では、6年生全児童が参加し、保健委員会によるプレゼン後、学校医から話を聞き、歯の健康について考えることができた。</p> <p>○地震等の避難訓練や地域との合同防災訓練などを通して、災害から自分の身を守る安全教育に取り組み、自助・共助の力を育成できた。</p>     |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 4        | 特別支援教育の充実   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○特別支援委員会を定期的開催し、児童の実態を学校全体で共有しながら、児童のニーズに応じた具体的対応策について協議することができた。</p> <p>○保護者や関係機関との連絡、情報共有を密に行い、校内通級の実施や支援体制を整えることができた。</p> <p>○相互理解のための西日野にじ学園との交流を各学年2回実施することができた。双方の実態をふまえた交流場所や内容の打ち合わせを行い、充実させることができた。</p> <p>○にじ学園との交流を全学年2回もち、自分から関わる子が増えてきた。また、夏季研修では教職員同士の研修会や施設訪問を行い、姿勢保持や教材の工夫等、個々の実態に合った研修を深めるとともに、コグトレ導入のきっかけとなった。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 5        | 家庭・地域との連携  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○コミュニティスクール（くろがねもち協議会）では、学校や地域の課題等について委員からの提言を教育活動に反映させることができた。（例：交通安全教室等）</p> <p>○学校便り・学級・学年便りの発行やホームページの更新、すぐメール配信等により、学校からの情報をタイムリーに伝えることができた。</p> <p>○学校支援ボランティア活動は、ビジョン達成の一助となっている。図書ボランティアは、図書館まつり期間の読み聞かせ・季節毎の壁面掲示等の実施により読書好きな児童の育成に貢献している。交通安全ボランティアは、朝の登校見守りや1年生の交通安全教室を通して児童の安全意識の向上や挨拶への意識付けに寄与している。</p> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 6        | 教職員の資質・能力の向上  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○「全ての子どもが学びの中に入ることができる授業の創造」をテーマに掲げ、授業の最初に児童に提示する課題づくりについて研修を深めた。質の高い課題を提示することで、児童の学力を向上させたり、児童同士が自然と関わったりすることが明らかになった。普段の授業から質の高い課題づくりをすることが難しいことが、今後の改善点である。</p> <p>○集会で人権作文の発表を行ったり、各学級でなかまづくりの視点を大切に学級経営をしたりすることで、児童が学校で安心して過ごせるよう改善できた。</p> <p>○笹川中校区学びの一体化の取り組みで、校区の校園と情報交換をし、見通しを持った指導につなげることができた。6年生では中学校の英語科教員による出前授業が行なわれ、中学校への期待を持たせることができた。今後、指導の手法を学びたい。</p> <p>○地域の方や西日野にじ学園の教員をゲストティーチャーとして招聘し研修することで、教職員の視野を広げることができた。</p> |   |

## 2 改善方針

|   |
|---|
| <p>○学習の基礎基本になる、読解力や文章構成力を向上させるため朝学習の充実や授業改善に努める。効果的な指導方法について外部講師も招聘しながら児童の実態と照らし合わせ研修を深めていきたい。</p> <p>○生徒指導においては、教育委員会や関係機関と連携を密にし、「日報」や打合せ等で全職員で情報共有してきた。児童の規範意識は向上しつつある。日常の報告・連絡・相談を大切にして指導の徹底に努める。特に、子どものあいさつや学校のルールについて、児童会活動の活性化や道徳科での指導を通して、自主的に行動できるよう実践力を育てていきたい。</p> <p>○豊かな人間性の育成として、コミュニケーション力の向上と思いやりの気持ちを持って相手と接することができるように、日常の様々な教育活動の場面で指導する。また、児童の発達段階を考え、計画的な道徳・人権学習を推進する。</p> |
|---|

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 高花平小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 1        | 確かな学力の定着  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○授業を行う際、「5つのプロセス」を意識して取り入れることができた。その結果、子ども同士の学びが深まってきていることを実感できるようになってきた。</p> <p>○「子どもが探究したくなる課題づくり」をテーマに研修をすすめたことで、主体的に学習に取り組む姿が見られるようになってきた。</p> <p>○スタディタイムに取り組むことで、一人でじっくりと課題に向かう力がついてきた。</p> <p>○算数の学習を中心にチームティーチングの活用を進めることができた。それにより、一人ひとりに対する教師の支援が増え、個に応じた指導を行うことができた。</p> <p>●課題として、基礎基本の定着が十分にできなかったことがあげられる。授業の中では、理解していても、なかなか定着につながらなかった。</p>  |   |
| 重点目標 2        | 豊かな人間性の育成   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○年2回のQU調査と各学期の教育相談を行うことで、子どもの状況把握に努め、必要に応じて迅速に対応することができた。保護者・児童アンケートでは学校の相談体制に対して肯定的な評価が前年度より増えている。また、いじめ問題に関しては、早期発見・早期対応・組織対応に努めることができた。</p> <p>○夏休みの校内研修や月1回の情報交換会により、児童の共通理解を図った。そのため、子どもの問題行動が少なく、どのクラスも落ち着いた雰囲気の中で授業を行うことができた。</p> <p>○朝の読書、年2回の図書館まつりの実施を通して、読書への関心が高まっている。昨年度に比べて貸出冊数が大幅に増えた。</p> <p>●「あいさつ」「掃除」に対する全校での指導を統一しようとしたが、地域でのあいさつがしっかりできないという現状がある。</p> <p>●道徳・人権教育の充実に努めてきたが、指導方法の研修を深めていく必要がある。</p>    |   |
| 重点目標 3        | 健康・体力の向上  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○5分間運動の活用や跳び箱、鉄棒指導に関する自主的なミニ研修を行うことにより、体育科授業の充実を図った。体力運動能力テストのアンケートで、「運動が好き」と回答した児童が全国平均と比較して大幅に上回っている。また、運動能力においても男子が全国平均を1ポイント以上上回る結果となった。</p> <p>○各クラスにボール、長縄を配当することにより、外遊びで利用できる遊具の充実を図った。これにより運動の日常化の推進に取り組むことができた。</p> <p>○マラソン記録会やなわとびがんばり週間、クラスマッチなどの学校行事を活用して体力向上に努めた。自主的に練習をしたり、クラスで団結したりする児童の姿が見られるようになった。</p> <p>○歯みがきががんばり週間を行い自分の歯の健康について考えさせる機会を設けたり、歯科衛生士と連携した歯みがき指導を行った。</p> <p>●学校保健委員会への保護者の参加が少なかった。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 4        | 家庭・地域との協働  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○HPや通信、学校公開日等による情報発信に努めた。保護者アンケートの結果は、昨年度と同様、肯定的な評価が多かった。</p> <p>○家庭の協力のもと、チェックシートに取り組むことで、早寝・早起き・朝ご飯の習慣が定着してきた。</p> <p>○コミュニティスクールを定期的で開催した。児童の様子を知ってもらおうと同時に、学校教育に関する意見をもらった。いただいた意見について職員間で共有することができた。また、様々な行事に参加、協力を得ることができた。</p> <p>○今年度より新たに始まった「合同防災訓練」をはじめとして、クラブ活動、文化祭、地域先生等、地域とともに学ぶ機会がたくさんあった。子どもたちは人との関わりや、新たな気付きを通して、豊かな学びができた。</p> <p>●家庭学習の定着に向け、文書を配布したり、懇談会や家庭訪問等で呼びかけたりしたが、なかなか定着しない。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 5        | 教職員の協働   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○全体研修会の場だけでなく、普段から職員間でのミニ研修や授業方法に関する情報交換の機会を持つことができた。それにより、子どもたちが考える授業展開や、探究したくなる課題づくりへとつなげることができた。</p> <p>○毎月、児童の情報交換を密に行った。問題行動がおこったときは、担当や学年が中心となり、現状把握と対応策を考えることができた。そのため、適切な対応ができ、問題が尾を引くことは、ほとんどなかった。</p> <p>○毎月安全点検を行った。児童にとって危険であると判断した箇所については、迅速な補修を行った。その結果、施設設備が原因となる大きなケガや事故はなかった。</p> <p>○本年度より配置された業務アシスタントの活用や、個々の意識改革により、総勤務時間が縮減傾向にある。</p> |   |

## 2 改善方針

|  |
|--|
| <p>○確かな学力の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上をめざし、スタディタイムの取り組みがより有効なものになるよう、系統性を持たせた手立てを考えていく。</li> <li>・更なる授業改善に取り組むため、算数科を中心として「課題づくり」「習熟度別学習」の研修を深めていく。</li> </ul> <p>○豊かな人間性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考え議論する道徳の授業に近づくために、指導方法や評価についての研修を深めていく。</li> <li>・SNS等でのトラブルが増えてきている現状から、情報モラルの学習を系統的・計画的に行う。</li> </ul> <p>○健康・体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会の持ち方を、より魅力的なものになるよう内容の改善を図ったり、保護者への参加の呼びかけを工夫したりする。</li> </ul> <p>○総勤務時間縮減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の意識改革を促し、従来通りに流されない会議や行事のあり方を考え、本来の業務である教材研究の時間や子どもと向き合う時間を確保できるようにする。</li> </ul> |
|--|

## 自己評価書

四日市市立 常磐小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 1        | 確かな学力の定着   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>「学校の勉強は、よく分かりますか。」【児童アンケート結果 95.5%】<br/>           「家庭学習をきちんとしていますか。」【児童アンケート結果 86.5%】<br/>           「本をよく読んでいますか。」【児童アンケート結果 79.8%】</p> <p>○学校の研修にかかわり学校全体で学び合いを行い、子ども同士や教師が、分からない子に寄り添うことで主体的に学習する子が増えてきた。朝の学習の時間では、NRT や学力調査の結果を活かして、算数の基礎・基本の問題や自分の考えを書く問題を中心に行っている。<br/>           ○家庭学習では、児童が主体的に行う家庭学習を学校全体で取り組んできた。保護者に向けて家庭学習の手引きの配布やアンケートの実施を行った。見本となるノートを学年や学級で掲示したことで、保護者も児童も意欲が高まっている。1年生から取り組み、継続していることで力がついてきている。</p> <p>▲家庭学習の時間は、個人差が大きく、低学力の児童に学習時間の保障が難しい。<br/>           ○学校図書司書や図書ボランティア、教師や図書委員の児童による読み聞かせを普段から行うことで、児童が本を手に取り、いろいろな種類の本に親しむ機会を設けていた。<br/>           ▲昨年度に比べて本を借りる冊数は減っているため、クラス貸し出しの回数を増やしたり図書館まつりなどのイベントを行ったりして、児童が図書室に足を運びたくなるような工夫が必要である。</p>  |   |
| 重点目標 2        | 心の教育の推進  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>「掃除中は『さしすせそ清掃』を守れていますか。」【児童アンケート結果 87.9%】<br/>           「相手の気持ちを考えた話し方や行動ができていますか。」【児童アンケート結果 92.8%】<br/>           「自分から気持ちの良いあいさつができていますか。」【児童アンケート結果 93.4%】<br/>           「あなたは、自分のことを大切に思いますか。」【児童アンケート結果 95.6%】</p> <p>1. 豊かな人間性の育成（社会性の育成、個々のよさが発揮できる場づくり）<br/>           ○毎年続けて、集会活動、学校行事、特別活動等において、個々が活躍できる場づくりを進めてきたため、高学年が様々な場面で、積極的に行動できるようになってきている。<br/>           ○あいさつ運動や児童会新聞など児童会活動を通して学校生活をよりよくしようとする姿勢がみられる。<br/>           ○あいさつや清掃の取り組みなど、ビジョンⅡメンバーが核となり、学年で意図を伝え、共に取り組むことで課題を共有し解決に向かった。<br/>           ▲学年間で考えを共有して、指導事項を明確にし、取り組むことが重要である。</p> <p>2. よさやちがいを認め合い、仲間と共に生きる力の育成（人権教育、道徳教育の充実および総合的な学習）<br/>           ○▲人権教育、道徳教育については、学年で考えを共有しながら取り組みを進めてきた。学校としての取り組み方、系統性等を見直す必要がある。<br/>           ○それぞれの学年で、自分の住む町をクローズアップしたり、地域の人と出会ったりして、自分を見つめ直す機会をもつことできた。</p> <p>3. きめ細やかな児童理解（積極的、継続的な家庭訪問、問題の早期発見、早期対応、教育相談）<br/>           ○QU調査、いじめ調査の結果を学年での対応。日頃から、日記、生活ノート等を利用したり、教育相談週間を設けたりして、児童理解に努めた。<br/>           ○校内支援委員会が定例化し、支援を必要とする児童への共通理解を図ることができるようになった。<br/>           ▲問題の早期発見、早期対応にかかわり職員が連携し、対応していくことを再確認していく必要がある。</p> |   |

|                          |  |   |
|--------------------------|--|---|
| 重点目標 3                   | 体力、健康・安全意識の向上  | 4 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>「体育の授業に一生懸命に取り組んだり、休み時間に進んで運動したりした。」【児童アンケート結果94%】</p> <p>【体力向上】</p> <p>○竹馬、一輪車、フラフープ、ジャンピングボードなどを増やしたことで、子どもたちが外に出て遊ぶことが増えた。子どもたちが遊びたくなる環境を整えた。また、各学年の体育指導の取り組みにより、休み時間であっても鉄棒やなわとびの練習をする児童の姿も見られた。</p> <p>○長縄などの体育に関する体育用品の充実をはかるとともに、体育指導充実教諭を中心とした教師間の指導法の学び合いにより、授業改善も行ってきた。その結果、児童アンケートでは、体育の授業へ積極的な児童の割合が高かった。</p> <p>▲今後は、積極的に参加できていない子どもたちへの指導に工夫をし、より多くの児童の体力向上を目指す。</p> <p>【安全指導の徹底】</p> <p>○地震や火災、交通安全、不審者対応、緊急避難下校など様々な場面を想定した訓練や安全指導を通して、子どもたちの安全に対する意識を高めてきた。来年度には職員対象の研修も実施する予定を立てている。今後も日々の安全に対する意識を高めるとともに、家庭への更なる啓発について努める。</p> <p>○病院の受診が必要な大きなけがは30%と減少している。熱中症防止も含め、無理のない体育科指導計画など、全職員が安全を意識して取り組むことができた。</p> <p>▲集団登校中の児童の列がバラバラになる、道に広がる、一人ひとりが信号を見ていないなど登下校の児童の歩き方について、継続的・計画的な指導が必要である。</p> <p>【基本的生活リズムの定着・改善】</p> <p>○歯磨き指導により、子どもたちの意識が高まり、給食後に多くの児童が歯磨きに取り組む様子が見られた。歯磨き習慣がない子どもにとっては、給食後の歯磨きが歯の健康を保つことにつながった。また、歯磨きチェック表や親子歯磨きなどの取組によって、家庭における歯磨きへの啓発を行っている。</p> <p>○各学級の継続的な食育指導により、食べ物に対して興味をもつようになり、昨年度よりさらに残菜量を減らすことができた。給食委員会の取り組みや残菜量を見える化することで各学級の指導にもいかすことができた。</p> |   |

|                          |   |   |
|--------------------------|---|---|
| 重点目標 4                   | 保護者・地域との連携の推進   | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>「学校は、教育活動の様子や情報をわかりやすく伝えてありますか」【保護者アンケート結果88.3%】</p> <p>「全体的に見て学校の教育活動に満足していますか」【保護者アンケート結果93.0%】</p> <p>【地域に開かれた学校づくり】【保護者・地域のニーズ】</p> <p>○コミュニティスクールの組織が発足し、保護者アンケートの実施・結果の分析を行い、多くの意見を得られることができた。そして、それらの意見をその後の教育活動に取り入れることができた。</p> <p>○学校だより・ホームページによる発信、授業参観・学習等の掲示、個別懇談会、学校行事など保護者来校の機会を設定して、連携を図ることができた。</p> <p>▲授業参観などの参観者数は多いものの、1学期の学級懇談会、2学期の個別懇談会（希望制）の出席率は低く、参加・出席を広げる工夫が必要である。</p> |   |

|                          |   |   |
|--------------------------|---|---|
| 重点目標 5                   | 教職員の資質・能力の向上  | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>「校内研修の充実」<br/> ○個々にテーマを設定し実践に臨んだ。全体研(学び合い・人権)と年2回の公開週間(全員公開)を実施した。たくさんの授業を参観し、個々に話し合うことで授業改善に努めた。<br/> ▲授業公開後の実践の積み上げが見えにくかったので、授業改善に向けてステップアップできる研修体制づくりを進めたい。</p> <p>「各種研修会への参加・大学連携」<br/> ○積極的な参加と還流報告で研修の様子を知ることができた。プログラミング教育の研修が本質的な学びで視野が広がった。</p> <p>「人権教育・特別支援教育の知識・技能・感性の向上」<br/> ▲人権に関する公開授業はするが、系統立てた学びにつなげる必要がある。<br/> ○ほっとルームの授業公開やリクエスト研で学ぶ機会があったことは良かった。「保幼小中の連携と学びの一体化の推進」各校園の公開があり、子どもたちの姿から学ぶことができた。<br/> ▲中学校教員による乗り入れの授業が6年生のみで回数も少なかった。また、保幼中における特別支援教育の連携があまり進まなかった。「総勤務時間縮減取り組み」について具体的な取り組みができなかった。</p> |   |

## 2 改善方針

|  |
|--|
| <p><b>重点目標 1 確かな学力の定着</b><br/> ①学力調査、みえスタディチェック等の分析結果をもとにして、授業改善・課題の克服に向けた朝学習・学習意欲を高める環境整備に取り組む。<br/> ②主体的に家庭学習や自主学習に取り組むように指導したり、充実した読書活動への啓発を行ったり、家庭との連携を進める。</p> <p><b>重点目標 2 心の教育の推進</b><br/> ①Q U調査等を生かした児童理解に基づく、一人一人の居場所や活躍の場づくり、子どもたち同士の絆を深める実践に取り組む。<br/> ②人権教育、道徳教育が充実するように、校内で取り組み方や系統性等の共有化を図る。</p> <p><b>重点目標 3 体力、健康・安全意識の向上</b><br/> ①体力テストの結果等を踏まえ、重点課題を決めて授業改善・休み時間を活用した体力づくりに取り組む。<br/> ②安全指導・管理のため、教職員の危機管理に関する研修に取り組み、日常的な指導を継続する。</p> <p><b>重点目標 4 保護者・地域との連携の推進</b><br/> ①保護者や地域との連携を深め、学習内容をはじめとする教育活動全般の充実をはかる。<br/> ②学校運営協議会(コミュニティスクール)を要として、学校と保護者・地域をつなぐ方策を検討していく。</p> <p><b>重点目標 5 教職員の資質・能力の向上</b><br/> ①教師間による授業公開の日常化と、実践交流の充実をはかる。<br/> ②児童の主体的な学びにつながる課題と教師の資質向上を図るための校内研修会の両方の充実をはかる。</p> |
|--|



【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 内部小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 1        | 考える力の育成～学び合う授業づくり～  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | (主な方策)<br>わかる授業・楽しい授業をめざす コミュニケーション能力を育てる<br>読書を楽しむ子どもにする 家庭学習の定着を図る<br>(成果と課題)<br>「子どもの気づきをつなぐ授業づくり」を研修テーマにし、四日市モデルに即した授業づくりに取り組み、授業の質の向上を目指す授業改善に取り組んだ。ICT機器を活用して視覚的理解を高めたり、少人数授業や取り出し授業を行い個別にきめ細かい対応をしたりしたことで、学力の向上につながった。自分から進んで勉強する子は79%、家庭学習の定着は83%で学力の定着が意欲につながっている。<br>今年度より朝の読書の回数が減ったが、学期に1回の読書週間には様々な催しを行い読書への興味を持続させるように取り組んだ。<br>ICT機器を使った授業は各学年で行われているが、さらに使いこなすための教師のスキルアップが必要である。 |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 2        | 人とつながる力の育成～ともに生きる仲間づくり～  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | (主な方策)<br>基本的な生活態度を身につけさせる 道徳教育・人権教育を充実させる<br>特別支援教育の体制づくりを充実させる<br>(成果と課題)<br>「内部っ子のきまり」をもとに全職員が統一した基準で「ルールに見える化」等工夫した生活指導をしたため、「学校のルールを守っている」と答えた子は87%で成果がみられた。人権教育においては、互いの良さを認める取り組みを行ったことで「友達のことを思いやれる」と答えた子は90%になった。またSCを活かした個別の支援を充実させてひとりひとりの理解に努めた。このような取り組みを続けていても、小さいじめが起こったり、自尊感情が低かったりするので、さらに取り組みを強めていかなければならない。特別支援教育については、定期的に委員会を開催し共通理解を深め具体的な対応を行った。他機関と連携する体制が整ってきてはいるが、医療機関などはすぐにはつながらなく苦勞することもあった。 |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 3        | 健康で安全な生活をつくる力の育成～健康なからだづくり～  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | (主な方策)<br>健康な生活や食生活への関心をもたせる 体育的行事や体育の時間を通して、体を動かす気持ちよさを味わわせる 子どもの安全意識を高める<br>(成果と課題)<br>栄養教諭と養護教諭の連携により食育が充実し、80%の子どもが給食を残さず何でも食べるようになってきている。しかし、好き嫌いのある子はまだまだいるので指導を続けていく。基本的な生活習慣の育成については、保護者も子どもも意識は高いが(82%・74%)中には生活リズムが乱れていてなかなか改善できないので、根気強く家庭と協力していく必要がある。体育の授業においては5分間運動を充実させたりふり返りをさせたりしたため、意欲をもって取り組む子が増えた。普段からよく体を動かしている子は80%を超え、5年の体力テストの結果は良好であった。<br>下校時にルールを守れなかったことがあり、教師や保護者がみないところでの行動に課題が残る。地域で育ててもらえるように協力を求めている。 |   |

|                       |  |   |
|-----------------------|--|---|
| 重点目標 4                | 家庭・地域とともに歩む学校  | 3 |
| <p>主な方策<br/>成果と課題</p> | <p>(主な方策)<br/>地域の特色ある教材を各学年の教育課程に位置付ける 地域住民の教育への参画を進める 学びの一体化を推進し、内部中学校区で一貫した教育を目指す 通信やホームページによる情報発信に努める</p> <p>(成果と課題)<br/>各学年の学習やクラブ活動・読書活動に地域の方々の大きな協力を得ている。また市民センターや町角博物館など地域教材の学習にも取り組み、内部地区ならではの学習が定着・充実している。おじいさんおばあさんありがとう集会は地域の高齢者やお世話になった方々に感謝する機会として全校で取り組む伝統的行事になっている。このような取り組みは保護者にも子どもにも高評価を得ている。<br/>学びの一体化は保幼小中と情報交換や授業交流を行ってきた。今後も地域の子どもの特性を明らかにし、理想とする姿に向けての取り組みを続けていきたい。<br/>学校からの情報発信としてホームページを毎日更新している。学校での子どもの様子がよくわかると90%の保護者が回答している。</p> |   |

## 2 改善方針

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT機器の活用はとても効果があるので、いつでも使えるように教室に備えつける等環境を整えていってほしい。</li> <li>・ 基本的な生活習慣の確立のために家庭と学校の役割を明確にして連携を図ってほしい。SCや外部機関とも連絡を取り合い、一人ひとりにあった支援を続けてほしい。</li> <li>・ 主研修だけでなくミニ研修も無理のない程度に取り入れ、授業力の向上を目指していく。</li> <li>・ 行事の精選、内容の吟味、会議の精選・短縮化を図り、総勤務時間を縮減するよう努める。</li> </ul> |
|--|

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 小山田小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|                          |  |   |
|--------------------------|--|---|
| 重点目標 1                   | めざす子どもの姿 ①豊かな心を育む子ども   | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>①自尊感情や思いやりの心を育みます。【道徳・人権教育・学級会・いいところ見つけ】</p> <p>②学習や活動を通して、相手のよさに気づき、相手の立場に立つことの大切さを学ばせませす。【班活動・班学習・係当番活動・休み時間・学級レク】</p> <hr/> <p>○ありがとうカード、いいところ見つけカードを用いて日常的に相互理解を図り、自尊感情を育むことができた。</p> <p>○学校生活全般で、相手の気持ちを考えることや仲間のよさに目を向ける姿勢を大切にしながら、教育活動を進めることができた。</p> <p>○授業の中で、ペア学習やグループ学習を取り入れ、互いの良さを認め合う活動を行うことができた。</p> <p>●児童一人ひとりへの相談体制をとっているが、全職員でこれからも児童の思いに気を配っていくことが必要である。</p>   |   |
| 重点目標 2                   | めざす子どもの姿 ②確かな学力を育む子ども  | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>③個に応じたきめ細かな指導と評価を行い、学習の成果や学力の伸びを認め、励まします。【個別指導、机間指導、ノート点検、少人数指導】</p> <p>④朝学習や家庭学習に継続的に取り組み、基礎基本の定着を図り、学力向上に努めます。【あさかせタイム・家庭学習の習慣化】</p> <p>⑤学年に応じた本に親しませて、人に内容や感動を伝える意欲や力を伸ばします。【朝読書・図書の日・図書館まつり・読書感想文】</p> <hr/> <p>○学校全体でプラスワン（家庭自主学习）、算数科における「ずんずん図形学習」（図形の問題で課題のあるところの学習）に取り組むことができた。</p> <p>○図書館司書、図書支援員による読み聞かせ、図書館まつりの取組など、本に親しませる機会を充実させることができた。</p> <p>○算数科において習熟度別・少人数授業をすることで一人ひとりの理解度に合わせた授業を行うことができ、確かな学力の向上につながった。</p> |   |
| 重点目標 3                   | めざす子どもの姿 ③健康な心と身体を育む子ども  | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>⑥運動の量と技能を高める体育を通して、楽しみながら体力向上を図ります。【体育科・5分間運動・かけ足・なわとび・業間遊び】</p> <p>⑦保健指導や食育を通して、健康な生活習慣や食習慣を育てます。【保健指導・学校保健委員会・給食指導・食育の授業】</p> <p>⑧行事等の活動を通して、自立する力（生きる力）、仲間と協力する力（共に生きる力）を育てます。【芋煮会・運動会・なかよしタイム・町別児童会】</p> <hr/> <p>○肋木、鉄棒など遊具を使った5分間運動を全学年で取り入れ、基礎体力作りに役立てることができた。</p> <p>○発育測定時に実施した学年に応じた保健指導や給食後の歯磨き月間の取組、学校栄養職員による食育指導を実施した。歯磨きについては、保護者への啓発にも力を入れた。</p> <p>●学校保健委員会の持ち方について、学校医にも参加していただけるよう検討していく。</p>                     |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 4        | めざす学校の姿<br>○人権が大切にされ、安心できる学校○学ぶことが楽しい学校<br>○地域に開かれ信頼される学校  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>①教職員の人権感覚や指導力などの向上のために、研修と改善に継続的に取り組みます。<br/>【研修・授業研究会・学校評価】</p> <p>②安全のための環境整備や指導を行い、問題の早期発見・対応に努め、報告・連絡・相談を密にします。【危機管理・防災・防犯・交通安全・避難訓練・命の学習】</p> <p>③挨拶や4S（整理・整頓・清掃・清潔）に取り組み、気持ちよく学べる環境作りに努めます。【あいさつ運動・清掃活動・美化励行・花壇整備】</p> <p>④学校公開・運動会・作品展・学習発表・たより・HPなどで、子どもたちの取組や様子を紹介します。【学校公開・懇談会・学習発表・情報発信】</p> <p>⑤読書活動・クラブ活動・地域学習などで保護者や地域の支援のもとに、効果的な学習に高めます。【読み聞かせ・クラブ活動・学習発表・芋煮会】</p> <p>⑥PTA・CS運営協議会・地域団体・関係機関と連携して、子どもたちの成長を見守ります。【あいさつ運動・親子下校・親子DE人権・除草】</p> <hr/> <p>○今年度から四日市版コミュニティスクールが本格的に始まり、地域で学ぶ、地域と学ぶ、地域に学ぶ、地域と学ぶ活動を行うことができた。</p> <p>○登下校指導、あいさつ運動、防災学習等、学校と家庭、地域が連携して取り組むことができた。</p> <p>○芋煮会や米作り、読み聞かせなど地域の方が学校に来て教えていただく機会も多く、児童にとっても良い効果を上げている。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 5        | めざす教職員の姿<br>○自らの人権感覚を問う教職員 ○教育への使命感を自覚する教職員○家庭・地域と共に歩む教職員  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>②道徳・人権教育に計画的に取り組み、授業参観で年に1回は公開し、家庭との連携を図ります。【道徳・人権教育・特別支援教育】</p> <p>③子どもの変容にアンテナを高くし、問題の早期発見・対応に努め、報告・連絡・相談を密にします。【Q-U調査・教育相談・家庭訪問・児童理解・生徒指導】</p> <p>④算数科を中心に、問題解決学習に取り組みます。</p> <p>⑥めあてと振り返りを意識した達成感のある授業づくりに努め、確かな学力を育てます。<br/>【ノート指導、ペアグループ学習、絵・図・ICT活用、わかる授業の促進、少人数指導】</p> <p>⑩保護者や地域等と協働し、教育効果を高めます。【地域学習・学習支援・情報モラル教育】</p> <hr/> <p>○Q-U調査の結果をもとに手立てを考え、情報を共有し、児童の気持ちに寄りそえるよう努力した。また、必要に応じて家庭訪問をし、迅速に対応することができた。</p> <p>○児童の変容について職員間で情報共有をすることができ、問題に対して同じ姿勢であたることができた。</p> <p>○小山田小学校CS運営協議会と協働した地域学習や学校・学級行事等を充実させることができた。</p> |   |

## 2 改善方針

|   |
|---|
| <p>・算数科における習熟度別少人数授業やTT指導による学習効果が大きいですが、来年度より教員数が減るため、指導方法の工夫や家庭学習の習慣化を、一層推進させる。また、来年度より学習指導要領が新しくなることもあり、教職員一同研修に励み、興味もてるわかりやすい授業づくりについての取組を進めるとともに、保護者への啓発や連携にさらに取り組んでいく。</p> <p>・「友だちを思いやり豊かな心を持った子の育成」について、Q-U調査、いじめ調査、教育相談等を生かし、全職員で子どもたち一人ひとりにしっかりと向き合っていくとともに、子どもたちが想いを持って自分らしく活躍できる学校であるよう、本校ならではの異学年と交流できる縦割り班活動を引き続き継続していく。</p> <p>・カリキュラムマネジメントを行うことで、教科・学年横断的な学習を進め、子どもたちに「生きる力」を身に付けさせていく。</p> <p>・保護者アンケートでは、本校の教育活動全般について、92%の方から「全体的に満足できる」と肯定的評価をいただいた。ただ「わからない」と答える保護者もあり、日々の取組を保護者に伝えるために、より積極的な情報発信に努めたい。</p> |
|---|

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 河原田小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 1        | 確かな学力と学びの保障をめざす   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力学習状況調査への取り組みについて、教職員間で共通理解の上指導を進める。</li> <li>・朝の学習で基礎学力の定着を図る。</li> <li>・図書館まつり・夕読等で読書の習慣づけを図ってきたが、読書が習慣化できていない現状である。</li> <li>・道徳の評価について共通理解の上、進めることができた。次年度は、全体研修会で年間2回は道徳をテーマに研修を進める。</li> </ul> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 2        | 思いやりのある心を育てる   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○思いやりのある心を育てる指導の充実                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・QU調査、いじめ調査、ぽかぽかタイム（教育相談）などを活用し、子どもたちと向き合うことに重点を置いてきた。</li> <li>・児童会による「赤い羽根募金活動」に取り組んだ。</li> </ul>                     今後も、子どもたちの姿をしっかりと見届け、指導を継続していく必要がある。                 </li> <li>○他者に寄り添う態度の育成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年と低学年がともに活動する機会（ふれあいタイム）を増やすことで、休み時間等にも異学年同士関わりあう姿が見られるようになった。</li> <li>・すべての授業を通して「わからない」から始まる授業づくりや聴く態度の育成を目指してきたことで、生活面でも友だちに寄り添おうとする意識を高めることができた。</li> </ul> </li> </ul> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 3        | 体力と安全意識の向上をめざす  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上週間・かけ足週間・なわとび週間で体を動かす機会を定期的にとることで、運動する習慣が身についてきた。</li> <li>・5分間運動の具体的方法について、ミニ研修会などを通じて共通理解の上進めることができた。今後は、5分間運動が主運動につながるものにしていきたい。</li> <li>・体育科の教育課程において、学年間の系統性を持たせた年間指導計画の策定が必要。次年度より策定・実施の予定。</li> </ul> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 4        | 教職員としての資質を向上させる   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研修を中心に、子どもたちの学びをいかに保障するのかについて研修を進めてきた。</li> <li>・体育科を中心として研修を深めてきたことから、体育での学びと教室での学びを関連させて見ていくことで、子どもたちの見取りに活かすことができた。</li> <li>・若手教員育成のために教育アドバイザー研修を活用し、授業力・指導力の向上を図った。</li> <li>・現状として子どもに学力が定着しているという結果がでていない。学力を高めるための手立てについて、考えていく必要がある。</li> </ul> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 5        | 地域や保護者と連携した学校づくりをすすめる  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPや学校だより等を通して保護者への情報発信を行ってきた。また、緊急時には、すぐメールを効果的に活用し、保護者・地域への情報発信を行ってきた。</li> <li>・学校アンケートの結果について、指導部等で検証し、改善できることを共有した。結果は学校便りで保護者に還流した。</li> <li>・コミュニティスクール運営協議会の方から学校の様子について意見をいただき、学校運営に反映させることができた。</li> <li>・まちづくり協議会と協力した活動、近隣の高校や老人会との交流、ゲストティーチャーとして話をしにきてもらうなど、地域の方には大変お世話になっている。来年度も続けていけるよう、引き継ぎを行っていく。</li> <li>・夏休みには「夏休みの集い」として、保護者地域のボランティアの方々を中心となって、家庭学習をサポートする取り組みを進めていただいた。</li> <li>・年度初めに「家庭学習のしおり」を全家庭に配布し、保護者の協力を伝えた。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

### 重点1 確かな学力と学びの保障をめざす

- ・授業での学び合いが学力として定着するように指導方法の改善が必要である。
- ・習熟度別少人数授業を積極的に取り入れ、学力の定着を図る。

### 重点2 思いやりのある心を育てる

- ・挨拶、姿勢などの指導を教職員の共通理解のもと進め、規律ある態度を育てる。
- ・物を大切にすることや環境を美しく保つ意識が低くなってきている。
- ・清掃活動指導を充実させ、勤労・奉仕の心を育てる。

### 重点3 体力と安全意識の向上をめざす

- ・子どもたちの安全意識を高め、「自分の命は自分で守る」意識を育てる。
- ・主運動につながる5分間運動を取り入れ、体育の授業での体力・技能の向上を図る。

### 重点4 教職員としての資質を向上させる

・子どもたちの学力を保障するための手立てが、各教職員に委ねられており学校として共通理解が図られていない。学校として一つの系統表をつくるなどして、全学年で共通した指導ができるような取組が必要である。

### 重点5 地域や保護者と連携した学校づくりをすすめる

・「社会に開かれた教育課程」実現のために、コミュニティスクール運営協議会を中心に、地域の教育的ニーズを把握し、児童・保護者・地域の実態に合わせた教育課程の編成を進める必要がある。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 川島小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標1         | 確かな学力の育成   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○全国学力・学習状況調査やNRTの結果から児童の実態把握を行い、話し方や書き方の指導を通して、「自分の思ったことや考えたことをわかりやすく書いたり話したりできる子」の育成に努めた。</p> <p>○〈四日市モデル〉を指導者が意識することによって、子どもたちが学習のめあてを理解して学びに向かうことができた。</p> <p>○外国語活動について、専科教員が主担当として発達段階に応じて系統立てた指導を行うことができた。授業のスタイルが学校全体に定着し、T.T.で行う学級担任を中心に、他の教員も外国語活動・英語教育の指導力向上につながっている。</p> <p>○家庭の協力もあり、子どもたちは宿題や自主学習などの家庭学習に主体的に取り組んでいるので、基礎的・基本的な学習の力が身についている。</p>   |   |
| 重点目標2         | 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○一人ひとりの思いや考えが大切にされる集団づくりをめざし、いじめ調査・教育相談・Q-U調査などを子どもたちの実態把握として活かし、子ども一人ひとりの理解を深め丁寧に対応するようにした。日頃から児童や学級の情報を学年や学校全体で共有し、問題行動等には、学年団や生徒指導委員会を中心にチームとして対応した。</p> <p>○なかまづくりや人権教育カリキュラムにもとづいた授業実践を通して、子どもたちに、人権課題に向き合わせ、いじめや差別を許さない態度の育成に努めた。</p> <p>○学校生活のきまりや社会生活のルールなどの規範意識を身につけさせるために、明文化した「きまり」を配付するとともに日常的に指導した。</p> <p>○児童会活動の「あいさつ運動」に取り組んだが、登下校も含め、挨拶があまりできていない。</p> <p>○自分のことが好きと回答した児童が多いとはいえない。</p> |   |
| 重点目標3         | 健康で安全な生活を送る力の育成  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○養護教諭が保健指導を行ったり、栄養教諭が食育指導をしたりして、子どもたち自身が健康について考え行動できるようにした。</p> <p>○体力・運動能力向上のために、跳び箱運動・ハードル走・水泳などの指導内容・方法について具体的に示し期間を決めて集中的に取り組んだ。子どもたち自身にめあてを意識させて達成感を味わわせる授業の工夫を行った。</p> <p>○警察や地域防災協議会とともに、学校安全の見直しや防災教育に取り組んだ。</p> <p>○学校保健委員会において、学校三師をはじめ保護者や教職員とともに、本校児童の健康問題について話し合うことができた。</p>   |   |
| 重点目標4         | 特別支援教育の充実  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○月に一度の校内支援委員会を開き、支援の必要な児童の状況を共有し、指導・支援のあり方を協議できた。スクールカウンセラーの来校日にあわせて開催し、専門的な見解を会議の中で直接聞くようにした。</p> <p>○通常学級において特別な支援が必要と思われる児童や新入学児童について、特別支援教育コーディネーターが児童観察を行ったり、教育支援課をはじめとする外部機関につないだりして、適切な支援が得られるようにした。</p> <p>○サポートルーム支援事業により、通常学級在籍児童の週1時間程度の取り出しによる個別の指導を行い、児童の学習や生活上の困難の改善・克服に努めた。</p>  |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 5        | 読書活動の充実   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○図書室の蔵書冊数の維持のほか、児童に人気の本や、いま読ませたい本を計画的に購入し、学級文庫の充実にも努めた。学級用の貸し出しを行うことで図書室に行かなくても本に親しめる環境づくりができた。</p> <p>○学期に1回ずつの読書週間を位置づけ、家庭での読書習慣づくりのために「夕読（夕方読書）」を行ったり、図書館まつり・ブックトークなどを行ったりして児童の読書に対する関心を高めることができた。</p> <p>○図書館ボランティア「ブックママ」が、読み聞かせ会を行ったり、図書委員会の読み聞かせ練習で教えてくれたりするなど、協働して読書活動推進ができた。</p> <p>○読書をする子とそうでない子の差があるので、身近な学級文庫の充実や担任による本の紹介など読書活動をさらに推進できるような環境整備をしていく必要がある。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 6        | 指導者の資質向上   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○「筋道立てて考え表現する子の育成」を校内研修の研究主題とし、国語科を窓口にして授業実践に取り組んだ。年間に一人1回の授業提案を行い、学年または学校全体として、教育委員会指導主事等の指導を受けた。</p> <p>○各種研修会に各自が積極的に参加し、研鑽に努めた。外部講師を招聘し、人権教育についての学びを深めた。</p> <p>○北勢地区人権・同和教育研究協議会発表会を通して、本校の人権・同和教育の見直しを図り、教材研究を深め、系統立てた指導を確立できた。なかまづくりや授業実践等について指導力向上に努めた。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 7        | 地域と共にある学校づくり   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○四日市版コミュニティスクールとして、「地域とともにある学校」の基盤づくりを行った。</p> <p>○地域住民や社会福祉協議会から紹介された方をゲストティーチャーとして招き、生活科や総合的な学習の時間を利用して人権教育・障がい者理解教育・郷土教育などの授業ができた。</p> <p>○学校便りや学級通信を発行するとともにホームページでも学校からの情報を発信することができた。</p> <p>○年間2回のオープンスクールのほか年間3回の授業参観日を設け、保護者や地域住民が子どもたちや授業の様子を自由に参観できるようにした。</p> |   |

## 2 改善方針

|  |
|--|
| <p>○今後も、「考える楽しさ」「できる喜び」を感じられる授業づくりを行い、達成感を味わわせるとともに自尊感情を高めるそのために、目指す子どもの姿をより具体化・系統化し、つけたい力を明確にした表現の場を授業の中に設定することにより、筋道立てて表現できる子を育てていく。</p> <p>○基本的な生活態度を定着させるために、特に挨拶については、その良さや必要性を理解させたり、生活目標としての設定・代表委員会の挨拶運動を行ったりする。</p> <p>○コミュニティスクールとして充実を図るため、学校運営協議会とPTA活動との連携をより強化し、学校・保護者・地域住民が、「ともにつくる学校教育」を目指す。</p> |
|--|



【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 神前小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 1        | 同和教育の推進  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>                     全学年が「なかまとのつながりを大切にし、一人ひとりがかけがえのない存在であることを実感できる子どもの育成」をテーマとし、人権について学び合う人権総合学習（生活科）に取り組んだ。人権集会を学校公開として行い、1年間の取り組みを保護者・地域の方にも伝えていく。学級のなかまづくりは、日記作文指導・QU調査等も活用して、子どもたちとの向き合い方を全職員で考察しながら進めた。また、今年度は全同教大会の発表があり、子どもたちとの向き合い方だけでなく教職員自らが差別心と向き合い、互いに高め合うことができた。また、地域の人権活動に参加し人とつながることを通して、差別をなくしていく主体者になることを目指した。                 </p> <p>                     保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均）<br/>                     ○お父さんは、自分や友だちを大切にしていますか。（3.5 3.6）<br/>                     ○学校は、自分の命や友だちの命を大切にしている教育を進めていますか。（3.4 3.7）<br/>                     4年～6年児童アンケートのみの該当項目<br/>                     ○あなたは、友だちとの関わりを考えながら行動していますか。（3.3）<br/>                     ○あなたは、いじめはどんな理由があってもいけないという思いですか。（3.7）                 </p> <p>                     【成果】なかまづくりを意識して授業づくりを実践してきたことで、友だちとの関わりを考え、いじめを許さない、仲間はずしのない学校にしたいという思いを子どもたちと共有することができた。また、HPや通信等で学校や学級での子ども様子を発信し、保護者の理解・協力も得ながらさまざまな取り組みを進めることができたことも、上記項目の評価の結果として表れたのではないかと考えている。                 </p> <p>                     【課題】今後も子どもの実態や課題に合わせて、校内の体制はもちろんのこと、保護者をはじめ医療機関・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・教育支援課とも連携し、「つながり」を大切にできるように、これからも取り組みを続けていきたい。                 </p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 2        | 学び高め合う授業づくり  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>                     子どもたちが「聴き合い、学び合う」ことができる授業を目指してきた。安心して自分を出せる集団のなかで、主体的に学習に取り組み、基礎の力を身につけさせてきた。それと同時に、教師集団も互いに学び合い、子どもたちが主体となる授業づくりを検証してきた。昨年度までの「聴く・話す力」に加え、今年度は学習の振り返りを書くことも大切にし、子どもたちの学力を積み上げるための指導方法の工夫に努めてきた。また、NRT到達度検査や全国学力・学習状況調査、新体力テスト等の分析を行い、授業改善へつなげるよう取り組んできた。上記のように、目の前にいる子どもたちの実態から手立てを考えていくようにし、全校で同じ方向を向いて子どもの育ちを確かめていくよう取り組んできた。                 </p> <p>                     保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均）<br/>                     ○お父さんは、聴く力が育っていますか。（3.1 3.0）<br/>                     ○お父さんは、思いや考えを話す力が育っていますか。（3.0 2.9）<br/>                     4年～6年児童アンケートのみの該当項目<br/>                     ○あなたは、わからないことは先生や友だちにたずねることができますか。（3.3）<br/>                     ○あなたは、友だちと聴きあったり学び合ったりして学習していますか。（3.4）                 </p> <p>                     【成果】学び合う授業を通して学力の向上を図るために、主体的に学ぶ子どもたちを目指して取り組んできた。子どもたちが困っているなかまを放っておかず、ペアやグループで解決していく学び合いの姿が見えてきた。また、先進校視察など学んできたことを還流し合う機会を設け、授業力の向上を図ることができた。                 </p> <p>                     【課題】研修を継続し、現状の力をさらに積み上げていかなくてはならない。今後も学び合う子どもたちの姿やつきたい力の共通理解を研修・学習指導部を中心に進める必要がある。また、互いの授業を見合い意見交換する機会を増やすことで、教職員の授業力をさらに高めていきたい。                 </p> |   |

|                          |   |   |
|--------------------------|---|---|
| 重点目標 3                   | 基本的な生活習慣の定着   | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>朝の帯タイム（おめばち）・家庭学習の定着・読書活動の推進など学力向上の取り組みや、かけ足・縄跳びなど体力向上の取り組み、30分の業間を設け運動に取り組む環境づくりを進めてきた。また、あいさつや掃除を進んで行う態度の育成にも努めてきた。このような取り組みの土台となる基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭と連携しながら取り組んできた。自主学習ノートのコピーを児童玄関に貼り学習の方法を紹介するなど、学習意欲の向上に努めた。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均）<br/> ○お父さんは「読み・書き・計算する力」が身についていますか。（3.4 3.4）<br/> ○お母さんは、家庭学習（宿題・自主学習・読書など）が身についていますか。（3.0 3.1）</p> <p>4年～6年児童アンケートのみの該当項目<br/> ○授業で学習したことは、将来役に立つと思いますか。（3.4）<br/> ○将来の夢や目標を持っていますか。（3.5）<br/> ○先生は、わかりやすく授業をすすめてくれていますか。（3.5）</p> <p>【成果】家庭学習の仕方を伝えてきたことで、低学年児童の中にも自主学習を始める子が出てきた。ノートを書くことが日常化されたり自分の考えを持って授業に臨んだりする力も付いてきている。家庭学習の定着が十分でない児童については家庭訪問を繰り返し、生活習慣・学習習慣をどのように家庭でつけていくのかを保護者と話し合ってきた。また、体育の授業では体力向上を意識した運動を取り入れていることで、運動を楽しむ姿が増えてきている。</p> <p>【課題】基礎学力・基礎体力が十分でない児童の中には、じっくり取り組めない・取り組む意識が持てない子があり、基礎学力の定着にも課題が残る児童がいる。引き続き、個別指導や支援（TT体制）を継続して、一人ひとりの「学力・体力向上」「基本的な生活習慣の定着」を図るために、子どもの実態に合わせて継続的に取り組んでいきたい。</p> |   |

|                          |  |   |
|--------------------------|--|---|
| 重点目標 4                   | 一人ひとりを大切にした教育  | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>校内特別支援委員会を中心に学校全体で支援のあり方を考え、保護者と相談をしながら一人ひとりの児童に合わせた支援を進めてきた。さらに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携し、児童や保護者の困り感を少しでも取り除き、「学ぶことが楽しい学校」を目指して取り組んできた。支援が個別に必要な児童は、あけぼの学園・あさけ診療所・通級指導教室・教育支援課との連携なども行った。また、学期ごとに1回（1ヶ月間）各担任が教育相談の時間を個別にとり、児童に悩みがないか確かめ、支援をしてきた。教育相談でつかんだ課題に対しては、全職員で共有し、児童自らが「いじめ」の加害者にも被害者にもならないよう取り組んだ。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均）<br/> ○学校は、保護者からの相談などについていねいに対応していますか。（3.5 3.3）<br/> ○学校は、一人ひとりの違いを受け止めて、子どもの理解・支援を適切に行っていますか。（3.4 3.3）</p> <p>【成果】可能な限り個別の対応を行い、全職員で特別支援教育のあり方を話し合うとともに、共通理解を図りながら取り組むことができた。また、家庭訪問等を通して保護者の理解・協力も得ながら、子どもへの支援を進めた。さらに、中学校や関係機関と連携して進学に向けたケース会議、保育園・幼稚園と連携して小学校の入学に向けた会議を持つこともできた。</p> <p>【課題】児童にどんな力をつけていくのかということや、支援ファイルを活用するだけでなく教師間や保護者と連携を密にして考えていく必要がある。</p> |   |

|                          |  |   |
|--------------------------|--|---|
| 重点目標 5                   | 地域に学ぶ・人とつながる取り組み   | 4 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>保護者・地域の協力が得られることを学校の強みと考え、地域の中にある教育力や子育て力、地域力を活用させていただき、人と人とのつながりに学ぶ学校を目指してきた。今年度もコミュニティかんざき運営委員会の方の全面的協力を受けて、児童の学びの場となる学校の環境整備や教育活動に直接協力をいただいた。また、学校ボランティア（図書ボランティアなど）の方に学ぶ機会も積極的に持った。さらに、本年度も地域の指導者の方に協力を得て、地域子ども教室を開催した。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均）<br/> ○学校は、保護者や地域の人たちから学び合う機会を積極的に持っていますか。（3.5）<br/> ○学校は、学校や授業を積極的に公開していますか。（3.6）</p> <p>【成果】今年度もたくさんのゲストティーチャーに出会い、人権や人とのつながり、神前の文化について、多くの学びの場を持つことができた。コミュニティかんざき運営委員の方々の協力もあり、自分たちや学校が地域の方に応援をしてもらっていることを強く感じている。また、地域行事への参加状況からみても「神前の町が好き」と感じられる気持ちが育っている。<br/> 【課題】今後も学校と地域が協力し合う形を継続していきたい。地域活動（地区運動会、里山保全活動、人権フェスティバル、文化祭、ウォークラリーなど）への参加を子どもたちに働きかけているが、活動内容に興味を示さない児童もいる。児童だけでなく保護者への働きかけもを行い、活動を充実させることに協力していきたい。</p> |   |

|                          |  |   |
|--------------------------|--|---|
| 重点目標 6                   | 安全・安心な学校づくり  | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>コミュニティかんざき運営委員の方々の応援も受けて、環境を整備するなどして地域との「つながり」が感じられる学校づくりを目指してきた。学校・学年・学級だよりやHPなどで子どもの様子をできる限り保護者・地域に伝えてきた。また、課題も知らせ、子どもの成長とともに考えることを通して、保護者・地域の方に安心してもらえる学校になるよう取り組みを進めた。また、通学路の環境整備、登下校の安全指導等、地域の方とも連携して取り組みを進めた。土曜授業を利用して緊急時引き渡し訓練も行うことができた。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均）<br/> ○お子さんは、けがや事故をしないように安全に気をつけていますか。（3.3 3.6）<br/> ○学校は、学校や子どもたちの様子などを通信や懇談会などで、分かりやすく伝えていきますか。（3.5）<br/> ○学校は、防災や防犯について、子どもたちに自分に身を守るための方法を伝えていきますか。（3.4）</p> <p>【成果】学級通信・学校だよりを発行し、子どもたちのありのままの姿を保護者に伝えるよう努めてきた。学校アンケートの結果からも好意的で応援して下さる保護者の姿を感じることができた。また、コミュニティかんざき運営委員の方々やボランティアをはじめ、学校に来て下さる姿を目にする機会が多く、「見守ってもらっている」「応援してもらっている」という気持ちを持つことができています。<br/> 【課題】防災の面では、まだ危機意識が薄いように感じている。「大きな災害があった時、落ち着いて行動できますか。」という児童への質問では2.9ポイントだったように、いざという時の行動を問われると自信が持てない様子がある。避難訓練等の事前指導を充実させ、今後も子どもたちの視点に立ち、不安と思うことを取り除き、防災の面からも安心して学べる学校づくりを目指していきたい。</p> |   |

## 2 改善方針

|  |
|--|
| <p>6つの重点項目を掲げて「地域に学ぶ・人とつながる」ことをこれまでと同じく本校の強みと位置付け、地域立の学校を目指してきた。校務分掌を学校づくりビジョンと結びつけ、重点項目ごとに達成目標や具体的方策を設定し、担当するチームを中心に各学期ごとに取り組みを確認し合ってきた。来年度は学期ごとの振り返りをもとに、より明確な方策を打ち出し取り組んでいく。また、取り組みの修正や改善をはじめ、気になることを学校だよりやHPにて保護者に伝えていく。こうした姿勢を学校が示し実践することで、保護者・地域の協力をより得ることができ、保護者・地域も含めた「チーム神前」となっていくと感じている。</p> <p>研修だよりの発行、授業力向上に向けて一人ひとりの公開授業の実践などを継続しながら、子どもの学力向上をより一層意識して学び合う授業づくりを進めていきたい。また、学力・学習状況調査や新体力テストの結果を活用し、今後も学習指導の改善・充実に向けて取り組んでいきたい。</p> |
|--|

【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 桜小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 1        | 確かな学力の育成   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○授業後の「ふりかえり」の場が定着し、確実に力がついてきた。内容面に関する文章量も増えてきた。</p> <p>○「話す・聴く」については、ペア学習やグループ学習を教師が意識して取り組むことで、児童に達成感を持たせることができた。</p> <p>○朝学習を計画的に行い、習慣づける事ができた。</p> <p>○少人数指導を取り入れることで、一人ひとりの様子をしっかりと見ることができた。高学年では、ノート指導など効果的に指導を進めることができた。一方で、低学年では、児童の実態に応じた取り組み（クラスで分ける）にした方が良かった。</p> <p>△家庭学習の定着が学年によって差が大きいように感じる。自主学習の習慣化が非常に難しい。</p> <p>△学習規律の徹底を通年を通して意識する必要がある。</p>  |   |
| 重点目標 2        | 豊かな人間性の育成  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○QU調査後に実施した教育相談が、子どもたちの実態把握に非常に役立った。</p> <p>○学校の決まりや子どもたちの指導を、全職員で統一してきたため、子どもたちの「落ち着いて学習する姿」が見られるようになった。指導の判断に迷った時でもすぐに全職員で統一したことで、どの子にも同じ指導をすることができた。</p> <p>△高学年の活躍の場を増やし、自尊感情を高める取り組みに力を入れていく必要がある。</p> <p>△異学年交流の取り組みを通して、高学年が低学年のモデルとなるような機会を増やしていく必要がある。</p> <p>△「挨拶について」普段かかわりのある人には進んでできるが、そうでない人には積極的に挨拶ができない。校内で気持ちの良い挨拶が聞こえるような学校を目指したい。</p> <p>△子ども同士や教師の、「くん」「ちゃん」の呼び方や呼びすてが多い。ジェンダーの観点からも、「さん」を意識して使わせていきたい。</p> |   |
| 重点目標 3        | 健康な心と身体の育成   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○毎週水曜日の20分休みを「全校外遊びデー」と設定し、体を動かすことを楽しむ機会を増やした。外に出て元気に遊ぶ子どもたちの姿が見られた。</p> <p>○校内夏季研修で5分間運動の実技講習を実施し、5分間運動の充実を進めた。また、体育科の年間指導計画のガイドラインを設定し、単元ごとに系統性を持たせた学年の目標を設定したことで、充実した指導を進めることができた。</p> <p>○食育について、指導部主導で学期ごとに指導案を提案し、全校で指導を進めたことで、児童の食に対する意識の啓発を進めることができた。</p> <p>△寒い季節になると、高学年になるにつれて、外に出なくなる傾向が強い。</p> <p>△食育指導の充実により、食の大切さが子どもたちに伝わっているものの、実際の食事に生かされていないことが多い。</p> <p>△危険予測ができていない児童が多い。</p>                             |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 4        | 学校教育の向上   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○多様な教科研修でUDの進め方の教材研究を深めることができた。</p> <p>○算数科において、まとめや振り返りを適応問題にしたことがよかった。</p> <p>○仲間づくりで本校が目指す人権目標や子どもの姿、指導について全職員で共通理解して取り組みを進めることができた。</p> <p>○毎月、人権教育の取り組み内容を確認することで、教師の人権意識について振り返る機会を持つことができた。</p> <p>△SSTやSGEの取り組みを全校実施から学年によって方法を検討する必要がある。</p> <p>△全教職員でUD教育を進めるために、ユニットカードによる板書を徹底する。</p> <p>△教師の指導力の向上や授業改善を図るために、研究授業の持ち方を再検討する必要がある。</p> <p>△教職員の県外研への積極的な参加と還流報告を推進していく。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 5        | 地域とともにある学校づくり  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○今年度も作品展を実施することで、児童の頑張っている姿や一生懸命に取り組んだ作品を見ていただくことができた。</p> <p>○保護者アンケート『学校は、授業参観や学校行事、懇談会、各種通信・ホームページなどで、学校の活動や子どもの様子を伝えてますか。』で、98%の高評価を得ている。学校だよりをはじめ、HPや授業公開など積極的に情報発信がなされている。また、年間計画の中でも位置づけられており、計画的に進められている。</p> <p>○図書ボランティア（読み聞かせ・飾り付け）や環境支援ボランティアの方々が、学校の教育環境整備に積極的に関わってもらっている。</p> <p>○年度末（3学期）に学校評価を行うことで、一年間の学習活動の反省の場をきちんと設けることができています。</p> |   |

## 2 改善方針

|  |
|--|
| <p><b>【学習・研修】</b></p> <p>○家庭学習の定着に向けて、全学年統一した取り組みを年度初めに丁寧に行う。</p> <p>○学級文庫を充実させる。また、高学年には「読書通帳」を持たせ、子どもたちがより読書に取り組める環境を作る。</p> <p>○教師の指導力の向上や授業改善を図るために、研究授業の持ち方を再検討する必要がある。</p> <p>○教職員の県外研への積極的な参加と還流報告を推進していく。</p> <p><b>【生指】</b></p> <p>○登下校時にも上級生が下級生に自然と声をかけることができるような関係づくりを、普段の教育活動の中で進めていく必要がある。（清掃分担の工夫・委員会活動の活性化等）</p> <p>○学校生活の中で、児童が自ら主体的に考え活動する場面や機会（挨拶の励行・清掃活動の充実・委員会活動の見える化等）を設けていく必要がある。</p> <p>○異学年交流の機会を増やしていく。高学年が低学年のお世話をすることで、高学年としての自覚と責任を持たせたい。</p> <p><b>【健安】</b></p> <p>○授業参観等で食育を行い、保護者に向けて啓発を進める。</p> <p>○体育委員会や児童委員会による、外遊びデーを活用した異学年交流を進める。</p> |
|--|

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 県小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 1        | 確かな学力の定着   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習、家庭学習での反復学習を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、児童のつまづきを解消するために県が作成した学習プリントを活用し、基礎学力の定着に取り組んだ。そのため、保護者アンケートで、「学校は基礎・基本の定着に努め、学力の向上に取り組んでいると思うか」の項目で、「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合は93.7%と昨年度より2.3%高くなった。</li> <li>・「家庭学習の手引き」の配布を通して、家庭学習の充実を図っている。児童のアンケートで、「宿題などの家庭学習をしているか。」の項目で「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合は93.8%と昨年度より1.6%高くなった。また、自主学習に積極的に取り組む児童も多く、頑張っている自主学習ノートを紹介するなどし、児童のやる気を喚起させている。</li> <li>・語彙が乏しく、言語活用能力に課題が見られるので、学習内容の精選、指導の工夫について研修を行い、これからも継続して全職員で取り組んでいく。</li> </ul>  |   |
| 重点目標 2        | 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・あがたっ子委員会を中心として、月別の生活目標に取り組むことで、挨拶や黙って集中して掃除をする姿勢など基本的な生活規律や規範意識を向上させることができた。挨拶については、児童・保護者アンケートともに昨年度よりも「挨拶をしている」と回答した割合が高くなり、取り組みの成果が表れている。今後も、学校・家庭・地域が連携して取り組みを進めていく。</li> <li>・児童アンケートでも「いじめや差別は絶対にいけないことだ。」と回答した児童が昨年度と同じで99%を超えている。また、「自分に良いところがあると思うか」の項目も昨年度を4.3%も上回り、85%となった。学校全体で心をつなぐ仲間づくりに取り組んでいる成果と考える。全教職員で全児童を見ていくということを大切に、すべての教育活動に取り組んでいく。</li> <li>・学校図書館司書・図書ボランティアさんの取り組みにより、読書に親しむ機会を持つことを大切にしている。その結果、児童アンケートでも「本を読むことが好きですか」に「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合が87.9%と高くなっている。</li> </ul> |   |
| 重点目標 3        | 健康安全教育の推進  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校で体力向上の取り組み（業間かけ足や業間なわとび）を行い、体力向上の意識を高めることができた。また、授業の初めに5分間運動を取り入れ、日ごろから運動量の確保を目指すことができた。</li> <li>・栄養教諭や地域の農家と連携し、食育の授業を行った。また、食育の通信を発行し、保護者にも関心を持ってもらうことができた。</li> <li>・学校保健委員会や薬物乱用防止教室の授業を実施し、健康づくりについて考えることができた。</li> <li>・防災についての取り組みに加え、防犯に対する取り組みもさらに実施していく。教職員の研修も行うことができた。</li> <li>・児童アンケートで「けがや事故をしないように、安全に気を付けて生活していますか。」の項目で、「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合は、94.7%とさらに高くなった。実際の場面をとらえ、危険予知についても指導していく。</li> </ul>   |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 4        | 特別支援教育の充実  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に校内特別支援委員会を開き、児童の実態把握や情報交換を行い、支援の在り方について話し合った。早期に保護者とも共通理解を図ることで、必要に応じて、スクールカウンセラーや関係機関につながることができた。</li> <li>・まずは、担任が児童や保護者の思いに耳を傾け、信頼される関係づくりに努めた。保護者アンケートで、「子どもたち一人ひとりが自分の持てる力を発揮して、学習や様々な活動に参加できるように努めていると思いますか。」の項目で「そう思う」、「大体そう思う」と回答した割合が、昨年度同様90.5%とよい評価を得ることができた。</li> <li>・授業でのユニバーサルデザインについて取り組みを交流し、取り入れることで、支援の必要な児童が安心して学習ができるようになった。</li> </ul> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 5        | 教師力の向上  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教師が公開授業を計画的に行うことができた。授業に向けて、事前の指導案検討・事後の研究討議を行うことで、教師の指導力向上につながった。</li> <li>・言語活動の充実を軸に研修を進めて3年目になり、教師・児童ともに、ペアやグループ学習の時間をとり、コミュニケーションの大切さを意識して学習する姿勢が身についてきた。ただ、児童アンケートの「授業中に友だちの意見を聞いたり、自分の意見を発表したりしていますか。」の項目の「そう思う」「まあそう思う」の割合が昨年度より2.9ポイントも下がっている。教師側と児童との意識の差が見られる。学び合いの授業のよさを感じられるよう、さらに研修を積み、充実を図っていく。</li> <li>・ICTを活用した授業を行うことで、さらに効果を上げていくことができるように相互研修やミニ研修などのOJT研修を行い、活用を推進していく。</li> </ul> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 6        | 家庭・地域と協働する学校  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的にタイムリーな情報発信に努め、学校だよりの発行やホームページの学校の様子の更新の回数を多くするように努めた。しかし、保護者アンケートの「通信（学校・学年・学級）やホームページなどで学校や子どもたちの様子をよく伝えていると思いますか。」の項目の「そう思う」「まあそう思う」の割合は昨年度より1.5%下がっている。ホームページの学年のページの更新頻度に差がみられることもあり、学校としてどの保護者にとってタイムリーな情報発信を行えるようにしていく。</li> <li>・地域の人材や地域の施設などの活用を行い、学習を深めることができた。今年度は、地域の防災に取り組んで見える方を講師に招いての学習や地域の桜を大切にする活動など新たな学習を行うことができた。</li> <li>・地域連携花壇の取り組みなど継続すべきところと、学習内容の統合や精選すべきところなど今後検討が必要であることが課題である。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

・保護者アンケートの「学校の教育活動に満足していますか」の項目では、「そう思う」「まあそう思う」と回答した保護者が93%と高くなっているが、昨年度よりも2.5%減少した。保護者の満足度を維持できるよう改善の工夫を行いたい。また、児童アンケート「学校が楽しいですか。」の項目に「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合が92.8%と昨年度より1.8%下がっている。児童が楽しいと思える学校生活を送れるようにするためには、教育相談等を通じて、一人ひとりの思いを大切にするとともに、お互いが認め合える学校・学級づくり、授業づくりをめざしていく必要がある。今まで以上に授業改善に学校全体として取り組んでいく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 三重小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|                          |   |   |
|--------------------------|---|---|
| 重点目標1                    | 確かな学力の定着  | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロセス意識：活動時間の増加、全教科で家庭学習・反復学習により基礎学力の定着を進めることができた。</li> <li>・基本的な知識・技能の定着：個に応じた課題を出し、学力の定着に努めた。</li> <li>・自主学習：学年に応じた時間の定着ができ、1日1ページできるようになった。</li> <li>・書く力の向上：ワークシート等ノート指導・日記指導・新聞づくりを行い、定期的にかいたり、継続して取り組みをおこなったりしてきた。</li> <li>・家庭学習の定着：九九カード・音読カードなどを使い、学習中だけでなく繰り返し練習させた。</li> <li>・学習意欲：見通しをもった授業展開を意識したことで、子どもたちの意欲向上につながることができた。計算が苦手な子どもに対して、T2の教師が支援に入ることはとても有効であった。ペア・グループ活動や具体物を取り入れることで、主体的に学びに向かう姿が見られた。</li> </ul> <p>個々の課題に応じたものを提示することで、学習に困り感がある子どもに対して有効であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数授業：丁寧な指導ができ、「わからない」をそのまま放っておくことが少なくなった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の格差：自主学習の内容に差がある。学習後、時間をおいて復習させたり習熟に時間をかけたりすることを、意識的に組み入れていくことが必要である。学年の都合があり、ITや少人数の学習の充実を図ることができなかった。</li> <li>・指導方法：毎時間T2の教師が入ることがないため、子どもたちにミニ先生として教えさせたが、まだまだ不十分な面も見られた。学年の都合があり、ITや少人数の学習の充実を図ることができなかった。ICTの充実も必要である。</li> </ul> |   |
| 重点目標2                    | 豊かな人間性の育成   | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の規律：三つの約束の「あいさつ」では、代表委員による放送での啓発が意欲につながっていた。「時間を守る」では、生活目標を守ろうと意識して行動できるようになってきた。</li> <li>・読書活動：朝の読書で静かに落ち着いて始められる雰囲気がある。朝読・読み聞かせ・ボランティア活動などにより、本に親しむ機会が増えた。秋の読書月間のブックラリーにより、読書の幅が増えた。</li> <li>・授業の充実：道徳の資料を学年で事前に用意し、授業でも有効に活用できた。</li> <li>・思いやり・支え合い：教師（児童も含め）が、「子どもの良い姿」を評価し、全員で認め合えるように指導してきた。子どもの自尊感情を高められるような声かけを心がけた。子ども達が関わる場をつくり、学級がまとまるような取り組みも年間を通してできた。</li> <li>・道徳教育：代表委員会の取り組み（児童集会・昼の放送・〇〇週間など）、行事（自然教室・社会見学）や人権総合でも、すすめることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ・ろうかを走る・トイレのスリッパなど、まだまだみえっ子のルールを守れていない現状が見られる。自己肯定感の低い子どもがいる。</li> <li>・一部の子どものみえっ子であるが、学習規律や生活習慣の定着を図ることが必要である。</li> <li>・学級文庫を充実させ、子ども達が興味をもつ読書コーナーにしたい。</li> </ul>  |   |
| 重点目標3                    | 健康・体力の向上  | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上：大縄の取り組みとして、兄弟学年の交流や長縄記録会により外で体を動かし、運動に親しむことができた。5分間運動、学級レクを週1回以上取り、体を積極的に動かす機会をとった。おたぴよんの活用で、技術が向上し意欲も向上した。</li> <li>・食育推進：栄養教諭の授業により、食に対する意識が高まった。給食委員会が放送で発信することで、残菜が少なくなってきた。また、献立表のメニュー名だけでなく、食材まで見ている児童が多い。</li> <li>・生活リズムチェックの向上：生活リズムチェックによる生活習慣の意識の向上が見られた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動能力の個人差・運動能力に差があり、外遊びや運動に消極的な子どもがいる。</li> <li>・生活習慣の崩れ：家庭でのゲームによる生活習慣が崩れている子への指導として、授業参観等で保護者に発信が必要である。</li> </ul>  |   |



|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 4        | 教職員の協働   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の準備：教材研究・行事の計画を学年で協力して行うことができた。</li> <li>・共通理解の推進：学年内での情報交換を密にできた。情報交換を基に、学級・学年間で連携した支援を進めた。情報交換・ケース会議を行うことで、複数の視点で考えられるとができた。学校内が支援の必要な学級に対して、協力的な雰囲気である。一人で抱え込むことのないような配慮があつてよかった。</li> <li>・業務アシスタントの活用：活用することで、時間的な余裕をもって資料等を作成するようになった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の課題をもつ児童への対応や専門機関へのつなぐ判断等が遅いこともあり、後手になっていることもある。</li> <li>・会議の時間を決めて行うとよい。</li> <li>・特別支援教育：教職員の意識をさらに向上させる必要がある。特別支援学級との交流方法の検討が必要である。</li> <li>・時間的なゆとりを確保する。</li> </ul> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 5        | 家庭・地域との協働  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との協働活動：保護者や地域の方に、図書ボランティアや調理ボランティア、学習ボランティアとして協力をしていただける環境ができている。1年に1回、地域のお年寄り（長寿会）との交流や、毎日の登下校の見守りをしていただいている。炊き出し体験・戦争体験などゲストティーチャーによる授業が良かった。防災教育や米づくり等でもお世話になっている。</li> <li>・みえ委員会（コミュニティ）：教育活動を知っていただける機会として有効である。地域の方の声を聞ける貴重な機会である。</li> <li>・HPや通信により、情報発信が充実ができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムチェックやテレビ・ゲーム0の日：活動の取り組みをしても、改善されない家庭への啓発が必要である。</li> <li>・地域でお世話になっている人の顔や名前が分からない。ボランティアの人の紹介や顔写真を掲示する方法をとれたらと思う。</li> <li>・HP作成に時間がかかり、更新回数が低い。誰がどの程度見ているのか、誰のために作成しているのか分かりにくいいため、やりがいが感じられない。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

- ・児童の情報共有・共通理解をさらに密にしていく。
- ・家庭への啓発・連携をさらに進めていく。
- ・ケース会議の改善：授業改善が課題なのか、個々の支援が課題なのかの見極めが大事である。外部や地域に協力してもらう体制づくりも必要である。
- ・教職員全体の総勤務時間の縮小をはかる。
- ・地域・家庭との連携をさらに深めることで、教育活動の充実を図る。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 大矢知興譲小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 1        | 確かな学力の定着   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「四日市モデル」を軸とした問題解決能力向上のための授業づくりを目指した研修を行った。昨年度に重点とした「第2プロセス」に加えて、児童が主体的に自分の考えを深めたり広げたりするために特に必要であると思われる「第4プロセス」に重点をおいて取り組んだ。表現スキルや場づくり、ツールなど学校全体で取り組んだことで、主体的に学ぼうとする姿には近づいた。しかし、自分の考えを深めたり広げたりするところまでは至らなかった。またICTの活用の視点から全教科でタブレット端末を積極的に使い、どのようにICTを活用できるか模索してきた。来年度に向けて、「主体的に対話的な深い学び」につながるICTの活用を主研修と絡めて研修していきたい。</li> <li>・学ぶ楽しさが実感できる授業づくりでは、児童自身に「何を」「どんな方法で」考えていけばいいか、問題解決の見通しを持たせるために、全校で統一して「課題」と「ふりかえり」の習慣化を図る指導をした。さらに学力・学習調査等の結果を踏まえて、プリントを作成し複雑な問題にも慣れ、国算の定着を図った。学習規律の定着に関しては、筆箱の中身を明確化し、共通認識を高め指導を徹底することができた。ただ、不要なものが入っていることもあり、定期的に確認をする必要があった。</li> </ul>   |   |
| 重点目標 2        | 豊かな人間性の育成  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に響く道徳教育の推進に関して、年間指導計画を見直し、全学年が計画に沿って履修できるように道徳教育の推進を図った。今年度行った各学年の取り組みを生かしつつ、来年度の子どもの実態に合わせて修正を加えながら道徳教育を推進していきたい。</li> <li>・人権教育の充実に関しては、11月の学校公開日に全校一斉に人権学習を行い、内容の周知を図った。多くの参観をいただき、本校の人権の取り組みについて理解していただく機会となった。「人権教育推進校」の指定を受け、人権・同和教育の研修会に多数参加し、研修を深めることができた。本事業で購入した書籍を来年度の実践にも生かしていきたい。「せいかつ」実践交流会の発表に向け、学校全体でレポート検討を行うとともに、教材を使った人権学習について研修を行った。来年度も引き続き、各学年の重点課題を中心として実践を進めていきたい。</li> <li>・生徒指導の充実として、いじめアンケートを定期的に行い、安心して過ごせる学級・学校づくりの推進に努めた。担任だけでなく学年部や管理職と連携して、いじめなどの様々な問題に対応することができた。アンケート結果にもとづき、効果的な指導をすすめていくことが今後の課題である。Q-Uによる分析とそれを受けて児童一人ひとりに寄り添う教育相談を行うことができた。児童一人ひとりの相談を行う時間をいかに保障していくかが今後の課題である。</li> <li>・言語環境の充実として、学期に1回読書週間を設定し、朝の読書や委員会の子どもによる読み聞かせ、司書による読み聞かせなど、読書に親しむ活動を行った。2学期は、図書館まつり開催し、ボランティアによる、朝の読み聞かせや語り聞かせを行った。この期間にはチェックシートと合わせて家庭読書の啓発も行った。しかし、児童・保護者アンケートからは家庭での読書習慣が定着していないことが明らかとなっており、家庭と協力しながら、取組をすすめる必要がある。</li> </ul> |   |
| 重点目標 3        | 健康・体力の向上   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力・運動能力の向上に関しては、「めあて」と「振り返り」を意識して、主運動につながる5分間運動を実践することを継続してきたことで、指導の効率が向上し、充実した授業を進められるようになってきた。「めあて」と「振り返り」を実感できる児童は増えつつあるが、まだ十分とは言えないため継続した取り組みが必要である。5分間運動については、教師間の実践交流を含め今後も研修を進めていきたい。また、運動能力テストの結果を1年生から記録していることで、保健指導等で成長を実感できるようにしている。しかし、活用する機会を十分に設定していなかったため、記録を取っただけに留まっている部分もある。結果の有効的な活用方法を検討する必要がある。環境づくりにおいては、鉄棒月間や縄跳び月間の取り組みでは、運動場を有効的に活用できるように遊びの場と区分し、児童が進んで活動できるようにした。</li> <li>・健康・安全意識の向上に関して、食育の推進を行い、各学年だけでなく、栄養教諭や養護教諭と相談しながら、学年の実態に応じた指導を実施した。今後もさらに系統性を意識した指導をしていきたい。</li> </ul>   |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 4        | 学校教育力の向上   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の充実に関しては、各学年で計画、取組（実践）、振り返りを毎学期ごとに行ってきた。学年という組織の中で、それぞれの役割を發揮しながら力量や資質を向上できた。この学年組織を学校全体に広げて、さらに学校教育力を高めていきたい。また、教員が講師役になり、それぞれの専門性を發揮し、校内で共通理解できる場である、ミニ研修を実施してきた。参加は常に10人以上あり、「タブレット」について研修した時には、20人の参加があった。参加者からはいずれも「すぐに役立つ内容」として評価をもらった。教職員のニーズに応えられるよう、さらに短い時間でもいいので実施していきたい。</li> <li>・学びの一体化では、授業公開、子ども人権フォーラムを実施し、小中の交流を図ることができた。子どもの権利条約に関する研修会を行い、子どもの人権について理解を深めることができた。乗り入れ授業も昨年度より回数を増やすことができた。来年度は乗り入れ授業の計画を早めに立て、計画的に実施したい。</li> </ul> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 5        | 保護者・地域との協働   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の習慣化に向けた取り組みに関しては、家庭学習のやり方や帰宅後の過ごし方が定着できるように、年度初めに配布・指導し、通信などで家庭へも協力をお願いした。</li> <li>・地域の教育資源の活用…久留部遺跡や地域の施設の見学に行き、学年に応じて活用できた。田植え、勾玉づくり、消防など、外部の方に来ていただいたり伺ったりしてお話を聞かせていただく機会をたくさん設けた。</li> <li>・学校公開、校長だより、HP等で学校や子どもの様子を積極的に発信できたことから、保護者や地域との情報共有を図ることができた。</li> <li>・学習支援ボランティアの制度を導入したことにより、子どもたちが、教員以外の人との関わりの中で学び、視野が広がったり、子どもへのきめ細かい学習支援により、子どもの達成感ややる気、自信につながった。</li> <li>・登下校において、多くのボランティアや保護者の見守りがあることで、学校・保護者・地域ぐるみで子どもの安全を確保することができている。その一方で、あいさつする児童が少ないことが課題である。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

|   |
|---|
| <p>(確かな学力の定着)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での読書への取り組みを保護者の方に知ってもらう機会がないため、学年通信や学級通信などでも取り組みを取り組みを発信していく。</li> </ul> <p>(豊かな人間性の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートによりいじめが疑われるものは、再度聞き取りを行い、丁寧に対応できた。アンケート結果を早急に集約し、職員全体で情報共有することで、より多くの視点で児童一人ひとりを守るようにしていきたい。</li> <li>・教育相談の時間をしっかりと保障できるように意識して取り組んでいく。聞き取ったことを活かし、児童一人ひとりに向き合うためや寄り添うために活用していく。</li> </ul> |
|---|

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 八郷小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|                          |  |   |
|--------------------------|--|---|
| 重点目標 1                   | 確かな学力の育成   | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>【主な方策】</p> <p>①問題解決能力向上のための授業づくりに取り組む。</p> <p>②効果的な少人数指導等により基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。</p> <p>③言語（読む・書く・話す・聴く）活動を充実させ、言語能力の育成を図る。</p> <p>④ICTを活用したプログラミング教育や、外国語の授業（英語授業）の充実に取り組む。</p> <p>⑤読書活動・図書館指導を充実させ、本に親しむ子を育てる。</p> <p>【成果と課題】</p> <p>児童対象の生活アンケート「授業が分かりやすい」「授業で学んだことは将来の役に立つ」では、96%が肯定的な回答であった。少人数指導、ティーム・ティーチング等の成果と思われる。しかし、児童アンケート「自分から進んで家庭学習に取り組む」が81%で、保護者アンケート「自分から進んで家庭学習に取り組んでいる」が66%であり、学力向上に向けて学校全体で継続的に取り組む必要がある。</p> <p>また、「読書は好き」が76%であり、昨年度より低くなっている。読書環境を整備していきたい。</p>  |   |
| 重点目標 2                   | 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成  | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>【主な方策】</p> <p>①道徳教育の推進を図り、あいさつをはじめとした基本的な生活習慣の定着に取り組む。</p> <p>②いじめ調査・Q U調査等の実施により、安心して過ごせる学校・学級づくりに取り組む。</p> <p>③教育活動全体を通じた、キャリア教育の計画と推進に取り組む。</p> <p>④スクールカウンセラーや関係機関との連携のもと、教育相談の充実を図る。</p> <p>⑤地域行事に参加することで、ボランティア精神を育てる。</p> <p>【成果と課題】</p> <p>児童アンケートで100%の児童が「いじめは絶対にいけない」と考えている。しかし、いじめに対する思いの違いがあり、今後も「なかまづくり」研修やQ U調査の活用を通して、些細なトラブルも看過せず、きめ細やかな対応を行っていく必要がある。</p> <p>保護者アンケート「学校は相談したいときに気軽に相談できる」に対して、肯定的な回答が78%である。学級担任をはじめ、管理職、スクールカウンセラー等に気軽に相談できるようなシステムを構築していきたい。</p>   |   |
| 重点目標 3                   | 健康な心とたくましい体の育成   | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>【主な方策】</p> <p>①子どもが意欲的に運動に取り組むための、授業づくりや環境整備に取り組む。</p> <p>②学校保健委員会や学校医等との連携などを通して、心と体の健康教育推進に取り組む。</p> <p>③栄養教諭や関係機関と連携し、給食指導等を通して食に関する指導の充実を図る。</p> <p>④「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、規則正しい生活リズムの定着を図る。</p> <p>⑤危険予測能力の向上をめざし、様々な体験活動を生かした安全教育の充実を図る。</p> <p>【成果と課題】</p> <p>学校三師と連携した学校保健学習会、学校保健委員会の実施や、健診時の保健指導により、体と健康について考えることができた。また、栄養教諭を中心に、食に関する指導を行うことができた。しかし、児童アンケート「早寝早起きに気をつけている」では肯定的な回答が79%で、他の項目に比べ低くなっている。家庭と学校が連携して取り組む必要がある。</p> <p>また、「運動や外遊びは好き」と回答した児童が81%である。保護者アンケートでも「学校は子どもが意欲的に運動するための取組を積極的に行っている」の肯定的な回答の割合が79%である。体育科の授業や、業間かけあし、なわとび集会等の活動を通して、主体的に運動習慣をつけるように取り組んでいきたい。</p> |   |

|                          |   |   |
|--------------------------|---|---|
| 重点目標 4                   | 家庭・地域とともにある学校づくり  | 4 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>【主な方策】</p> <p>①学校運営協議会を核として、保護者・地域と協働する学校づくりを進める。</p> <p>②学校支援ボランティアの参画（図書・クラブ・安全・授業等）による教育活動の充実を図る。</p> <p>③地域と協働し、地域の資源（自然・歴史・施設・人）を活かした授業に取り組む。</p> <p>④学校教育活動や、子どもたちの様子の積極的な発信に努める。</p> <p>⑤実施したアンケートをもとに学校評価をいただき、学校経営の改善に努める。</p> <p>【成果と課題】</p> <p>保護者アンケート「コミュニティスクールとして学校・家庭・地域が協力・連携して、子どもの教育や通学の安全に取り組んでいる」では、92%の方が肯定的な回答である。四日市版コミュニティスクールとして、学校・家庭・地域が協働した学校づくりを推進しており、地域や保護者の方々が協力的で児童の様々な活動を支えてくださっている。今後もこの”つながり”を大切に、子どもたちの教育活動を進めていきたい。</p> <p>しかし、「地域の行事に参加している」という児童が79%で、年々低くなっている。地域の行事に参加できなくても、子どもが地域との接点、関わりを持っていることが大切であるので、地域全体で見守っていけるように、これからも地域の諸団体と連携をとっていきたい。</p> |   |

## 2 改善方針

・学力向上に向けて、学校全体として、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に取り組んでいく。また、地域の方々の力を活用して、授業中の支援、夏季休業中の学習支援等の取組を検討していく。

・図書館が各教室から遠く、休み時間等に図書館へ行って本を読んだり、調べたりすることが難しいという現状がある。図書館ボランティアの方々とも協力して、主体的に本と触れ合えることができるように、環境整備に取り組む。

・子どもたち一人ひとりの自尊感情を高めるために、仲間とのつながり大切にした授業づくり、学級づくりを進める。そして、いじめを見過ごさない風土をつくる。また、保護者、地域と連携して、社会的な規範意識を身につけることができるように取り組む。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 下野小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 1        | 子ども達の問題解決能力の向上を目指した教育活動の推進  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>(1) 問題解決のプロセスである「四日市モデル」を意識した授業改善を進める研修<br/>                 研修主題に「主体的に問題を解決しようとする力の育成を目指して～聴き合い、伝え合い、ともに学び合う授業づくり～」を掲げ、指導方法の基盤として「四日市モデル」を意識して研修を行った。その成果は「毎日の授業は分かりやすい。」とアンケートに肯定的評価をした児童の91.5%にあらわれている。教科によって取り組みやすさは異なるが、算数科で実績を多く残すことができた。しかし、振り返りができない時間があることや、どの教科でも取り組むこと、単元のどこに5つのプロセスを位置づけるかを考えていくこと等が課題である。</p> <p>(2) 確かな学力を育む授業の充実<br/>                 中学年では算数少人数指導として習熟度別学習に取り組む中で、多くの児童が「分かった」と実感できる時間を度々持つことができた。6年生算数では、2クラスを3人で計画的に指導した結果、三重の学Vivaシート等を用いて様々な問題で復習に取り組む時間を捻出できた。課題としては学調に対応できるような学力をつけていく必要がある。</p> <p>(3) 読書活動の充実<br/>                 低学年では毎週10冊ずつ、中学年では国語や総合の調べ学習活動に合わせた本を、高学年でも教科の学習に関わった本を、図書館司書に選書していただき、学年文庫の充実に努めた。読書週間に合わせて、銀の権による語り聞かせや、司書による読み聞かせやブックトーク等、本に親しむ機会を設定してきた。しかし保護者アンケートでは、家で本を読んでいるとの回答は49.2%と半数に満たなかった。スマホやゲームに費やす時間が増えていることに起因すると考えられる。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 2        | 自尊感情や人権感覚を育む学級づくり・学力保障・特別支援教育  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>(1) 人権教育や道徳教育を充実<br/>                 道徳の年間指導計画に沿って、教科書中心に指導したことで様々な道徳的価値について学習できた。行事や児童の実態に合わせて投げ込み教材も利用したが、指導項目については網羅した。<br/>                 人権の保障された学級づくりを目標として、授業中に「分からない」と言えたり、日頃から自分の気持ちを表現し受け止めてもらえたりできる仲間づくりに努めてきた。児童の97.2%が「いじめや仲間はずしをせず、友達と仲良くしている。」とアンケートに回答している。いじめ調査やQU調査を実施し、事後に個別で教育相談を持ち、個々の児童の内面を掴む努力をしている一方で、「困ったときに誰かに相談していますか。」に回答した児童は昨年より減って8割弱となった。希薄な人間関係の改善が求められていると感じられる。</p> <p>(2) 相談体制の充実<br/>                 今年度は年度途中からのサポートルーム対象児童や、日本語教室対象児童を増やす等して、個別の特別支援教育の充実に努め、成果が上がっている。また、夏季休業中に本校独自に行った講師を招いての特別支援教育研修は、2学期以降の実践に大変役立つものであった。今後は昨年度作成したの各クラスの合理的配慮の事例をもとに、学校として大切にしていけることを明らかにして全職員で取り組むとよい。</p> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 3        | 学校づくりビジョンの共有化と地域教育力の活用  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>(1) 地域の特性を生かした人材活用<br/>         地域連携授業、楽寿会、図書ボランティア、町探検先、シイタケ栽培、米作り等、地域の方の協力を全ての学年で得ることができた。保護者の98.6%もの方々が「地域連携授業、生活科、地域学習などで、地域の人々の協力を得た取り組みを進めている。」と評価してくださっている。又、今年から新しい地域教材として、「下野の梨づくり」を始め、12月に6年生が地域の方の指導の下、1回目の植樹を行った。今後2年かけて植樹を続け、世話をし育て、3年後以降の収穫へとつなげることになった。尚、本校の様々な地域と連携した取り組みが評価され、「第13回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」の表彰校に選ばれ、文部科学大臣表彰を受けた。</p> <p>(2) 人と人とのつながりやかかわりを深める取組の推進<br/>         様々な活動の中、児童相互だけでなく、地域の方々との繋がりや関わりが深まった。</p> |   |

## 2 改善方針

確かな学力をつけるということでは、来年度からの新学習指導要領で求められる学力観について、研修委員会を中心に全職員で話し合い、共通認識のもと指導に当たっていくようにしなければならない。具体的な方法として、少人数教育の充実や、高学年における教科担任制を進めることを考えている。

学校の中には集団になじめない児童がいる。その児童に対しては担任だけでなく、支援員を効果的に配置するなど学年や学校全体で対応することを引き続き大前提としたい。

【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 水沢小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 1        | 確かな学力の伸長   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | ○研修課題の「書く活動を活かして」については、5、6年生のノートから、使い方がオリジナリティで、低学年からの積み重ねもあり、おおむねできてきた。<br>○全体研修会で組織的に取り組むことができた。事前研を行い、全体研がより充実したものとなった。<br>●研修の課題としては、ペアで話したくなるような発問を考えていく必要がある。<br>○土日読書を宿題に出し、家庭での読書週間の啓発を行った。<br>○「本も友だち」など継続した読書指導により、学校では朝読の時間など集中して静かに読む姿が見られた。<br>○読書週間のビンゴや図書くじで、読書に興味をもてる取り組みができた。<br>○図書だよりを月1回発行することができた。<br>○生活リズムチェックが読書推進に役立った。 |   |
| 重点目標 2        | 水沢と共に育つ子どもの育成（CS目標）  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | ○コミュニティスクールとしての活動を継続できており、児童にとってとても地域の伝統や文化、また、地域の方との交流を図ることができた。<br>○地域の人々とのふれあいの中で、地場産業を知り、地域の中で十分に郷土愛を育むなど、道徳の中でも十分学ぶことができた。<br>●地域との連携、充実、発展を大切にしながら行事等を進めてきたが、日々の学習をすすめる上で、時間的にたいへん厳しいものがあった。   |   |
| 重点目標 3        | 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | ○仲間づくり研修会を年3回開き、定期的に研修を深めることができた。<br>○教師自身の人権感覚を磨くための研修をおこなうことができた。<br>○特別の教科道徳の全体研を行うことにより、教師の意識も高まり、評価にもいかせた。<br>○なわとび集会やかけ足等、学年間で活動したことが、児童にとって良い経験となった。<br>●Q-Uのデータ結果を活用した学級づくりを行うため、1学期末にも学年部会等で研修をもつ。  |   |



|                   |  |   |
|-------------------|--|---|
| 重点目標 4            | 地域と連携した安全・健康・体力の向上   | 4 |
| 主な方策<br><br>成果と課題 | <p>○長距離走、なわとびなどの学習を中心に、全校規模で学習カード（めあてカード）を用いた「めあてと振り返りの学習」に取り組むことができた。</p> <p>○地域の任意団体（水沢連合防災会ガーベラグループ）と連携し、児童の具体的な実践力を育むための防災教育を実施することができた。</p> <p>○校内かけ足記録から地域のマラソン大会へとつなげることにより、地域と連携した体力の向上に努めることができた。</p> |   |

## 2 改善方針

- ・学校評価において、家庭での読書率が他の項目に比べると低い。家庭への啓発活動が必要である。
- ・生活リズムチェックに、ノーテレビ・ノーゲームの日を1日程度取り入れていく。
- ・道徳の授業についても、お互いの授業を見合える時間をつくり、授業力を向上させる。
- ・地域との連携を密にしながらも、行事のスリム化を図っていく。

## 【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 保々小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標1         | 聴き合い語り合う授業づくり   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴き合い、考え合いとなる課題の提示。</li> <li>・なかまの思いを聴き取り、自分の考えを話すことができる子の育成。</li> <li>・授業のふりかえりができ、書くことを大切にする。</li> <li>・ペアやグループでの学習を取り入れ、友だちとともに課題を迫及する学習。</li> <li>・「わかった」「できるようになった」と感じられる授業づくり。</li> <li>・「学び」のたのしさを追求する子の育成。</li> <li>・食育や健康教育等を通して自分の体を知り、丈夫な体を作ろうとする子どもの育成。</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <p>○課題づくりについて研修を深め、めあてを提示することで、子どもがその授業で何を学ぶのかをはっきりさせた上で課題をつくらうとする教職員の意識が高まった。</p> <p>○子どもアンケート「けがや事故をしないように安全に気をつけていますか」の項目についての肯定的回答が94.6%となっており、食育や保健指導の授業で「自分だったら」ということが大切にされ、子どもたちが自分の生活にもどしたり、自分を知ったりする機会にすることができていたことがわかる。</p> <p>●ふりかえりとして、学んだことを文にまとめて書く活動の必要性について学校全体で確認してきたが、具体的な実践として十分な成果があるとは言えない。子どもたちにとっての「学ぶことがたのしい」「わかった」「できるようになった」という実感を、子どもたち自身が持つためにも、引き続き学びのふりかえりを書くという活動に力を入れていく。</p>  |   |
| 重点目標2         | 支え合う仲間づくり   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通じた自尊感情の育成。</li> <li>・なかまの考えや思いを聴き合い・語り合うことを通して、自尊感情を育む。</li> <li>・お互いを認め合う学級づくり(遊び、日記指導等)</li> <li>・学年で取組み、学年集団として高まろうとする活動。</li> <li>・委員会や係活動などの自主的な活動や掃除への取組み。</li> <li>・友だちの意見を最後まで聴き、自分の考えを返し行動できる子の育成。</li> <li>・ルールやマナーの順守など道徳心の修得。</li> <li>・人権問題を解決しようとする子の育成。</li> <li>・自分の生き方について学び合う人権総合学習・生活科への取組み。</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <p>○「学校の約束やきまりを守っていますか」の肯定的回答率は89.8%から91.8%となった。教職員間で改善すべきことを話し合い、指導すべき重点項目を決めて取り組んだ。また運営委員会で、子どもたちが学校の課題を出し合い、ろうかのマナーやトイレの使い方のマナーを改善しようと取り組んだ。ルールやマナーについてお互いで声を掛け合う姿多く見られ、主体的に取り組むことができた。</p> <p>●日頃から、子どもとの温かな触れ合いを持ったり、いじめを絶対に許さないという姿勢を示したりし、毎学期いじめアンケートと教育相談を行うことにより、子どもの実態をつかみ、いじめの早期発見・早期対応をすることに努めてきた。しかし、子どもアンケート「いじめやなかまはずしはしていませんか」の肯定的回答率は、昨年度95.5%から90.7%となった。</p>   |   |
| 重点目標3         | 学習・生活の支援体制づくり   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Q Uを活かしたなかまづくり。</li> <li>・場に合わせた挨拶ができる子の育成。</li> <li>・学習環境の整備。</li> <li>・図書室の整備。毎朝の読書を通じた読書好きな子の育成。</li> <li>・基礎学力充実タイムによる基礎学力の定着。のびこタイムなどによる個別支援。</li> <li>・特別支援教育の充実。</li> <li>・I C T機器やホワイトボードの活用。</li> <li>・学習園活用等、自然の恵みや環境を守ることの必要性を体感できる活動。</li> <li>・家庭と連携した生活習慣の定着、自主的な読書習慣、家庭学習定着の取組。</li> <li>・保幼小中高が連携した支援体制づくり。</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <p>○T Tや習熟度別といった少人数授業について、子どもの実態に合わせた効果的なものとする方法を考え、教職員全体で共有することで、すべての子どもの学力保障につなげていくことができた。</p> <p>○家庭学習振り返り週間から見えてきた子どもの課題について、学級通信を通して保護者に発信することで、保護者の意識が変化するよう取り組むことができた。</p> <p>●保護者アンケート「読書をしていますか」の肯定的回答が46.5%とかなり低くなっていることからわかるように、家庭読書の働きかけが十分ではない。</p> <p>●「すすんであいさつをしていますか」の肯定的回答率は89.7%から87.9%になった。児童の運営委員が中心となり、あいさつ運動や呼びかけを行ったり、地区別児童会の際には、集合場所についたらあいさつをすることや地域の方や車の方が止まってくれた際には会釈をするなどの指導も併せて行っているが、子どもたちは場に合わせた挨拶はできていない現状がある。</p> |   |

|        |  |   |
|--------|--|---|
| 重点目標 4 | 地域の方に学ぶ・人がつながる学校づくり  | 4 |
| 主な方策   | <p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会として、地域の方に学ぶ・人がつながる活動への取組。</li> <li>・人権総合学習・生活科の活動に地域の方に学ぶ・人とつながる活動の積極的な取り入れ。</li> <li>・フリー参観、懇談会、講演会、保々の集い、プール開放、クラブ活動、ボランティア活動など、保護者・地域住民の参画の更なる推進。</li> </ul>   |   |
| 成果と課題  | <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の方に協力していただきながら登下校のパトロールを行い、学校・保護者・地域が連携して、子どものことを見ることができている。</li> <li>○地区懇談会では、保護者や地域の方へのいじめ防止への啓発の一つとして四日市市教育委員会から出ている「かけがえのない子どもたちのために」を配布し、家庭や地域での子どもの姿で気づいたことがあったら学校に連絡をくださいと呼びかけ、保護者や地域の方と一緒にいじめをなくそうと呼びかけを行った。</li> <li>○人権総合学習・生活科の活動で人との出会い学習を積極的に多くの学年で取り入れることができた。</li> </ul> |   |

|        |   |   |
|--------|---|---|
| 重点目標 5 | 安全・安心な学校づくり   | 3 |
| 主な方策   | <p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラー等活用し、子ども・保護者の心のサポートへの取組。</li> <li>・いじめ、仲間はずしのない学校を、子どもたちと共に創造。</li> <li>・学校・学年・学級だより、ホームページを通して、教育活動のねらいや子どもたちの姿、学校の様子を積極的に発信。</li> <li>・栽培活動や飼育活動を通して、うるおいある環境づくり。</li> <li>・児童の安全意識・防犯意識づくりに取り組み、自分の命を守ることができる子の育成。</li> </ul>  |   |
| 成果と課題  | <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度、津波想定避難訓練を保幼と合同で行うことができた。抜き打ちでの1次避難を行い、その後、2次避難として津波想定避難を行った。子どもたちは、自分たちの住んでいる地域に津波が来るという意識はあまりないが、いどこにいても自分で考えて避難することができるような子どもたちの育成に努めたい。</li> <li>●『訓練、訓練』という放送で即座に地震と思って行動してしまう子どもの姿が見られる。マニュアル化にならずその場の状況で行動できるように、教職員が防災意識を高め、子どもの命を守る指導をできるようにする一方で、子どもが自分で自分の命を守れるよう、防災教育の充実をはかっていきたい。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

○「子どもたちは様々な体験の中で自己選択・自己決定をし、試行錯誤しながら成長していく。その中で、子どもの活動を支えていくのが生活指導」ということを全職員の共通理解のもとに指導にあたっていきたい。子どもアンケートの「自分の思ったことを相手に話していますか」では、前年度より肯定的回答が2%下がっている。教職員がロールモデルとなって子ども一人ひとりの思いや考えを聞き、子どもたち一人ひとりの背景を含めて理解しようとし、聴き合える素地を養っていきたい。

○けが（特に意識することで減らすことのできるけが）を減らすことが喫緊の課題となっている。そのために、けがをした個別の児童への対応や働きかけだけでなく、学級や学年全体に問題意識をひろげて考えさせていく。

○どの教科の授業においても『子どもに書く力をつける』というねらいを持ち、意図的に書く活動を取り入れていこう、教師自身が授業づくりの中で意識していく必要がある。また、その際には「読み手に伝わるように論理的に書く」ということを大切に、書き言葉にこだわっていききたい。そうした中で、結果として「相手に伝わるように順序立てて話す力」も培われていくと考える。

○どの学年でも、人権課題にせまりながら自身の生き方を問い直していく人権総合学習（生活科）を柱として、なかまづくりや学力保障の充実を図り、だれもが安心していきいき学ぶことのできる学校に向けて、まず教職員の研修を積み上げていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 泊山小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標1         | 確かな学力の定着  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <p>○朝の学習における月に1度の聞き取りチェック。</p> <p>○「聞く話すスキル」を使った暗唱チャレンジ及び、学校集会における異学年での暗唱チャレンジ交流。</p> <p>・見開き1ページを意識したノート指導及びその余白を活用した自主学習の推進。</p> <p>【成果】</p> <p>・課題を提示し、最後に振り返りをする授業のスタイルが定着し、子どもたちが見通しをもって授業に取り組むことができた。</p> <p>・聞き取りチェックを継続して行うことにより、大切なことを聞き逃さない子やわかりやすくメモをとれる子どもが増えている。前日に宿題に出すことで子どもたちの意欲につながった。</p> <p>・聞き取りチェックに引き続き取り組むために、たえず効果的な課題文の作成が必要となってくる。</p> <p>・学校集会での暗唱チャレンジによって、意欲的に「話す・聞くスキル」に取り組むことができた。また、異学年と交流することによって相手のことを考えて話す力がついている。</p> |   |
| 重点目標2         | 心の教育の推進   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <p>○Q-U調査・教育相談を行い、いじめの積極的認知を行うことができた。</p> <p>○清掃時に黙動で行うことを指導するために、点検カードの利用や校内巡視を行い、清掃時に音楽をかけることをやめた。</p> <p>○授業の開始・終了を意識した指導を行った。</p> <p>【成果】</p> <p>・子どもと一対一で話す機会を作ることで、問題の早期発見・早期対応ができた。</p> <p>・日頃の積み重ねで、授業規律に基づいて落ち着いて学習に取り組めた。</p> <p>・清掃時に音楽をかけることをやめたことで、黙動に対する意識が高まった。</p> <p>【課題】</p> <p>・清掃時の黙動が低学年を中心として依然徹底できていない。黙動の意味を捉えさせ、振り返りを行うことが引き続き重要であり、指導を重ねる。</p> <p>・教育相談などの時間確保が難しい。</p> <p>・教職員と子どもとの間の適切な言葉遣いにおいて、まだ教師と子どもに認識のズレがある。</p>       |   |

|                          |   |   |
|--------------------------|---|---|
| 重点目標 3                   | からだづくりの推進、安全意識の向上   | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業始めの「5分間運動」の実施と運動の面白さを体感できる授業づくり</li> <li>○楽しく進んで運動できる環境づくり</li> <li>○体力向上に結びつく体育的行事の実施</li> <li>○保健指導・食育の充実</li> <li>○一貫性のある安全指導</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5分間運動で、子どもたちが運動を楽しんだり、体を温めたりすることができた。</li> <li>・「かけあし週間とマラソン記録会」、「長縄週間」など、体育的活動の成果を発表する機会を持つことで、活動に対する意欲を持って取り組むことができた。</li> <li>・保健指導・食育については計画的に実施できた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は5分間運動の実施についてクラスによる偏りがあったが、意識が高まり、実施できた。5分間運動の内容についても、教師間で考え合ったり共有したりして、準備体操も兼ねた活動として定着してきた。</li> <li>・体育的行事の実施に関して、長縄など20分休みを利用して練習している種目について、見直していく必要がある。</li> </ul> |   |

|                          |  |   |
|--------------------------|--|---|
| 重点目標 4                   | 学校教育力の向上   | 4 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教師による1人1度以上の授業提案</li> <li>○学期に1度の授業公開期間の設定</li> <li>○ミニ研修会の開催</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一回以上の授業提案を行い、授業公開の参観での気づきやミニ研修会での気づきや学びを取り入れることができた。</li> <li>・授業公開では、毎回視点を明らかにして、共有し、参観・討議することができ、日々の授業に生かすことができた。</li> <li>・研修の方向性がはっきりしているので、意思統一して子どもに向き合えた。</li> <li>・サポートルームの運営についての研修を普通学級での指導に生かすことができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開は、例年のことであるが、参観する時間を確保することが難しかった。放課後のミニ研も計画的に行えず、本年度実施できなかった項目も多い。</li> <li>・授業提案は、学年部により指導案検討や参観の時間に偏りがないよう、工夫したが、プレ授業を実施できるところとそうでないところがあった。</li> <li>・T・Tの役割分担について研究が進み、授業充実のために有効に活用できている場面が増えたが、さらに実践を共有して効果的な方法を探っていく必要がある。</li> </ul> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標5         | 地域とともにある学校づくり  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年度初めにおいて、『家庭学習について』を発行して、保護者と共通理解を図る。</li> <li>○必要に応じた家庭連絡や家庭訪問の実施。</li> <li>○コミュニティスクール運営協議会等を活用した教育活動の推進及び、学校教育活動におけるアンケートの実施。</li> <li>○学年通信やH.P.での教育活動の内容や児童の様子を発信。</li> <li>○地域の文化行事への参加や、学校行事への参観。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動アンケートでの「学校は、お子さんにとって安心して生活できる場になっている」「学校は、体育の授業や行事などを通して、体力向上を目指した取り組みを行っている。」の項目において、昨年度の95%を超え、96%という高評価を得ている。</li> <li>・本年度はほぼ毎日H.P.の更新を行い、保護者からは「ホームページなどで学校の情報を知ることができる」というアンケート項目には94%の肯定的回答を得た。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からの情報発信について、下校時刻の変更などの連絡が保護者や見守りボランティアにきっちり届かないケースがあった。急な変更がないことが第一であり、より信頼の得られる学校運営をめざすことが必要である。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

|  |
|--|
| <p>【重点目標1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力・学習状況調査を生かして、過去の問題を授業で取り組むなど、重点を明確にした授業づくりを進める。</li> <li>・朝の学習において、基礎・基本の学力を確かにするために、曜日ごとに学習内容を決めて取り組む。</li> <li>・司書と連絡をとりあって、国語の学習と結びつくような本の紹介や読み聞かせを実施する。</li> </ul> <p>【重点目標2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃時における黙動を徹底する。清掃の評価の実施（達成感を持たせる）、を常に教師が意識していく。</li> </ul> <p>【重点目標3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業公開を積極的に行い、主運動につながるような5分間運動の研究を進めていく。</li> </ul> <p>【重点目標4】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学年部も計画的に参観できることを徹底する。働き方改革も受けて、指導案検討に膨大な時間をかけることがないよう工夫する。</li> </ul> <p>【重点目標5】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H.P.を毎日更新できるようにし、通信等での教育活動の発信とともに『地域とともにある学校づくり』を充実させていく。</li> </ul> |
|--|

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 常磐西小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|                          |   |   |
|--------------------------|---|---|
| 重点目標 1                   | 確かな学力の定着  | 4 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p><u>1. 基礎学力の定着と学力の向上</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着を図るため、各学年に応じた学習方法を工夫し、丁寧に繰り返し指導をしてきた。また、学年で統一した指導を心がけ、積み重ねを大切にしてきた。</li> <li>・少人数やITの効果的な運用を考える必要があるが、本校は学級数（児童数）が多く、教室等の施設が不足していて少人数指導を行う教室が足りないことが課題である。</li> </ul> <p><u>2. 授業づくりの工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決能力向上のための5つのプロセスを意識した授業づくりに取り組んだ。課題解決の「見通し」を持たせることで、主体的に考え、考えを深めるための話し合いができるような授業づくりに取り組んだ。</li> </ul> <p><u>3. 読書活動の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書ボランティア、学生ボランティア、委員会、教師等による読み聞かせの機会が多く設定してあり、充実していた。</li> </ul>   |   |
| 重点目標 2                   | 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成   | 4 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p><u>1. 道徳教育・人権教育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の発達段階に応じた人権教育を計画的に行うことができた。</li> <li>・問題が起こった時には学年で話し合い、複数の教員で指導に当たることで子どもたちも落ち着いてきた。</li> <li>・様々な人権課題を抱える子どもたちの様子を、今後もしっかり見て把握し、指導していく必要がある。</li> </ul> <p><u>2. 特別支援教育・教育相談の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラーと連携し、保護者・子どもの教育相談を充実させた。支援の必要な子どもについて年度初めに共通理解を持つ機会を設けたり、月1回の特別支援委員会で日頃の様子や支援の方法を話し合い、その都度関係職員と連携し、組織的な対応をすることができた。</li> <li>・学期に1回いじめアンケートを実施し、校内いじめ防止対策委員会で情報共有を行い、早期解決に向けて組織的な対応をすることができた。</li> </ul> <p><u>3. 子どもが主体的に取り組む児童会活動の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5・6年による委員会活動では、より良い学校づくりのための自治的な活動を行うことができた。児童会活動として「とき西っ子夏まつり」や「とき西っ子オリエンテーリング」を行い、児童が主体的に活動するようになってきた。</li> <li>・11月にはいじめ防止強化月間として、いじめのない安心できる仲間づくりについて各学級で話し合った後、標語を作成・掲示する取り組みを行い、いじめ防止の意識を高めることができた。</li> <li>・基本的な生活習慣（名札をつける・ろう下歩行・トイレスリッパを揃える）は、引き続き、学年や学校全体で指導することが必要である。</li> </ul> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 3        | 健康・体力の向上   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p><u>1. 体力・運動能力の向上</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育の授業の初めに5分間運動に取り組むことによって、運動量を確保するだけでなく、主運動につながる動きについて子どもたちが意識することができた。</li> <li>・ 全校外遊び、なわとびチャレンジの実施により、普段外に遊びに行く機会の少なかった子どもたちも外に出て運動する機会となった。</li> </ul> <p><u>2. 健康教育・食育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学年で栄養教諭と連携して授業を行った。教科と関連づけて考えることで、身近な食について考え、その重要性を再確認する機会になった。</li> <li>・ 各学年で養護教諭と連携し、全学年を対象に保健指導及び歯磨き指導を行った。特に昼食後の歯磨きを推進したことで、昼休みに歯磨きをしている児童が増えた。また、5・6年生では訓練用人形を用いた救急法の学習に取り組んだ。</li> <li>・ 月に1度「ノーメディアデー」を設定し、メディアの使用頻度を減らす啓発活動を行った。それにより、メディアの利用時間を減らすだけでなく、家族内での交流が増えたり、学習時間が増えたりするなどの成果がみられた。</li> </ul> <p><u>3. 安全教育・防災教育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学期の初めに避難訓練を実施し、災害発生時の身の守り方や安全な避難の仕方を確認することができた。さらに引き渡し訓練を行ったことで、緊急に下校しなければならない際に、確実に児童を保護者へ引き渡す方法について確認することができた。</li> </ul> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 4        | 教師力の向上   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p><u>1. ともに学び合う教師集団の確立</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年部を中心に、学年で教材研究を深めたり、指導方法を検討したりして、研究主題を意識しながら研修を進めることができた。また、全教員が年に1回は指導案を作成して授業公開・事後研修会を持ち、教師力の向上に努めた。</li> <li>・ ミニ研修会では、プログラミング・特別支援教育・英語・合唱など研修領域以外の研修を持ち、互いに学びあうことができた。</li> </ul> <p><u>2. 危機管理意識の向上と実践</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級で問題が起きた場合、学年・学校全体で共有し対応することができた。</li> <li>・ 食中毒、異物混入、食物アレルギーなどへの対応について、情報共有や教室での配食等、さらに危機管理意識を高めていく必要がある。</li> </ul> <p><u>3. 働きやすい環境づくりの構築（総勤務時間の縮減）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材等を学年間で共有することで、勤務時間の縮減につながった。</li> <li>・ 業務アシスタント・医療ケアの支援により、業務の負担軽減につながっている。</li> </ul> |   |



|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標5         | 開かれた学校づくりの推進   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p><b>1. 吉田山をはじめ地域の特色を活かした学習・体験活動の推進</b><br/> ・地域の方の畑をお借りし、サツマイモの栽培・収穫をすることができた。また、生活科・理科の授業をはじめ、児童会活動「とき西っ子オリエンテーリング」等で吉田山の豊かな自然を活用することができた。</p> <p><b>2. 情報発信の充実（学校公開、通信、HP等）</b><br/> ・学年だよりを通じて、単なる行事紹介をするのではなく、「子どもにつけたい力」に触れながら学校の様子を伝えたことで、保護者から「学校の取り組みがよくわかった」という声があった。これからもタイムリーに情報発信をしていく必要がある。</p> <p><b>3. 四日市版コミュニティスクールの推進</b><br/> ・今年度「四日市版コミュニティスクール」の指定を受け、防災教育や森林教育・サツマイモの栽培活動などいろいろな場面で、保護者や地域の方が主体的に学校教育活動に参画する体制を整えることができた。今後もいろいろな機会をとえられ、「家庭・地域と協働する学校」を目指していきたい。</p> |   |

## 2 改善方針

・児童・保護者アンケートとも、「進んであいさつをする」「運動の習慣」「規則正しい生活」の定着に課題が挙げられる。引き続き、あいさつの大切さを考えさせたり、生活リズム向上のための取り組みを進めていく。

・児童アンケートでは、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標がある」「いじめや差別は、いけない」等の肯定的回答の割合が、昨年度よりも増加していた。これらは、道徳科を中心に、子どもたちの自尊感情を育む取り組みを行ってきた結果だと考えられる。また、「学校を楽しんでいる」と感じる割合も増加していた。これからも本校のめざす学校の姿“学ぶことが楽しい学校”を目指して、具体的な方策を考え、授業づくり・仲間づくりに取り組んでいく。

・生徒指導を進める上で、一貫性のある指導を行うためにも、具体的な取組指標を示すとともに、情報共有を徹底する必要がある。

・支援を必要とする子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するため、一人一人のニーズを的確に把握し、適切な指導・支援を行っていく。

・学校の取り組みをタイムリーに情報発信を行うとともに、単なる「地域に開かれた学校」ではなく、保護者・地域の皆さんが学校づくりに主体的に参画できるように「地域とともにある学校」の実現を目指す。

・子どもたちに「どのような資質・能力を育むか」を常に職員集団で共有することが重要である。組織的・計画的に重点をおくべき内容を取捨選択できるように、カリキュラム・マネジメントを進めていく必要がある。

・働き方改革の観点から教職員の勤務時間に対する意識を一層高める。また、行事の精選・会議の持ち方の見直し等を含め、どこに重点をおくべきかを共有し、カリキュラム・マネジメントを進める。

## 自己評価書

四日市市立 三重西小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 1        | 確かな学力を育てる  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p><b>①基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着</b><br/> ○今年度の新たな試みとして、5・6年生の算数科で習熟度別少人数授業を取り入れた。単元ごとにコース選択をさせたり、コースごとに課題の与え方や学習の進め方などを工夫したことで、各々のコースで今までに見られなかった成果が出た。また、こうした学習方法は児童にも保護者にも好評であった。<br/> ○校内研修の取り組みでも、長年の積み重ねによる様々な成果を感じることができた。学習の進め方も、しっかりと子どもたちに浸透し、見通しを持った学習ができるようになってきている。また、視覚的支援の積極的な導入など学習環境の改善も進められた。<br/> ○朝学習の取り組みもさらに進んだ。既習事項の確認を主としながらも、定期的に別内容も取り入れ、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図ることができた。<br/> ○中学年の算数科においても、少人数授業を展開し、基礎・基本の底上げができてきた。<br/> ▲「学年×10分」を家庭学習時間の目安として位置づけ、宿題の確実な履修に加え、高学年では自主学習を積極的に行うよう指導してきた。今後、家庭とも連携しながら家庭学習が更に成果の上がるものとなるよう、指導を継続する必要がある。</p> <p><b>②思考力、判断力、表現力の向上</b><br/> ・言語活動の充実という研修副主題を受け、全教員が足並みを揃えて取り組むことができた。自分の考えをホワイトボードに工夫してまとめて発表したり、図を指し示しながら説明したりなどを、極力数多く経験させることで、少しずつではあるが表現力や説明力を高めることができた。一方、文章に書いて表現することに課題を残しているため、国語科を中心とした指導の改善を行っていききたい。</p>  |   |
| 重点目標 2        | 豊かな人間性を育てる   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p><b>①互いに認め合う豊かな人権感覚の育成</b><br/> ○生徒指導・特別支援教育委員会において、家庭環境も含めた子どもの状態等の情報共有を行わない、特に支援の必要な子どもに絞って話し合いを持つことで、適切に支援することができた。また、組織的に対応することができ、成果を上げた。<br/> ○人権集会に向け、学級での取り組みや話し合いを十分に集まり集会を迎えることで、人権擁護意識を高めることができていく。<br/> ○QU調査やいじめ調査と教育相談をリンクさせ、丁寧に個々の児童と話をしてきた。問題の早期発見・解決につながっただけでなく、“先生に話をした良かった”と感じる児童が増えた。<br/> ・道徳科では、それぞれの内容項目に応じた学習を展開し、普段の自分のことを見つめたり、更に一歩深めて考えたりすることができるようになってきた。今後は、特活の時間や他教科の学習とも関連させながら、道徳で培った心情を実践につなげられる子どもを育てていきたい。</p> <p><b>②基本的な生活態度の育成</b><br/> ○全教員の共通理解のもと重点指導項目を設定し、年間5回にわたって振り返りを行い、その都度新たに共通理解をしながら手を入れるなどの取り組みを継続させてきたことで、個々の教員による温度差の少ない生徒指導が展開できている。<br/> ・代表委員会等、児童会組織から各学級に下ろされてきたことなどには、真剣に考えたり取り組んだりすることができる一方で、様々な課題を自分たちの問題として感じたり捉えたりできる子が少ない。自分たちのできていないことに気付ける子、自ら考えたり判断したりして動ける子を増やしていきたい。<br/> ▲今年度の反省として、元気に挨拶できる子が減少してきていることが挙げられる。特に朝の集団登校時に元気のない子が多い。児童への指導とともに、学校と保護者・地域とが連携して取り組む必要がある。</p> <p><b>③読書活動を通じた豊かな想像力の育成</b><br/> ・低学年時、担任や司書から本(絵本)の読み聞かせはたくさん行っており本への興味は高いが、絵本から児童書への移行がスムーズにできていないことが懸念される。児童が本を選ぶ際のポイントや読み方指導等、成長に合わせた読書指導の改善が望まれる。<br/> ▲児童自身の読書にかかわる評価点、保護者の評価点など下降傾向となった。教員からの指導や投げかけだけでなく、読書活動に向けた委員会活動等、子どもたちが活躍できる場面を数多く作っていく必要がある。</p> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 3        | すこやかな体をつくる  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p><b>①進んで運動に親しみ体力向上を図る活動の推進</b><br/>         ・学年が上がるにつれて休憩時間等の運動実践が低下する傾向にある。まずは体育科の学習を充実させることで、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てたい。さらに児童会活動や学級活動でも積極的に運動に触れることのできるものを取り入れていきたい。<br/>         ・平素の休憩時間に、より運動に親しむことができるよう、様々な工夫・手立てを講じていきたい。</p> <p><b>②基本的生活習慣の定着</b><br/>         ○昨年度より長期休業明けの2学期初めと3学期初めに「生活リズムチャレンジ週間」を実施してきた。生活習慣の見直しをする時期としては最適であり、保護者も巻き込みつつ、規則正しい生活を送ることへの意識付けを高めることができた。<br/>         ▲「早寝」については、それができない理由として、「ゲーム」「テレビ」が挙げられてきており、家庭とも連携しながら児童へ働きかけをしていく取り組みが必要。</p> <p><b>③健康・安全意識の向上</b><br/>         ○火事・地震・休憩時間中と、様々な場面を想定した避難訓練を行い、非常災害時の避難の仕方について、疑似体験・理解をさせることができた。また、4年から6年では、防災に関する実践的な取り組みを行っており、防災意識の向上につながっている。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 4        | 学校教育力の向上   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p><b>①校内研修の充実</b><br/>         ○研修委員会からの提示を基盤として、どの学年部でも授業改善の取り組みを行い、提案授業も児童の実態に合わせてよく練られており充実していた。事後研も観る視点がはっきりとしていて活発な討議がなされた。そうしたことを自分の実践に役立てていこうという姿があり、個々の教員のレベル向上が見られた。<br/>         ○日々の授業について、放課後の職員室で話題になることが多く、学年として成果をあげることができた。</p> <p><b>②特別支援教育の充実</b><br/>         ○校内通級事業も3年目となり成果を上げている。本年度は、校内通級での学習の様子を見学して、教具の使い方やその特性について学習することができ、校内通級を学校全体のものとすることができた。<br/>         ○夏の校内研では、講師先生の話から、自分の学級の子どもたちへの支援の仕方がよくわかり2学期以降の指導に活かすことができた。<br/>         ○児童アンケートの結果として「学習や生活で困ったときに先生につたえることができる」の肯定的回答が76.9%となり、昨年度(69.1%)より大きく改善された。子どもたちを一人ひとり丁寧に見て声をかけるようにしたり、少人数教育を行ったりしたことで、きめ細やかな対応ができたりするなど、児童から教師に話をしやすい環境が整ったからだと思う。</p> <p><b>③学びの一体化での授業研究</b><br/>         ▲今年度は中学校から英語科の乗り入れをしていただいた。初めのうちは新鮮な感じで頑張れた子どもたちだったが、それ以降のトーンダウンが気になった。また、事前準備が遅れたことで今年度の乗り入れ回数が少なくなってしまった。</p> <p><b>④働きやすい職場環境の充実</b><br/>         ・働き方改革による勤務時間削減をさらに進めていきたい。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 5        | 地域と共にある学校  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p><b>①コミュニティースクールによる学校運営の充実</b><br/>         ○授業を参観したうえで話し合いの時間を持ったので、習熟度別学習等においても、委員から具体的な意見を聞くことができた。<br/>         ○給食を一緒に食べながら児童の声を聞くことで、児童の生活について検討することができた。</p> <p>○通学路の安全確保について、地域と共に考えることができた。</p> <p><b>②家庭・地域・学校の協働の推進</b><br/>         ○子どもを守る安全パトロール隊の見守りにより、子どもたちが安全に登下校できている。<br/>         ○地域の教育力を活用することができた。特に、図書館ボランティア「どんぐりの会」、地域組織「いきいきサロン」「しろやま倶楽部」「長寿会」の方々に愛情をもって接していただいていることを子どもたちも実感している。</p> |   |

## 2 改善方針

- ・算数科では学年が上がるにつれて内容が難しくなり、学力差が生じやすいことや、多人数での授業の難しさがある。校内研修の一層の充実を図るとともに、習熟度別少人数授業の拡充が望まれる。特に、学習内容が難しくなる中学年での(習熟度別)少人数授業に効果が期待できる。ただ、そのための人員確保は必須である。
- ・子どもの体力の向上に向けては運動習慣を高めることが必須だが、そのためには運動好きな子を増やすことが肝要となる。そのため、体育科の授業改善は無論のこと、体育的行事や休み時間の過ごし方など多方面にわたる改善を行いたい。
- ・子どもの成長は家庭での姿が反映されやすいことから、保護者との連携をより密にするとともに啓発していく必要がある。
- ・勤務時間の削減が急務であるが、学校教育に課せられるものは増える一方である。より効果的な教育活動のあり方を検討し、教育成果はそのままに業務の精選を行いたい。

【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 大谷台小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 1        | 問題解決能力の向上   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○「論理的思考力の育成」「基礎的・基本的な学力の定着」の項目において、学校アンケートより、達成目標の数値を大幅に上回ることができた。</p> <p>○昨年度の学校アンケートより、家庭学習や自主学習への取り組み方が課題として挙げられていたが、今年度、自主学習を中央掲示板で広めるなど、さまざまな取り組みを進めた結果、自主学習に対する意欲的な姿勢が見られるようになった。</p> <p>○学校HPを月2回更新することを学校全体で取り組んでいるが、どの学年でも意識して取り組むことができた。</p> <p>△学校アンケートより、自己肯定感の高い児童が70%弱であることが分かった。「良いところ見つけ」の学習や保護者への啓発活動を通して、自己肯定感を高める取り組みをしていきたい。来年度の達成目標を80%に設定する。</p> <p>△学校アンケート「いじめや差別はいけないと思いますか」の項目を100%「そう思う」になるようにする。</p> <p>△算数の基礎学力の弱さが感じられる。朝学などで、学年ごとの取り組み内容を系統だてて、算数の基礎の強化を図っていきたい。</p>                          |   |
| 重点目標 2        | 豊かな人間性の育成   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○学校のきまりを焦点化すること（トイレのスリッパをきれいにそろえるなど）で、教師も子どもも意識して行動することができるようになった。</p> <p>○問題が起きた際に、毎週の打ち合わせで常に共通理解を図り、ケース会議を早急に行うことで、落ち着いた学校づくりができた。</p> <p>○児童集会でどの学年も発表する場を設けたことで、子どもたちが目標を持って、クラスで協力する活動の場を作ることができた。</p> <p>△児童集会での負担軽減をするために、総合的な学習の指導計画に位置付け、計画的に取り組めるようにしていく。</p> <p>△教育相談の時間の確保が不十分な状況にあるので、読書の時間等を活用して定期的に行えるようにしていく。</p> <p>△読書を取り組む機会の増進について、保護者アンケートの結果前年度比-4%になっており、図書室の利用が少ないことが原因の一つと考えられるので、学級貸し出しを積極的に活用し、読書活動の増進に努めたい。</p>   |   |
| 重点目標 3        | 健康な体の育成   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○スポーツテストを全校で実施することができたので、各学年の強みや弱みを知り、目標をたてやすくなった。また数値をデータとして残すことができたので、来年度以降体力テストの結果から、自分の体力の向上や弱みを捉えやすくなった。</p> <p>○避難経路の変更やそれに伴った子どもたちの動き、避難後の職員の動きの確認など、より細かく緊急時を想定した避難訓練を実施することができた。</p> <p>○学校栄養職員と連携しながら給食指導を行うことができた。またハッピーにんじんの取り組みなどから、残菜に対する意欲が高くなった子もいる。</p> <p>△学校アンケートより「学校は、健康や安全の指導に取り組んでいますか」の項目が前年度より低くなった。体力テストの結果や避難訓練の取り組みについてなどを発信し、90%以上を目指す。</p> <p>△運動会・体力テスト・なわとび運動など体育的行事が多く、5分間運動の実施に至っていない。</p> <p>△体力テストは全学年実施できたが、結果を生かした授業づくりは学年任せになり、学校で共有はできなかった。効果的だったものはデータとして残したり、交流の時間をとっていったりしたい。</p> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 4        | 特別支援教育の充実   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○特別な支援が必要な児童を校内委員会に挙げ、対応を話し合っ<br/>て支援を行ってから、その支援の効果を話し合うための校内委員会<br/>を開き、評価・反省を行うことができた。それを繰り返し、より効<br/>果的な支援を行うことができた。</p> <p>○サポートルーム事業委<br/>合せて校内研修を充実させることができた。</p> <p>○打ち合わせで校内委員会<br/>の報告をすることで、情報を共有することができた。</p> <p>△生指で挙げた事案を特別<br/>な支援との関係の中で支援して<br/>いくことの必要性を検討し、<br/>生指との協力体制を組んでい<br/>かなければならない。</p> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 5        | 家庭・地域との協働の推進  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○保護者や地域人材を活用して、<br/>ゲストティーチャーやスクールサ<br/>ポーターとして教育活動の支援<br/>に取り組んでもらい、連携を図<br/>ることができた。</p> <p>○CS運営協議会において、学<br/>校の教育活動（環境整備）に<br/>対しての支援を提案し、具体<br/>的な活動（草刈り）を行うこ<br/>うことができた。</p> <p>○4年生の「防災教室」では、<br/>地域の防災隊の方による「炊<br/>き出し体験」「防災教室」を<br/>実施し、避難時における自分<br/>たちの果たす役割について考<br/>える機会をもつことができた。</p> <p>○6年生はPTA行事でネットモ<br/>ラルの学習を行い、保護者へ<br/>の啓発を行った。</p> <p>○学期末に学年ごとに家庭学<br/>習の振り返りを行った。年度<br/>初めに立てた目標について<br/>振り返ることができた。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 6        | 教職員の資質・能力の向上   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○三重大学教育学部の守田庸一<br/>先生を招聘し、研修の中で出<br/>てきた課題について助言を<br/>いただき、その後の研修に活<br/>かすことができた。</p> <p>○人事評価制度を活用し期首<br/>面談や期末面談の中で、現<br/>状や困っていること、また今<br/>後に向けての取り組みにつ<br/>いて共通理解を図ることが<br/>できた。</p> <p>○職員会議の中に、「ミニ研<br/>修」を設定し、新学習指導要<br/>領に基づく教育活動に関す<br/>る学習や規範意識向上に向<br/>けての話し合い等に取り組<br/>み、資質の向上を図る場と<br/>することができた。</p> |   |

## 2 改善方針

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの研修を受け継ぎ、論理的思考力の育成について、物語文の分野での研修を行ってきた。その研修で学んだことが積み上がってきている。今後も研修も積み重ねていきたい。</li> <li>・自尊心の低い児童が多い。学年や学校全体で、人権についての取り組みを行っていきたい。</li> <li>・読み書きの項目だけでなく、計算力においても力が弱い部分が見られるので、朝学での取り組みを見直していく。</li> <li>・学校のきまりを焦点化することで、教師も児童もきまりを意識して行動することができ、学校でのルールが共有できた。その結果児童の落ち着いた姿が多く見られるようになってきた。今後も学校のきまりを全員が共通理解しやすいものを設定し、取り組んでいきたい。</li> <li>・読書を取り組む機会の増進について、学級での読書活動の減少は、図書室の利用が少ないことが原因と考えられる。来年度以降は学級貸し出しを積極的に活用することで、読書活動の増進に努めていきたい。</li> <li>・運動場が広く、どの時期でも外で体を動かして遊ぶ児童が多い。また、教師も共に遊んでいることも多く、それが児童の意欲にもつながっているように感じる。この意欲を運動好きな児童を育てることもつなげ、授業づくりにも生かしていく必要がある。</li> <li>・体育的行事が多い。各学年やクラスの児童の実態に合わせた取り組み方を考えるとともに、何のために取り組むのかという目的を、学校全体で確認・共有する必要がある。</li> <li>・特別な支援が必要な児童は、特別支援校内委員会だけでなく、様々なつながりの中でその支援を考えていく必要がある。その具体的な方法を探り、実践していくことが必要となってきた。</li> </ul> |
|---|

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 桜台小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標1         | 根気「つよく」真剣に学び合う子の育成  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <p>①基礎的・基本的な知識と技能の定着 ②思考力・判断力・表現力の育成 ③言語活動の充実 ④特別支援教育の推進</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・基礎基本の定着のために、マス計算・わり算カードなどに継続して取り組み、理解が進んできている。</li><li>・算数科を窓口とした研修を進めたことで授業スタイルが整ってきた。子どもたちが見通しをもって学習できるようになった。</li><li>・プラスワン（家庭学習）の取り組みは定着してきている。授業の隙間の時間にも取り組む児童がいるが、個人差もある。</li><li>・ホワイトボードの活用により、聴き合い学び合う姿が見られるようになった。</li><li>・基礎的な力の弱い子には、学習ボランティアなどの活用を考えていきたい。</li></ul>  |   |
| 重点目標2         | 「あかるく」健やかな心と体を持った子の育成   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <p>①健康・安全についての意識の向上 ②体力・運動能力の向上 ③豊かな生活を営む食育の推進</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・業間マラソン・エンジョイ大縄など、全校で取り組み、日常の体育授業とつなげることを大切に指導を行った。</li><li>・学校保健委員会を実施し、保健委員の発表を受けて学校三師から子どもたちや保護者へ話をさせていただく機会を持った。</li><li>・養護教諭から各学年の発達段階に応じた保健指導を行った。</li><li>・安全面について、休み時間の遊び方のルールなど、生活指導部と連携しながら一貫した指導を行っていきたい。</li></ul>   |   |
| 重点目標3         | 「あたたかく」思いやりのある子の育成  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <p>①なかまづくりの推進 ②人権教育の推進 ③道徳教育の推進</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・いじめ調査や子どもたちの実態に応じて個別に教育相談を実施し、定着している。</li><li>・人権フォーラムでは桜中学校区3校で人権課題について話し合い、人権感覚を高めた。人権講演会を行い、人権問題について考える機会となった。</li><li>・学校の実態をもとに児童会が生活目標を考え取り組みを行った。</li><li>・学期一回のいじめ調査より児童の実態を把握し、未然防止と早期発見に努めた。</li><li>・生徒指導情報交換会を行い、情報を共有することにより一貫した指導を行うことができた。</li><li>・全校でネットモラル講座を受けることでSNSの便利さと危険性を学んだ。また、保護者にも受講してもらうことで、今のSNSの危険性を知ってもらう機会をもった。</li><li>・遠足や児童集会等、異学年で交流する機会をもつことで、高学年は低学年に思いやりの気持ちを持つことができ、低学年は高学年の姿を見て学ぶことができた。</li></ul> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 4        | 信頼される学校づくり   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <p>①学校の情報発信の充実 ②PTA・地域との連携 ③学校評価を活用した学校づくり</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA役員会や学校だより等、積極的な情報開示が必要である。保護者との連携を密にし、情報を共有する。早期発見、早期対応に努める。</li> <li>・学校の課題を職員全体で共有し、組織的に対応することが大切である。全校体制で取り組むことにより信頼を回復することができた。</li> <li>・運動会や授業参観、学校保健委員会、ケイタイ・スマホ安心安全講座など、保護者が参観する機会を提供したり、PTA行事「ゆびとま」で、学校・保護者・地域が連携して年3回環境整備を行ったりした。</li> <li>・学習支援ボランティアに授業の支援や環境整備をしていただくことで、学ぶ意欲を育成することができた。</li> <li>・学校アンケートや学校運営協議会での協議内容をもとに、学校経営を振り返り、学校教育活動や学校運営の改善を行った。</li> </ul> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 5        | 教職員の資質向上   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <p>①校内研修の充実 ②目的意識を持った研修の推進 ③OJTの推進</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科を窓口として研修体制を整えて、日常の授業改善に努めた。</li> <li>・研修会では、指導主事の指導助言のもと、多面的な角度から研修を深めることができた。また、事後研では、ワールドカフェ方式を取り入れ画期的な意見を交流することができた。</li> <li>・ミニ研修会や還流報告を計画的に行うことができた。今後は、ICTや英語についても積極的に行い、未来ある子どもたちのために教師の力量を高め、授業力を磨いていきたい。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

|   |
|---|
| <p>重点① 根気「つよく」真剣に学び合う子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力・判断力・表現力の育成・・・課題の質の向上を図る。</li> </ul> <p>重点② 「あかるく」健やかな心と体をもった子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力・運動能力の向上・・・児童にとって身体を動かすことが楽しいと思える体育の授業の実施。</li> </ul> <p>重点③ 「あかるく」健やかな心と体を持った子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当たり前のことが当たり前に行えるような児童を増やす。（ありがとう、ごめんなさいなどがすぐに言える）</li> <li>・人権教育の推進・・・「いじめや差別を許さない」という視点での教師の児童の実態を把握する力の向上と道徳や人権学習の充実を図る。</li> </ul> <p>重点④ 信頼される学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや親との連携を密にし、情報を共有する。早期発見、早期対応に努める。</li> </ul> <p>重点⑤ 教職員の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OJTの推進・・・研修で学んだことを日常の授業に生かし、授業改善を図る。特別支援が必要な児童への支援力の向上を図る。</li> </ul> |
|---|



【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 八郷西小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標1         | 学力を高める   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>具体的方策<br/>①自ら考え、語れる子 ②基礎基本の確実な定着</p> <p>成果と課題<br/>□児童「授業はわかりやすい」90%→98%、「聴き合い考え合って学習している」93%→97%<br/>□保護者「学習内容を理解している」76%→77%、「意欲的に学習している」72%→72%<br/>○集会をはじめ、あらゆる場面で発表する機会を多く設定したので、自分の考えを言える児童が増えてきた。<br/>○授業では、自分の考えを自分の言葉で話し合えるような課題の設定をし、発言の機会を意図的に増やしたり、発言しやすくなるような聴き方などを繰り返し指導した。その結果、自分の思いを伝えることや考えを交流することが楽しいと思える子どもが増えた。<br/>○少人数習熟度別指導やTT指導により、一人ひとりをきめ細かく指導でき、弱いところを重点的に指導するなどして基礎基本は定着してきている。<br/>●伝え合いの授業づくりを通して、聴き合い考えあって学習していくことを充実させていく。</p>   |   |
| 重点目標2         | 心を育てる  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>具体的方策<br/>①きまりを守る ②仲間と協力する子 ③読書活動の推進</p> <p>成果と課題<br/>□児童「きまりを守っている」92%→93%、「学校は楽しい」82%→92%、「仲間を大切にし、協力して活動する」91%→98%、「いじめや差別は絶対にいけない」97%→98%、「本を読むことが好き」82%→90%<br/>□保護者「家庭や地域であいさつをしている」90%→85%、「楽しく学校に通っている」97%→94%、「読書への関心を深めている」68%→65%<br/>○代表委員会を中心に「今月のめあて」を設定し、各クラスで取り組み内容を話し合っ取り組むことで、各自が意識をしてきまりを守ろうとする児童が増えた。<br/>○「生活リズムチェック」の中に「読書活動」を入れた取り組みや、いつでもすぐ本が手に取れる「マイブック」の取り組みにより、積極的に読書を楽しもうとする児童は増えた。<br/>○三重県道徳教育推進校として、子どもたちが自ら「考え・議論する道徳」の授業を目指して実践をしてきた成果である。<br/>●「いじめや差別は絶対にいけない」と思う児童100%を目指して、実践を積み重ねていく。</p> |   |
| 重点目標3         | 健やかな体をつくる  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>具体的方策<br/>①自らすすんで命や体を大切に子どもを育てる ②根気強くやり遂げる子</p> <p>成果と課題<br/>□児童「体育の授業や運動会・かけ足などに頑張っている」93%→99%、「健康で安全な学校生活を送っている」91%→97%<br/>□保護者「安全・健康の意識を高めるための指導を行っている」96%→95%、「学習するための環境がよく整備されている」91%→82%<br/>○多くの児童が体育の授業に意欲的に取り組んでいる。一人一人にめあてを持たせ、達成できるように支援し、体力や根気強くやり遂げる力をつけてきた。<br/>○学校全体で、保健指導、食育指導、安全指導を計画的に進め、家庭には「生活習慣チェックシート」や学校保健委員会等でテーマを設定して啓発するなどの取組をしてきた。<br/>●今後も日常的に健康や安全についての取り組みを継続していく。</p>   |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 4        | 教師力を高める  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>具体的方策<br/>○わかる授業づくりを工夫する</p> <p>成果と課題<br/>○一人1回は研究授業をし市教委の指導主事や教育アドバイザー等の指導助言をもとに「伝え合い学び合う授業」について検討し授業を工夫してきた。<br/>○道徳や算数を中心に授業を見合い、授業改善を繰り返し行った。その結果、たくさんの児童が授業に参加することができ、焦点を絞った授業づくりに近づくことができた。<br/>○校内支援委員会を月1回定期的に行いスクールカウンセラーを交えて情報共有をし、児童理解を進め、対応を講じることができている。<br/>○業務アシスタントを活用することで、教師に教材研究をする余裕が生まれ、総勤務時間縮減を進め、自らの「働き方」を改めて考えることができた。<br/>●1時間以内に終える会議の回数を増やすとともに、効率的な仕事の仕方等をOJTにより共有化していく。</p> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 5        | 地域とつながる   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>具体的方策<br/>①コミュニティスクールを推進する ②ゲストティーチャーやボランティアによる『本物』に触れる機会の設定</p> <p>成果と課題<br/>□児童「地域行事に参加したり地域の人に教えてもらったりすることは勉強になる」95%→98%、□保護者「学校の様子を積極的に知らせている」96%→88%<br/>○ふれあいランチタイム・読み聞かせ・クラブ活動・全校陶芸製作・社会見学・地域探検・交通安全教室・八郷歴史探検隊・お話の会・地域防災マップづくり・琴演奏体験・仕事体験等、様々な学習場面で、地域と連携した教育活動をしゲストティーチャーやボランティアによる「本物」に触れる機会を設定してきた。<br/>○授業参観やフリー参観を定期的に行い教育活動を公開し、また「学校だより」等の通信やHPで情報発信をしてきた。<br/>●様々な取組を精選して来年度に引継ぐ。</p> |   |

## 2 改善方針

|  |
|--|
| <p>①問題解決能力向上のための5つのプロセスを授業に取り入れながら、「友だちの意見を聴き合い考えあって学習する」ことを大切にし、より「分かりやすい授業」づくりに向けての授業改善に継続的に取り組んでいく。</p> <p>②様々な体験活動をさせたり、問題解決のできる場を設定したりすることを通して、新たな「友だちの良さ」を発見できるような取り組み等、「仲間づくり」の実践を積み上げていく。</p> <p>③仲間と協力し自分に自信を持てるような活動を設定して、自尊感情・自己肯定感を育んでいく。</p> <p>④「マイブック」の取り組みを継続し、家庭と連携しながら読書の楽しさ継続して伝えていく。</p> <p>⑤体育授業をより楽しくできるように工夫して展開していく。</p> <p>⑥1時間以内に終える会議の回数を増やすとともに、効率的な仕事の仕方等をOJTにより共有化していく。また学校業務アシスタントの活用を進めるとともに教職員一人ひとりの仕事内容を見直していく。</p> <p>⑦地域教材の開発や人材活用などの取り組み等の様々な活動を精選して来年度に引き継ぐ。</p> |
|--|

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 三重北小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 1        | 確かな学力の向上   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○学び合いを通して「わからない」という思いや困り感に寄り添いながら授業づくりを進めることができた。ジャンプの課題をもとに探究する学びをめざしてきた。今後も指導者に教科及び単元の本質に即した授業づくりが求められる。</p> <p>○ペアやグループで聴き合える関係づくりから一人ひとりが学び合う姿が見られた。</p> <p>○進んで読書に取り組んでいる児童が過半数を超えているが、その反面、家庭での読書の時間がなかなか確保できていない状況にあることが分かった。今後、本を読む習慣を子どもたちに身につけさせていくために、読書週間等を活用しながらいろいろな取組を継続する。家庭への取組発信と連携協力を図っていくことは課題となった。</p> |   |
| 重点目標 2        | 健康・体力の向上   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○本年度、三重北遊びディを毎週1回行ったことにより、子どもたちに外遊びの習慣が身につき始めている。今後も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>○5分間運動の取組については、学級によって取組の有無に差があるので、普段から意識して取り組んでいく必要がある。</p> <p>○「ほけんだより」等を通して、各家庭に子どもたちの様子や実態を発信することができた。また、一過性のもので終わるのではなく、年間を通して指導を行っていたこともよかった。</p> <p>○防災・防犯教室、交通安全教室などさまざまな安全に対する教育を行うことができ、防災教育に関しては継続した取組により防災意識が向上し、また対処法を学習することができた。</p> |   |
| 重点目標 3        | 豊かな人間性の育成  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○各学年とも、地域の自然を生かした体験活動で地域の方とふれあい、心の成長の助けとなった。しかし、子どもたちの主体的な活動であったかという課題となった。</p> <p>○挨拶のできる児童が多くなり、地域からも評価をいただいた。一方まだまだできない児童もおり引き続き地域ぐるみの取組が必要である。挨拶の基本は、「自分からできるように」、一人ひとりに意識づけていきたい。</p> <p>○児童数の減少に伴い、掃除場所や掃除回数工夫をすることで教師の目は届くようになった。今後細かい部分まで徹底させるための掃除の質をあげる指導力が教師に求められる。今後は地域の力を借りることも視野に入れる必要がある。</p>                |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 4        | 保護者・地域との協働  | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○地域の方に学習支援員として、様々な学習(英語 音楽 書写 図書など)に積極的に関わっていただいております、より専門的な指導を行うことができています。</p> <p>○地域の教材を生かした学習を行うことで、教科書で学ぶ以上の学習効果が得られた。また、この恵まれた環境は、この学校の財産でもあり、心や体の成長に大きくつながった。</p> <p>○2年生「地域を知ろう」、3年生「校区探検」、「昔の暮らし」など地域の教材に出会い、より身近に地域を感じ、地域を愛する態度の育成とともに、興味関心を向上させることができた。</p> <p>○6年生「平和学習」では、戦争体験をした方の話を聞いたり、地域にある防空壕やお墓を見学したりと、戦争の怖さや悲惨さを身近に感じ、戦争は二度と起こしてはならないという思いを持つことができた。</p> <p>○地域の防災訓練との連携や、四日市大学と連携した防災学習(5.6年)、4年生での防災訓練など、地域と連携しながら学習を行った。保護者・地域の人々にも参加してもらい、地域とともに進める防災教育の意識を高めることができた。</p> <p>○学校の取組や願いを伝えるために、教育ビジョンを意識した学校だよりや学年だより、保健や給食、図書だより、学校HP、地域への学校だよりの回覧などの情報発信を継続していく。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 5        | 教職員の協働   | 4 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○たくさんの研修の機会があり、教室を開き、子どもの学びをもとに研究を深めることができた。</p> <p>○特に公開研究会では、職員同士で学び合いながら、授業づくりを行うことで、多くの成果と達成感を得ることができた。</p> <p>○また学年部別に、ミニ研を行うなど、主体的な研修を運営していくもできた。</p> <p>○日常的に他のクラスを見に行くことはできなかった。</p> <p>○教職員の人数の縮小、業務の多忙化などの課題はあるが、少人数だからこそ連携・協働が図りやすいという利点もある。研修の日常化へむけて、一人ひとりの意識の改革と、研修しやすいシステムの改革を進めていきたい。</p> <p>○各ビジョンの取り組みの目的や取り組み方を見直すことや、ビジョン間の連携を図ることで業務の効率化・スリム化を進めていきたい。</p> |   |

## 2 改善方針

○各学年単級となり小規模校として職員数も減少していく。職員の異動もある中、組織として「聴き合う」「学び合う」を大切にし、指導者が教科及び単元の本質に即した授業づくりをするための研修を継続していく必要がある。

○子どもたちが読書習慣を身につけられるように、今後も様々な取組、読書環境づくりを継続していく。家庭への情報発信にも工夫をし、家庭読書意欲に結び付けたい。

○小規模校の強みを生かし、運動時間保障、運動の場づくりの工夫など体力向上・健康教育を組織として、引き続き計画的・継続的に取り組みたい。

○PTA・地域と協力しながら、防災教育のねらいを明確にして理解を求め、災害時に現実的に対処できるような訓練を実施していく。

○小規模化する中、地域コミュニティの核として、地域の力の活用を図りながら学校づくりに取り組んでいく。

## 自己評価書

四日市市立 羽津北小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 1        | 共に学び、豊かな学力を獲得する授業   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードを通した個々の思考の可視化によって言語活動が活発になり、学びを互いに深めることができた。</li> <li>・デジタル教科書を使用したり、板書を工夫したりして子どもたちに分かりやすく指導する工夫をした。</li> <li>・学習ルールを系統化し、各学級に掲示することによって日常的に授業で活用することができ、話す・聴く力の定着に有効であった。</li> <li>・中学年から自主学習に積極的に取り組み、掲示物を使用してノートの使い方を工夫することができた。</li> <li>・個人で考えを持つ時間を確保した後、周りの児童や班全体で意見を交流する時間を適宜設けた。考えを交流することで、自分とは異なる考えを知り、深めることにつながった。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通してどの単元でどの力を鍛え、どの場面でホワイトボード等のツールを使ってじっくり取り組むかを計画する必要がある。</li> <li>・話し合いについていけず、傍観してしまっている子もいる。発問を工夫するなどして、全員が参加できる支援方法を考える必要がある。</li> </ul> |   |
| 重点目標 2        | 心の教育  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日記や感想の交流など、互いの考えを交流し認め合う場を設定してきたことで、互いに肯定的に認め合い、プラス思考で考えることが出来るようになってきた。自己肯定感も向上している。</li> <li>・自分でできるようになったことをふりかえり、自分の成長に気づくことで自信を持ち友だちに認めてもらう取り組みを進めることができた。</li> <li>・児童会を中心に「けやきっ子十か条」を意識した取り組みを行い、毎日ふりかえることで、規範意識は高まってきている。継続して行っていきたい。</li> <li>・道徳で、そのクラスに合わせた課題を教材として扱い、課題解決に向けて取り組みを進めることができた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分にいいところがある」の質問への回答で自信のない児童もいるので、自己有用感を大切にする本校の取り組みをさらに推進する必要がある。</li> </ul>   |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 3        | 体力、健康・安全意識   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育の授業、運動会やマラソン、ペース走、大なわなどの活動で、目標設定・ふり返り活動を行うことで、満足感・達成感のある取組となった。体力向上にも寄与している。</li> <li>・ 食育・発育測定後の保健指導が計画的になされ健康への意識づけができた。</li> <li>・ カードやワークシートを使って体育の授業のねらい、振り返り活動を位置づけたことによって、自分自身の運動能力の伸びに気づくことができた。</li> <li>・ 児童の生活習慣についてのアンケートから、それぞれの学年の課題を見つけ、それに基づき保健指導を行った。各児童が自分自身の生活を見直すきっかけになった。</li> <li>・ 避難訓練では「なぜ訓練をするのか」を考えさせ、「自分の命は自分で守る」をキーワードに、主体的な行動を意識させることができた。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育などの活動が体力をつけることに有効であることは理解できているが、「体を動かすことが好き」につながっていない。</li> <li>・ 給食指導を行ってきたが、まだまだ偏食傾向のある子どもが多い。保護者と一体となった取組が必要である。</li> </ul> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 4        | 教職員の資質・能力   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内組織の充実、会議や仕事の効率化を行い、時間の使い方・働き方が少しずつ見直されてきた。</li> <li>・ KJK推進校区の取り組みで、国語を中心に問題解決学習を目指した授業づくりの研修を深めることができた。</li> <li>・ 電話対応の時間制限、業務アシスタント制度により、総勤務時間縮減の意識が高まっている。</li> <li>・ 業務アシスタントの活用により、業務を改善し子どもと接する時間を増やすことができた。</li> <li>・ タブレット等、新しい教具を活用する研修で、基本的な操作について共有することができ、授業での活用につながった。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 働き方について、更なる改善・工夫の余地がある。一人一人の考え方の変革、改善案を日常的に話し合える雰囲気醸成する必要がある。</li> </ul> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 5        | 地域・家庭と協働する学校づくり   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラブ活動では、地域の方にゲストティーチャーとして専門的なことを教えていただき、子どもたちも喜び、教育活動を支援してもらっている。</li> <li>・ 普段から電話・家庭訪問等を積極的に行い、家庭との連携を得ながら教育活動を進めている。</li> <li>・ ボランティアの支援による野菜作りや花の苗植えの体験を通し、児童が学習する意欲を高め、興味を持って粘り強く取り組むことができた。</li> <li>・ 万古焼の講師として地域の陶芸家を招いて学び、児童の作陶の指導・助言をしてもらった。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭との連携のさらなる充実を図り、共に子どもを支える関係を構築する必要がある。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホワイトボードやICT機器等、ツールは多岐にわたるが、それらを使いこなしながら子どもが主観的・対話的で深い学びができるように研修を推進する。</li> <li>・ 入学直後の1年生の算数・国語・生活科等への指導を充実する。</li> <li>・ 児童の生活習慣から見られた課題(食事、メディアとの付き合い方など)を、学校保健委員会や保健だよりを通して保護者に伝えていく。</li> </ul> |
|---|

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 内部東小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 1        | 経営の重点・・・保護者や地域に信頼され、安全で安心な学校   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○3年目になる、コミュニティスクールの取り組みが進んできている。外部の声を基にした取り組みが進められ、さらに効果的に協働できると良い。</p> <p>○保護者対象にアンケートを実施して、学校教育に対するニーズを把握したり、達成度の状況を確認したりすることで、学校教育ビジョンに反映させるなど教育活動を見直し、改善につなげることができた。また、米作り、クラブ活動、ふれあいまつり、読書推進にかかる取り組み、学習の森やトンボの池の環境整備等の教育活動に、保護者や地域の方々の協力を得ることができた。今後も家庭や地域と協力しながら子どもを育てるという姿勢を大切にしていきたい。</p> <p>○学校だより、学級通信、ホームページ等で、学校からの発信について91%の保護者から賛同を得た。さらに充実させていくと同時に、オープンスクールや懇談会等、学校と保護者が交流できるような機会を充実させていくことが大切である。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 2        | 指導の重点・・・一人ひとりのニーズを把握し困り感に応じた指導・支援  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○6年生において教科担当制を実施したことで教材研究の充実及び学年を3人の担任で指導する体制が組めた。</p> <p>○3年生以上の算数科で、少人数授業、T.T.を実施したことで、算数に苦手意識を持っていた子どもたちに学習意欲を持たせることができた。</p> <p>○家庭学習に継続し取り組んだことで、基礎的な学力、家庭学習の習慣が定着（保護者アンケート91%）した子どもが増えてきた。</p> <p>○職員会議、児童対応委員会、教育相談、カウンセリング等で、特別な支援が必要な児童について、共通理解と支援の方法を話し合うことができ、適切な指導・支援につなげることができた。</p> <p>○生徒指導委員会や代表委員会の子どもから、挨拶や学校生活のルールについて全校にはたらきかけを行ったことで、子どもたちへの意識付けになり、徐々に子どもたちの行動に表れてきているが、今後も継続した取り組みが必要である。</p> <p>○職員会議、児童対応委員会、打ち合わせを通じて、子どもの事態の情報を全職員が共有した上で指導する体制が構築されている。</p> <p>○保健委員会の活動の一環として、保健委員会の子どもが行った「早寝・早起き・朝ごはん」等の活動によって、子どもの健康に対する意識を高めることができた。</p> <p>○業間かけ足、持久走記録会、長縄記録会等の取り組み以外に、体育委員会や代表委員会の取り組みとして、業間に全校遊びを行ったことによって、外遊びをする児童が増えつつある。</p> <p>△基礎学力や学習習慣の定着が図れない子どもに対して個別支援に心がけた。しかし、夏季休業中の学力補充の時間（3日間）を行ったが、日常的にはなかなか時間が取れなかった。</p> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 3        | 研修の重点・・教師の学びを支える研修を進める学校  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>○子どもが学ぶ喜びを実感できる授業の創造を目指した。聴き合う関係から始まる授業デザインを描き、「まちがい」や「わからない」から出発する授業づくりに取り組んだ。</p> <p>○年間7回の全体提案授業を行うことで、教材や指導方法についてより深みのある研修が実践でき、指導力の向上につなげることができた。</p> <p>○夏季校内研修会や日常的なミニ研修会、研修会後の振り返りなど、自分たちで研修を進めたり、自分の実践につなげようと意識したりすることができた。</p> <p>○授業公開週間を通じて、時間を見つけてお互いの授業を見合うことができた。</p> <p>○年間に3回外部講師を招聘し、全クラスを参観していただき、講評していただいた。毎回コメントを送っていただきそれぞれの改善点を明らかにすることができた。</p> <p>○学校全体として、主体的、対話的な学び合いを目指し取り組む雰囲気ができつつある。更に校内研修の取り組みを進め、授業の質の向上を目指したい。</p> <p>△ICTの効果的な活用を図るため研究を進めたい。</p> |   |

## 2 改善方針

|   |
|---|
| <p><b>【重点目標 1 保護者や地域に信頼され、安全で安心な学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスクールの組織を見直す。新たに自主防災協議会・内部っ子はげまし隊・学童見守り隊も組織に位置付け、「トンボ・ホタルの里」の管理や「学習の森」での取り組みなど児童とともに活動が活発になるようにする。</li> <li>・保護者や地域の連携を深め、学習内容をはじめとする教育活動全般の充実を図る。</li> </ul> <p><b>【重点目標 2 一人ひとりのニーズを把握し、困り感に応じた指導・支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査やNRT検査などの分析結果をもとにして授業改善を行い、学習意欲が継続するような学習課題を設定する。</li> <li>・子どもたちの家庭での学習習慣や基礎学力の定着に効果がみられた。今後も子どもたちの実態に応じて、課題の内容、量などを検討しながら取り組みを進めていく。</li> <li>・少人数教育・習熟度別教育やTTについては、ICTの活用や学習集団編成や指導方法等、子どもの実態に応じ、より効果的な運用について研究していく必要がある。</li> <li>・教育的支援を必要とする子どもについては、今後も児童対応委員会、職員会議等で教職員の共通理解を図り、保護者、関係諸機関と連携をとりながら支援体制づくりに努める。</li> </ul> <p><b>【重点目標 3 教師の学びを支える研修を進める学校】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童にとっての課題を見極め、教師の力量を高めていく校内研修の充実を図る。</li> </ul> |
|---|



【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 中央小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 1        | 確かな学力の定着（問題解決能力の向上 少人数教育の活用<br>読書活動の推進 理科教育の推進）   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・四日市モデルを大切に授業づくりを行ってきた。問題解決型で授業を構成することで、自ら課題に取り組み、追求しようとする姿が見られた。ただ、児童が追求して見つけたことを価値づける形でまとめていくことには課題がある。</li> <li>・ICTを活用する授業展開を意識し取り組むことはできた。今後、様々な学習場面においてタブレット等を使った授業づくりを目指したい。</li> <li>・少人数教育を活用していくことにより児童が活躍し、意欲的に取り組む場面が多く見られた。互いに意識し、頑張る姿が見られた。さらに、個々の理解の仕方をアセスメントすることが必要である。</li> <li>・本年度読書環境を整え、効果的な読書活動を推進していくことが増えた。読書を前提とした活動を国語科を中心とした取り組みの中で位置づけていきたい。</li> <li>・理科教育の推進においては、自然の具体物、家庭や身近にあるものを取り入れて観察や実験を行うことで、自然の事物事象、生活との関わりへの興味関心を高めていくことができた。</li> </ul> |   |
| 重点目標 2        | 豊かな人間性の育成（道徳教育の推進 規範意識の向上<br>人権教育の推進 特別支援教育の推進 キャリア教育の推進）   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の推進については、価値項目を意識しながら学習を進めてきた。さらに、児童が日常生活を振り返り、内面に迫るような授業づくりを目指していく。</li> <li>・規範意識向上のアンケート結果において、昨年度に引き続きA評価が低く、B評価をつける児童が多い。自主的な児童会活動の取り組みの充実を図り、きまりを守る意義を再確認し、規範意識の向上に努めていく。</li> <li>・人権教育においては、校内研修の中でESDの視点を取り入れた総合的な学習の時間の研究授業を行った。人権、環境、学級のなかまづくりといった諸問題をつなげて捉えながら自己の向上を目指す必要性を確認することができた。</li> <li>・特別支援教育の推進においては、特別支援コーディネーターを中心に校内指導体制の充実を図ることができた。個に応じた指導の在り方について提案授業を行い、研修を深めることができた。</li> </ul>   |   |
| 重点目標 3        | 健康・体力の向上（体力・運動能力の向上<br>心と体の健康教育の推進 子どもの安全意識の向上）   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果において平均をやや上回る種目も増えてきた。めあてと振り返りの意識が定着し、運動する意義や有用性を感じて授業に取り組む姿が見られるようになってきた。また、学校全体でかけ足や持久走に取り組み、さらに業間なわとびを実施するなど様々な場面において運動量の保障を意識した取り組みを行った。</li> <li>・食育指導の充実を図った結果、児童アンケートにおいて前期結果よりA評価が多くなった。これからも継続した取り組みを進めていく。</li> <li>・安全意識の向上のために、様々な訓練を定期的に行ってきた。その結果、安全に対する意識が高まってきている。しかし、登下校の様子を見ると、交通ルールの徹底が難しい場面も見られる。</li> </ul>   |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 4        | 保護者・地域との協働（学校から情報発信の充実 家庭学習チェックシート等の活用 教育支援ボランティアの活用 学校評価を活用した学校づくり 和太鼓など、地域の特色を生かした学習や活動の充実）  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの更新については、月2回の学年取り組みを発信しようと努めてきた。内容についても様々な活動をお知らせしようと計画的に進めていくことができた。</li> <li>・家庭学習チェックシートの取り組みが定着し、保護者の意識も高まってきている。しかし、生活習慣チェック週間との絡みを考え、取り組みが有効になるように児童や保護者に返していく必要がある。生活面、学習面の両方を合わせてよりよい習慣づくりを意識していきたい。</li> <li>・教育支援ボランティアの活用については計画的に考えることができず活用できる機会が少なかった。</li> <li>・昨年度から前期アンケートの振り返りを行い課題に対する手立てを指導部で検討し2学期の取り組みにいかすことができた。</li> <li>・地域の特色を活かした教育活動の充実を図ることができた。諏訪太鼓の指導を地域の方にお願ひし、子どもたちは発表会で達成感を得ることができた。地域には学ぶ価値のある材料がたくさんある。今後は計画的にカリキュラムを組み、実践していきたい。</li> </ul> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 5        | 学校教育力の向上（豊かな人間性や確かな教師力の育成 教職員の意思の反映、満足度の向上 各種会議の改善、業務の効率化）   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育、理科教育においてOJT研修を実施した。自校の児童への支援の在り方や、理科室の使い方等共通事例等をもとに具体的に学ぶことができた。</li> <li>・教職員が掲げた個人目標を意識し、個々の努力を見出し、適切な指導や助言をすることが難しかった。ただ、教育活動を通して互いの考えを出し合い、共通理解をしながら進めていくことはできた。</li> <li>・業務アシスタントが配置されたことにより、印刷業務が減り、職員は児童への指導や教材研究の時間に費やすことができた。</li> <li>・会議や行事の精選等意識してきたが、日々起こる様々な出来事に対応しなければならず、業務の効率化を図ることは難しかった。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

・効果的な少人数教育の充実を図るために、学力検査等をもとに各学年の強みや弱みを分析し、学年に応じた指導の在り方を考え取り組みを進めていく。

・本校は全員が体力テストを行っている。結果をふまえ、生活習慣チェックシート等を活用し家庭での運動機会の拡充や生活リズムの重要性を働きかけていく。

・規範意識の向上においては、ここ数年同じようなアンケート結果となっている。学校運営協議会において、きまりを守る意義を再確認すること、自主的な児童会活動の取り組みが必要であると助言いただいた。指導部で取り組み内容を精選し、委員会活動を活発化しながら全校で取り組む手立てを考え実践していく。

・学校運営協議会において、ノーメディアデー実践校取り組みが話題になった。本校においても家庭でのネット環境の把握をしながら、学力向上県民運動の取り組みの中で実践していきたい。

・地域ボランティアの活用においては、来年度は年度初めに総合的な学習等の計画を立て、積極的に保護者や地域に呼びかけていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 橋北小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 1        | <p>「確かな学力の定着」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な知識や技能の定着</li> <li>○問題解決能力の向上に向けた授業づくり</li> </ul>  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習形態の工夫（少人数授業・TT）</li> <li>・授業におけるめあてと振り返りの定着</li> <li>・さわやかタイム・モジュールを活用した取組</li> <li>・家庭学習の習慣化を図る取組</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数も、初回に比べて最終の定着率が25%も上がっており、少人数授業やTTによる取り組みの成果が見られた。プリントやドリル等を活用した漢字・計算のくりかえしの学習により学力が徐々に定着してきている。学習した漢字は、日常生活の中で使うことを意識させていく。</li> <li>・1学期に引き続き、字数制限をまとめてさせたり、キーワードを使って短文や振り返りを書かせたりすることで、伝えたいことを焦点化してまとめることができる児童が増えてきた。</li> <li>・家庭学習の時間（学年×10分）をしっかりと使ってできる内容を考えて宿題を出し、音読カードや家庭学習チェックカード等での取り組みをし、家庭との連携を進める。</li> <li>・考えたり話したりすることが楽しいと思えるような授業づくりを進めている。</li> <li>・めあてや振り返りをノートにきちんとまとめていることにより、既習内容を根拠にして自分の考えが導けるようになってきている。</li> </ul> |   |
| 重点目標 2        | <p>「豊かな心の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○温かい心で支え、認め合う仲間づくりの推進</li> <li>○夢や意欲を育むキャリア教育の推進</li> <li>○読書活動の推進</li> </ul>   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパー橋北っ子に基づく基本的生活習慣の定着・・・家庭との連携・・・</li> <li>・人権感覚・自己有用感を高める取組の推進</li> <li>・人や文化、自然等から学ぶ体験活動の充実</li> <li>・読書意欲が高まる取組</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書の実践や読書週間の取り組み、図書室の常時開放により、読書に親しむ機会を設けることができた。</li> <li>・いじめ防止の標語づくりや花いっぱい運動、日々の取り組みにより、学年関係なしに思いやりのある態度で接したり、やさしい言葉かけをしたりする姿が見られた。今後もさらなる規範意識やなかまを大切にすることをはぐくむ取り組みに力を入れたい。</li> <li>・児童会を中心に「スーパー橋北っ子」の取り組みを行った。特にあいさつと廊下歩行に重点的に取り組み、学校内のあいさつには成果が見られた。その一方で廊下歩行にはまだ課題が残る。来年度も引き続き取り組みたい。</li> </ul>  |   |
| 重点目標 3        | <p>「健やかな体づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体力向上をめざした取組の推進</li> <li>○健康・安全意識の向上の推進</li> </ul>   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく運動量のある授業づくりの推進</li> <li>・めあてを持って取り組む体育的行事、運動に親しむ取組等の推進</li> <li>・食教育、健康教育の充実</li> <li>・避難訓練、安全教育等による危機回避能力の育成</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5分間運動や、休み時間における外遊びの設定を積極的に行い、児童の体力向上に努めた。結果、体育の学習で行ったことを休み時間に遊んでいる児童が増えてきた。しかし、児童アンケートの「進んで外で遊んだり、運動に取り組んだりしています」の肯定的回答が76%と少ない。全校が外で遊べるよう委員会活動を活性化し、季節を問わず運動に親しめる活動を取り入れたい。</li> <li>・全体的によく食べるようになってきた。苦手な物に対しても少しでも食べる努力がみられる。その結果、給食の残量が減ってきている。</li> <li>・避難訓練や不審者対応訓練については、行動も早くなり、自分で考えて行動できる児童の姿が見られた。</li> </ul>  |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 4        | 「地域とともにある学校づくり」<br>○家庭・地域との連携・協働による教育活動の推進  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の資源や地域人材を活用した小規模の良さを生かした活動の推進（すくすくサポート）</li> <li>・学校だより、学年だよりやホームページ等による積極的な情報発信</li> <li>・学校評価、学校関係者評価を踏まえた改善活動の推進</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、地域連携の取組をたくさん行うことができました。今後も地域とのつながりを大切にし、地域学習や地域・保護者と連携した学習の充実を図りたい。</li> <li>・情報発信に関する保護者アンケートの結果は88%と昨年度より6ポイントの減少であった。学級・学校便りやホームページなど、互いに声をかけ合って少しずつでも増やしていきたい。特に、ホームページは、保護者・地域の閲覧数も多いため、継続的な更新が必要である。</li> <li>・保護者アンケートの「学校の教育活動は満足できる」が88%で、昨年度より2ポイントの減少である。今後、アンケートで数値の低かった項目や学校運営協議会でいただいたご意見をもとに取組を強化していきたい。</li> </ul> |   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 5        | 「教職員の指導力の向上」<br>○研修の積み重ねによる互いの指導力向上<br>○教職員の働きやすい環境づくりの構築   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語力を高め、ともに問題を解決する授業づくりの推進</li> <li>・外国語活動の推進</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年で少人数教育やTTを取り入れ、きめ細やかな配慮を心掛けるとともに、基礎基本の内容や、既習事項の積み上げが生きる授業づくりを進めている。そのことから、子どもたちが問題を解決するとき、学んだことを少しずつ積み上げ、活用し、解決する力がついてきていることが成果と言える。しかし、問題で何が問われているのかを正しくとらえきれないことが課題である。次年度は「読む」力の強化に努めていく。</li> <li>・全学年で学年の実態に合わせた外国語活動を実施した。外国語活動の聞く、話す、書く、読むの技能が系統的に身につくようにスモールステップの学習を進めたり、繰り返し学習をしたりして、基本の学習に力を入れた。そのことから、外国語に対して自分から向き合い、聞いたり答えたり話したりする姿が見られる子どもが多くなった。しかし、日本語との違いや、書くことのハードルが高いところが課題である。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

|   |
|---|
| <p>「確かな学力」<br/>教師間で、家庭学習の時間（学年×10分）やその内容等の共通理解を深め、音読カードや家庭学習チェックカード等を活用した家庭との連携を進める。また、全国学力調査やみえスタディチェック等の結果分析から明らかになった児童の弱みを克服するために、学vivaワークシート等の積極的な活用を進める。</p> <p>「豊かな心の育成」<br/>「廊下歩行」など、当たり前なのが当たり前でできる学校を目指したい。そのため、全職員が同じ目線で取り組み、児童の意識を高めていく。また、自分を含めなかまを大切にすることをはぐくむため、行事や道徳の時間、日々の取り組みの中で指導していく。そして、いじめや差別のない個性を大切にしたい学校を目指したい。</p> <p>「健やかな体づくり」<br/>児童が自身の体力に関心を持ち、その向上に向けて意欲的に取り組むことができるようにしていく。そのために、体力テストや持久走記録会などの結果を分析し強みは伸ばし、弱みは改善できるように工夫して授業づくりに努めていきたい。また、主運動につながる5分間運動を全校で奨励し体育の授業の充実を図りたい。</p> <p>「地域とともにある学校づくり」<br/>通信・ホームページ等を活用して学校からの情報発信を活発にする。そうすることで、「児童につけたい力」を学校として具体的に示し、よりよい活動を協力して計画・実施する体制をつくっていく。</p> <p>「教職員の指導力の向上」<br/>児童の実態に応じて、少人数教育では、習熟度別学習を視野に入れたクラス分けを行い、基礎基本の定着及び活用力・思考力の向上を目指す。そのために、校内研修において、個に応じた指導の充実に関する研修を取り入れ、学ぶことの楽しさを実感できる授業づくりを進める。</p> |
|---|

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 笹川小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 1        | 確かな学力の定着   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学び合い」と習熟度別少人数授業の推進</li> <li>・誰もがわかりやすい授業の実現</li> <li>・英語コミュニケーション力の向上</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科授業では、習熟度別コースの少人数指導を行い、個人のペースやつまづきに合わせて学習に取り組めるよう支援を行った。</li> <li>・「笹小プロセス」を示すことで、仲間とともに学ぶ学習活動が意識され始め、児童がより主体的に学習に向き合うようになってきている。</li> <li>・「めあて」と「振り返り」の活動を学年の実態に合わせてながら、言葉でまとめたり、応用問題を解かせたりしているため、毎授業の目標に対してどうであったかを見直すPDCAサイクルにつなげることができた。</li> <li>・児童が興味や関心を引くような課題を設定し、その興味が持続するために、個人解決や集団解決という学習形態を工夫しているため、児童の意欲向上につなげることができた。</li> <li>・YEFとのTTを通して、児童が興味を持てるような外国語活動を計画・実施できた。</li> </ul> |   |
| 重点目標 2        | 豊かな心の育成  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生教育の推進</li> <li>・キャリア教育の促進</li> <li>・地域を愛する児童の育成</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな文化や個性の違いを大切にしたい取組を行うことができた。</li> <li>・日本語教育について、教師間の理解を深める必要がある。</li> <li>・各学年の行事や総合の学習を通して、さまざまな職業について知り、体験する機会をもつことができた。（校区探検、工場見学、修学旅行、企業連携授業等）</li> <li>・児童会・各委員会による創意工夫した活動を推進し、自主的な活動を進めることができた。</li> <li>・温かい心を育てるための「大切にしたい3つのきまり」、「ぼかぼかの木」の取組を通して、教職員が共通の指導を行うことができた。しかし、この温かい心を育てるための取組自体への価値づけが、職員、児童ともに不十分だった。</li> <li>・異学年交流の機会がなかなかもてなかった。</li> </ul>   |   |
| 重点目標 3        | 体力向上・健康増進  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動能力・体力の向上</li> <li>・健康の増進</li> <li>・学校危機管理体制の強化</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業間活動を利用し、体力の向上に努めた。</li> <li>・体力・運動能力調査の結果をふまえ、重点的に取り組む単元を定め、取組を進めることができた。</li> <li>・生活リズムチェックの結果を考慮しながら、教育活動を進められた。また、規則正しい生活を送るよう、家庭とも連携し取組を進められた。</li> <li>・悪天候による緊急下校などの訓練を4月当初に行い、緊急時に対応できるように体制を整えることができた。</li> <li>・児童数が倍以上に増えたため、児童昇降口での出入り等児童の安全に一層留意する必要がある。</li> </ul>   |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 4        | 開かれた学校づくり  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】・家庭・地域との連携<br/>・笹川子ども教室との連携<br/>・情報発信の充実<br/>・児童・保護者アンケートや学校評価を生かした学校経営</p> <p>【成果】<br/>・学校HPを日々更新し、学校の教育活動についての理解を得ることができた。<br/>・児童・保護者アンケートや学校評価を実施し、保護者や地域協力者に集約結果を知らせた。<br/>・アンケートや学校評価の結果をもとに、今後の学校経営の方向性を示すことができた。<br/>・笹川子ども教室と連携し、児童の学習支援を行うことができた。</p> |   |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| 重点目標 5        | 教職員の資質向上   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>【主な方策】・教職員の協働による児童の育成<br/>・中学校区学びの一体化による保幼中との連携<br/>・研修組織を生かしたよりよい授業づくりの推進<br/>・勤務時間の効率的な活用 ・子どもと向き合う時間の確保</p> <p>【成果】<br/>・全体研修会や放課後等の中で、目指す児童について話をすることで方向性を揃えた指導を続けることができた。<br/>・学びの一体化では、生活面と学習面とで年2回の授業公開をすることと、中学校区の子どもに関わる課題を改善するための話し合いを重ねることで、方向性を見失わずに指導を継続することができた。<br/>・全員が授業公開をすることで、教師力の向上を図ることができた。<br/>・打ち合わせの代わりにメールを利用して情報共有を行った。<br/>・業務アシスタントの活用により、児童と向き合う時間を確保することができた。</p> |   |

## 2 改善方針

- ・外国人児童が日本語を使おうとする学級集団をつくっていくためには、教師の働きかけや意図的な仕掛けが必要である。そのためにも、今後も教師間での共通理解を図りながら、一丸となって指導に当たらなければならない。
- ・異学年交流の機会として、児童集会だけではなく休み時間等を活用した場を考えていきたい。児童の姿で成果が表れてくるように、定期的な振り返りを行う必要がある。
- ・学校での安全対策だけでは解決できないような施設等の改善を教育委員会にお願いしたい。

## 自己評価書

四日市市立 楠小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 重点目標 1        | 豊かな心の育成<br>～思いやりをもち、かかわりあう子～  | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>(1) 人権教育・道徳教育の推進 (2) 教育相談の充実<br/>(3) 特別支援教育の充実 (4) 読書活動の充実</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳が教科化して2年目だが、研修会に参加した資料を回覧するなど、個々の教師の取り組みにとどまってしまった。来年度は、子どもたちに道徳的な判断力、心情、実践意欲、態度を養っていくために4つの理解(価値理解、人間理解、他者理解、自己理解)を取り入れた授業作りの研修を進めていかなければならない。</li> <li>・児童との日々の会話や日記を通して一人ひとりの思いをつかむとともに、家庭訪問を行い児童の生活や保護者の願いを知ることを目指して取り組んできた。また「いじめ調査」や「あったかタイム」の取り組みを毎学期行い、いじめの早期発見に努め、安心・安全に過ごせる支援体制をとることができた。</li> <li>・「学校における合理的配慮について」のチェックリスト記入をしたり、ミニ研で「インクルDB」について研修を行ったりして特性に応じた支援の必要性について学ぶことができた。楠小で行われている合理的配慮についても共有できた。校内特別支援委員会を月に1回、定期的に行うことにより、支援の必要な子の情報共有をすることができ、支援の手立てを聞き、学校としての対応を進めることができた。特別支援学級理解について教師間で共通理解し、4月初めに各クラスで特別支援学級とはどんなところなのかを、子どもたちに伝えられるようにする必要がある。</li> <li>・年2回、読書週間を設定した。「おうちで読書」や教師・司書・ボランティア・委員会による読み聞かせ、ブックピース・図書館くじ等の取り組みを行い、児童の読書活動の充実を図ることができた。図書館司書や図書館ボランティアの方と、日誌や面談等で連携を密に行い、児童の読書活動の充実に大きく貢献していただくことができた。</li> </ul>           |   |
| 重点目標 2        | 確かな学力の育成<br>～考えを伝えあい、自ら学ぶ子～   | 3 |
| 主な方策<br>成果と課題 | <p>『確かな学力の育成』</p> <p>(1) 「わかる」「できる」を大切にした授業づくり (2) コミュニケーション力の育成 (3) 少人数指導の充実、ICT機器の活用</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な子どもの姿を教員同士で確認し合えたことで、目指したい姿の実現に向けて、同じ方向を向いて授業づくりができた。またミニ研修を定期的に行い、それぞれの教師のスキルや強みを共有したことで、子どもたちたちがより前向きに取り組もうとする授業づくりや場の設定に繋がった。</li> <li>・朝のスキル学習、少人数やTTによる指導、本校独自の学力調査などを行った。スキルの時間には、文章読解や思考を要する問題を解く回数を増やし、本校児童の課題である「思考力」をつけることに重点的に取り組んだ。算数の時間には、TTやコース別の少人数による指導で、児童の振り返りをもとに個人のペースやつまづきに合わせ学習に取り組めるように支援を行った。</li> <li>・補充学習を放課後や長期休みに行い、学習のフォローができた。家庭学習についても、「家庭学習の手引き」「自主学習新聞」で必要性を伝えるなどして進んで学習する習慣がついてきている。学校アンケートの中で保護者の満足度が低かったり、家庭での協力が得られない状況があったりするものが課題である。</li> <li>・ICT、ホワイトボード、「めあて」「課題」「ふりかえり」の意識などの指導方法の工夫を行い、「わかる・できる授業」の実現に心がけた。また、3年生以上が「プログラミング学習」を行い、来年度に向けて、取り組みを進めることができた。</li> <li>・各学年で押さえるべき事項の掲示物を作成し、基礎的・基本的事項の定着を図ってきた。学校アンケートからも、自分から学習に取り組む姿勢が意識できていることが伺える。しかし、定着の満足度が低い学年もあり、学力面での課題が見られる。</li> </ul> |   |

|                          |   |   |
|--------------------------|---|---|
| 重点目標 3                   | 健康な心と体の育成<br>～健康な生活を心がけ、体を鍛える子～   | 3 |
| <p>主な方策</p> <p>成果と課題</p> | <p>『健康な心と体の育成』</p> <p>(1) 基本的な生活習慣やルールの定着 (2) 体力の向上<br/>(3) 健康・安全意識の定着</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生活委員会が「あいさつ運動」を行うなど、児童が主体的に挨拶ができるよう取り組んできているが、「誰もが」「分け隔てなく」気持ちのよい挨拶ができるまでには高まっていない。教師が挨拶を積極的に行うとともに、児童が主体的に挨拶ができるような取り組みの工夫を行い、挨拶の習慣化を図りたい。</li> <li>・今年度は、体力向上のために、体育館に掲示する活動例のポスターを増やすだけでなく、5分間運動や体育の授業ですぐに使える活動を紹介するミニ研修を行った。研修したことを実際の授業に取り入れることにより、子どもたちが意欲的に取り組める授業の工夫を行うことができた。また、業間かけ足やなわとびチャレンジなど、全校一斉に取り組んだ。なわとびチャレンジでは、新たに短縄を全校で取り組んだ。個だけでなく、異学年の交流を入れることで子どもたちが意欲的に取り組めるよう工夫した。新体力テストでは、昨年度同様、目標値を記録表に入れたことで、子どもたちが意欲的に取り組むことができた。しかし、個人差が開いている傾向は改善されていない。今年度は、自分の今の体力を見つめなおす機会を設け、今後に活かしてほしいというねらいから、記録表だけでなく、体力テストの結果を個人に返却した。今後は、教師も自分の授業を振り返り、子どもたちが主体的に取り組める課題や場の設定について考える必要がある。</li> <li>・給食後の歯磨きの取り組みを始めて6年が経過した。むし歯の数も減少し、治療する子どもが増えてきた。また、定期的に生活リズムチェックを行い、生活習慣を見直す機会を設けている。「早寝・早起き・朝ごはん」を意識する児童も多くなってきたが、まだまだ課題も残る。今年度は学校保健委員会で保護者に参加してもらい、子どもの健康に対する啓発を行った。子どもだけでなく、保護者の方の意識を高める取り組みを今後も継続して行う必要がある。</li> </ul> |   |

## 2 改善方針

・研修の成果を、目で見える形ではなかなか掴みにくのが現状であり、教師の感覚での子どもの実態把握に留まっている。来年度は、目指す子どもの姿をより焦点化し、抽象的な姿ではなく、より具体的な子どもの姿を共有することによって、仮説・実践・検証していけるように取り組んでいきたい。

・学校アンケートによると、挨拶や規範意識について、児童・保護者と教職員との間に意識の乖離が見られる。児童や保護者の思いや願いがどこにあるかをしっかりとつかむとともに、児童が主体的に挨拶や決まりについて考え、行動していけるよう指導を工夫していく必要がある。

・学力向上に向け、基礎的・基本的事項の定着を図り、保護者と連携して取り組みを推進する必要がある。保護者の協力を得るためにも、家庭学習や自主学習の取り組み方法を知らせるだけでなく、児童のがんばりを発信していくことも必要であると思われる。また、考える力をつけるために、授業形態の研究と実践を推進する必要がある。

・全国体力・運動能力、運動習慣等の調査結果から、本校児童の体力は上昇傾向にある。しかし、子どもたちの放課後の様子を見てみると、外でゲームを行うなど、外遊びをしている児童が少ないように感じる。今後も引き続き、全校で取り組むものはもちろん、体育の授業を通して子どもたちが「体を動かすおもしろさ」に気づく取り組みを進めたい。また、5分間運動や簡単な体育の活動を通信などで知らせたり、家庭へ遊び方を発信したりして、家庭でも外遊びをするように働きかけたい。